

**淺子谷古墳群高尾北支群発掘調査報告
－伊賀市三田地内－**

2012（平成24）年3月

三重県埋蔵文化財センター



写1 浅子谷古墳群から伊賀盆地を望む



写2 浅子谷古墳群調査区全景（上空から・合成）



写3 3号墳玄室（合成）



写4 3号墳全景（正面から）



写5 3号墳玄室床



写6 3号填玄室出土装身具

例　言

- 1 本書は、三重県伊賀市三田に所在する浅子谷（あさこだに）古墳群高尾北支群の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、平成20・21年度国道422号線三田坂バイパス建設事業にともなうもので、調査にかかる費用は三重県県土整備部が負担した。
- 3 発掘調査期間は平成20年9月30日から21年2月27日
平成21年5月26日から21年10月15日
- 4 発掘調査面積は、平成20年度698m²、平成21年度551m²、計1,249m²である。
- 5 発掘調査は、次の体制により実施した。

調査主体：三重県教育委員会

調査担当：三重県埋蔵文化財センター

平成20年度

平成21年度

主幹 田中久生

主幹 田中久生

主査 岡田 実

研修員 星野浩行

発掘調査補助作業受託 株式会社イビソク

安西工業株式会社

- 6 本書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究I課及び活用支援課が行った。
- 7 本書の執筆・編集は田中が行った。
- 8 本書に掲載した遺構の撮影は、発掘調査担当者が行い。遺物の撮影は田中が行った。
- 9 当発掘調査による図面・写真等の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 調査にあたっては、伊賀市教育委員会、三田地区自治連絡協議会、三田地区住民自治協議会、東三田区自治会、三田地区市民センター、伊賀市立三田小学校、中森昇、山崎克巳、貝増統太郎、市田進一、寺岡光三、水口昌也ならびに地元各位の協力を得た。

凡　　例

〈地図類〉

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、伊賀市都市計画図である。
- 2 挿図の方位は全て世界測地系・測地成果2000による座標北で示している。なお、磁針方位は西偏6°30'（平成9年）である。

〈遺構類〉

- 3 土層図は、層の区分を実線で、調査区壁面および採録深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。また、遺構面や層位の大区分となる層については、他の土層線よりも太い線で表現した。
- 4 土層図の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社 1967年初版）を用いた。
- 6 当報告書での遺構は、当遺跡全体で通番としている。
- 7 遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。
- 8 測量ポイントは、章ごとにアルファベット大文字でAから表記している。図版内で補助的に使用したポイントはアルファベット小文字で表記している。

〈遺物類〉

- 9 当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本としている。それ以外の縮尺のものについては、その都度指示している。
- 10 遺物実測図は、古墳ごとに1から番号を付している。古墳以外の遺物は、当遺跡で通番としている。
- 11 遺物観察表は、以下の要領で記載している。
No…挿図掲載番号である。
実測番号…実測段階の登録番号である。
種別…遺物の種類を表す。土師器、須恵器、鉄製品、金属製品など。
器種…遺物の器種を表す。
出土遺構…遺物の出土した遺構や層名を記した。
口径／長さ…遺物の口縁部径または全長を示す。
底部径／最大径…底部径または最大径を示す。
器高／厚さ…遺物の高さまたは厚さを示す。
上記以外の部位を計測した場合は欄内にその場所を表記した。
重量…玉類や金属器の重さを示す。
色調…その遺物の代表となる色調を記載した。表記は前掲『新版標準土色帖』による。
残存度…ある部位を12分割した際の残存度を示し、分数で記した。全体が残っているものは完存と記した。
口は口縁部、頸は頸部、底は底部、台は台部、脚は脚部、端は端部の各部位をそれぞれ示す。
備考…遺物の特徴となる事項を記した。
- 12 挿図と写真図版の遺物番号は、報告書番号と対応している。
- 13 遺物の写真図版は、特に断らない限り縮尺不同である。

目 次

| | | |
|------|----------------|----|
| I | 前言 | 1 |
| II | 位置と環境 | 4 |
| III | 立地と層序 | 6 |
| IV | 1号墳の調査 | 11 |
| V | 2号墳の調査 | 22 |
| VI | 3号墳の調査 | 29 |
| VII | 4号墳・5号墳の調査 | 42 |
| VIII | 6号墳・7号墳・8号墳の調査 | 47 |
| IX | その他の遺構と遺物 | 54 |
| X | まとめ | 59 |

挿図目次

| | | |
|-----|----------------|----|
| 図1 | 遺跡位置図 | 4 |
| 図2 | 遺跡地形図 | 6 |
| 図3 | 調査前地形測量図 | 7 |
| 図4 | 1次調査区土層図 | 8 |
| 図5 | 2次調査区土層図 | 9 |
| 図6 | 調査後地形図 | 10 |
| 図7 | 1号墳ポイント図 | 11 |
| 図8 | 1号墳土層図 | 12 |
| 図9 | 1号墳外護列石実測図 | 13 |
| 図10 | 1号墳石室実測図 | 15 |
| 図11 | 1号墳床面実測図 | 17 |
| 図12 | 1号墳羨道遺物出土状況実測図 | 17 |
| 図13 | 1号墳墳丘土層図 | 18 |
| 図14 | 1号墳石室グリッド配置図 | 18 |
| 図15 | 1号墳石室鉄釘出土状況実測図 | 19 |
| 図16 | 1号墳遺物実測図① | 20 |
| 図17 | 1号墳遺物実測図② | 21 |
| 図18 | 2号墳ポイント図 | 22 |
| 図19 | 2号墳土層図 | 23 |
| 図20 | 2号墳石室土層図 | 24 |
| 図21 | 2号墳石室実測図 | 25 |
| 図22 | 2号墳石室グリッド配置図 | 27 |
| 図23 | 2号墳遺物実測図 | 28 |
| 図24 | 3号墳ポイント図 | 29 |
| 図25 | 3号墳土層図 | 30 |
| 図26 | 3号墳石室入口実測図 | 31 |
| 図27 | 3号墳羨道積石実測図 | 32 |
| 図28 | 3号墳石室実測図① | 33 |
| 図29 | 3号墳石室実測図② | 34 |
| 図30 | 3号墳石室グリッド配置図 | 35 |
| 図31 | 3号墳玉類グリッド毎検出数 | 35 |
| 図32 | 3号墳玄室遺物出土状況実測図 | 36 |
| 図34 | 3号墳玄室遺物実測図① | 37 |
| 図35 | 3号墳玄室遺物実測図② | 38 |
| 図36 | 3号墳玄室遺物実測図③ | 39 |
| 図37 | 3号墳玄室遺物実測図④ | 40 |
| 図38 | 3号墳遺物実測図 | 41 |
| 図39 | 4・5号墳ポイント図 | 42 |
| 図40 | 4号墳実測図 | 43 |
| 図41 | 4号墳遺物実測図 | 44 |
| 図42 | 5号墳実測図 | 45 |
| 図43 | 5号墳遺物実測図 | 46 |
| 図44 | 6・7・8号墳ポイント図 | 47 |
| 図45 | 6号墳実測図 | 48 |
| 図46 | 6号墳遺物実測図 | 49 |
| 図47 | 7号墳実測図 | 51 |
| 図48 | 8号墳実測図 | 52 |
| 図49 | 8号墳遺物実測図 | 53 |
| 図50 | S D 1実測図 | 54 |
| 図51 | S D 1遺物実測図 | 54 |
| 図52 | その他の遺物実測図 | 54 |

表目次

| | | |
|----|-----------|----|
| 表1 | 遺物観察表① | 55 |
| 表2 | 遺物観察表② | 56 |
| 表3 | 古墳一覧表 | 56 |
| 表4 | 3号墳玉類観察表① | 57 |
| 表5 | 3号墳玉類観察表② | 58 |

卷頭カラー図版

- 写1 浅子谷古墳群から伊賀盆地を望む
写2 浅子谷古墳群調査区全景（上空から・合成）
写3 3号墳玄室（合成）
写4 3号墳全景（正面から）
写5 3号墳玄室床
写6 3号墳玄室出土装身具

挿入図版

- 写7 1次調査現地説明会風景 3
写8 三田小学校6年生見学 3
写9 2次調査現地説明会風景 3

写真図版

- 写10 1号・6号・7号・8号全景 61
写11 1号墳調査前 62
写12 1号墳石室土層断面
写13 1号墳玄室
写14 1号墳右側壁
写15 1号墳左側壁
写16 1号墳外護列石
写17 1号墳羨道部遺物出土状況 63
写18 1号墳玄室鉄釘出土状況
写19 1号墳羨道部須恵器出土状況
写20 1号墳羨道部耳環出土状況
写21 1号墳周溝断面（西）
写22 1号墳墳丘断割断面（北）
写23 1号墳墳丘断割断面（西）
写24 1号墳墳丘断割断面（東）
写25 1号墳全景 64
写26 2号墳調査前
写27 2号墳調査風景
写28 2号墳周溝断面（北）
写29 2号墳石室堆積状況
写30 2号墳全景 65
写31 2号墳右側壁
写32 2号墳左側壁
写33 2号墳奥壁 66
写34 2号墳天井
写35 2号墳敷石と袖部
写36 2号墳羨道右側壁
写37 2号墳羨道左側壁
写38 2号墳全景 67
写39 3号墳調査前
写40 3号墳石室入口調査前
写41 3号墳羨道部土層縦断面
写42 3号墳墳丘表土除去後
写43 3号墳全景表土除去後（正面から） 68
写44 3号墳周溝断面（西）
写45 3号墳周溝断面（北）
写46 3号墳羨道部土層横断面

- 写47 3号墳石室内調査前 69
写48 3号墳石室内作業風景
写49 3号墳羨道部石積
写50 3号墳玄室内土師器甕出土状況
写51 3号墳左側壁付近須恵器出土状況
写52 3号墳右側壁付近土師器高杯出土状況
写53 3号墳墳丘掘方確認トレンチ
写54 3号墳墳丘掘方確認トレンチ断面
写55 3号墳玄室全景 70
写56 3号墳玄室床面
写57 3号墳全景（南西から） 71
写58 4・5号墳全景
写59 4号墳石室全景 72
写60 4号墳石室内崩落状況
写61 4号墳石室掘削状況
写62 4号墳奥壁
写63 4号墳石室内遺物出土状況
写64 4号墳右側壁
写65 4号墳左側壁
写66 5号墳全景 73
写67 5号墳奥壁
写68 5号墳遺物出土状況
写69 5号墳右側壁
写70 5号墳左側壁
写71 6号墳石室全景 74
写72 6号墳全景
写73 6号墳遺物出土状況
写74 7号墳石室全景
写75 8号墳天井石
写76 8号墳石室全景
写77 8号墳全景 75
写78 8号墳石室内
写79 溝SD1全景
写80 溝SD1近景
写81 9号墳全景
写82 10号墳全景
写83 1号墳・2号墳出土遺物 76
写84 2号墳・3号墳玄室出土遺物 77
写85 3号墳玄室出土遺物 78
写86 3号墳出土遺物 79
写87 4号墳・5号墳出土遺物 80
写88 6号墳・7号墳・8号墳・
その他出土遺物 81

I 前 言

(1) 調査に至る経過

三重県教育委員会と三重県埋蔵文化財センターでは、国及び県にかかる各種公共事業に関連して、事業予定地内の文化財の確認と保護に努めている。

国道422号三田坂バイパス建設事業地内に所在する浅子谷古墳群に関しては、平成18年度に分布調査を行い、事業地に横穴式石室らしい石積み及び墳丘が3基存在することを確認した。三重県教育委員会と三重県埋蔵文化財センターでは、その結果を三重県国土整備部道路整備課（当時）に報告し、埋蔵文化財の保存のための協議を行った。その結果、次年度以降に古墳群の性格とその広がりを明らかにするための発掘調査を行い、記録保存することとなった。しかし、19年度中に行った近在の市史跡安国寺跡の取扱協議の結果、ルートの変更及び工法の見直しがあり、調査範囲が確定したのは平成20年度に入ってからのことであった。工法見直しの結果、1号墳は本線工事によって、2号・3号墳は本線工事のための仮設桟橋によって影響を受けることが判明し、調査範囲は工事影響範囲約1,200m²となった。従来、調査範囲の確定した年度の次年度に本調査を行うものとしているが、工事着手期限が迫っているということもあり、調査期間を平成20年秋から21年秋までの1年間とし、2年度に分け調査することで協議がまとまった。

(2) 調査の方法

①発掘調査の体制

三重県埋蔵文化財センターでは、発掘調査の土工部門（土木作業、安全管理、調査員・作業員詰所などの仮設、測量）及び調査補助（遺構実測等）などを民間業者に委託している。今回の発掘調査は、調査補助委託として平成20年度は株式会社イビソク、平成21年度は安西工業株式会社に委託して発掘調査を行った。

②調査区の設定

発掘調査に際し、発掘調査対象範囲1,200m²を、3号墳を中心とする斜面下方東側部分約700m²と1・2号墳を中心とする斜面上方西側部分約500m²に

分け、東側部分から調査を行った。また、2年度に渡るため、調査範囲全体に国土座標を利用した4m×4mの小地区を設定した。

③掘削の方法

既知の墳丘については人力により表土を除去した。墳丘以外の範囲はバックホウにより表土を除去した。石室の掘削と遺構検出、遺構掘削は手掘りで行った。1号墳石室の解体はバックホウにより石材を吊り上げ、その後手掘りで行った。

表土掘削中に新たに発見した石室は、発見した時点で人力に切り替えて検出、掘削を行った。

④記録

A 実測図

全体図 20年度に平板による調査前地形測量を行い、1/100の測量図を作成した。

調査後地形測量図は、それぞれの調査終了後に1/100で作成し合成した。

個別遺構図 個別遺構のうち、横穴式石室に関しては、1/20の平面図、立面図、埋没状況の土層断面図を作成した。墳丘及び周溝に関しては、石室を軸として4方向に1/20の土層断面図を作成した。新発見の石室は、石室と認識した時点で石室を軸として平面図、立面図、土層断面図を作成した。遺物出土状況図は原則1/10で作成したが、適宜縮尺を変えていく。なお、1号～3号墳の石室はデジタル図化、4号～8号墳の石室は手実測により図化した。

遺物実測図 遺物実測図は、三重県埋蔵文化財センター調査研究I課及び活用支援課が作成した。

B 写真

遺構写真 20年度調査前と、それぞれの調査後に6×6判モノクロフィルム・カラーポジフィルム、デジタル1眼レフカメラでラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。調査区全景及び個々の古墳については4×5判、35mm判のモノクロフィルム、カラーポジフィルムでの撮影を行った。なお、デジタル1眼レフカメラも適宜使用した。

出土状況写真 遺物の出土状況に関しては、4×5判、35mm判のモノクロフィルム、カラーポジフィル

ム、及びデジタル1眼レフカメラでの撮影を行った。
遺物写真 遺物写真は、4×5判、ブローニー判のモノクロフィルム、カラーポジフィルムでの撮影を行った。

(3) 調査の経過

調査区を2つに分け、20年度、21年度の2カ年で調査することとし、20年度に3号墳周辺、斜面下半部700m²を、21年度に1号墳、2号墳周辺、斜面上半部500m²を調査した。調査前には全体の地形測量を行った。その結果、1～3号墳は円墳であると推定された。1次調査着手前にラジコンヘリによる斜め写真撮影を行った。1次調査は、調査区の北端から重機による表土掘削を行い、南に向けて掘り進んだ。その後、人力で遺構面検出作業を行った。2次調査も同様に北端から掘り進めた。また、この作業に際して、国土座標の方位軸に従い4×4mのグリッドを調査区全体に設定し、古墳施設出土以外の遺物をグリッドごとに取り上げている。

調査の結果、4号墳から10号墳まで新たに7基の小石室墳を発見した。このうち、9・10号墳は工事の影響を受けないため確認したにとどめ、調査後埋め戻して保存することとした。1次、2次調査とも墳丘及び周溝、石室の調査終了後、ラジコンヘリによる斜め写真撮影を行った。その後、破壊される古墳については追加調査を行った。

2号墳・3号墳については、撤去を前提にして着手したが、地元からの工事仮橋撤去後も墳丘が残るようとの要望に応え、調査後石室に土嚢を詰めて工事に備える措置を施した。工事完了後、墳丘の修景が必要になると思われる。

調査後の地形測量は、1次調査はトータルステーションを用いて手作業で行った。2次調査はラジコンヘリによる垂直写真撮影を行い、写真から測量図を作成した。1次、2次調査とも調査終了後、重機により埋め戻しを行った。石室の実測図は、1・2号墳は3次元レーザースキャナーにより作図し、3号墳はデジタル写真から作図した。4号から8号墳は手作業により作図した。

なお、調査報告は調査順ではなく古墳の号数順に従い記述するものとする。

発掘調査は平成20年9月から開始した。作業の経

過は以下のとおりである。

平成20年度（1次調査）
10月3日～8日 調査前測量
10月15日 調査前空中写真撮影
10月22日 表土除去開始
10月29日 3号墳丘表土除去開始
11月5日 G9区で石列検出（4号墳となる）
11月6日 3号羨道部掘削開始
11月14日 F9・10区で石列検出（5号墳となる）
11月20日 初霜柱 最低気温-1.4°C
12月4日 3号玄室掘削開始
12月16日～ 3号玄室床面精査
12月19日 3号石室内写真撮影
12月10日 3号床面埋土洗浄中にガラス玉類発見、
調査後空中写真撮影
1月24日 現地説明会 136名参加
1月26日～ 埋め戻し
2月3日 三田小学校6年生15名見学
平成21年度（2次調査）
6月25日 1号北側から表土除去開始
6月25日 3号床面敷石除去開始
7月13日 1号外護列石検出。
7月15日 6号墳検出。
7月21日 三田小学校6年生13名見学。
7月24日 2号墳羨門西側に外護列石確認。
7月30日 6号床面精査。
7月31日 6号遺物出土状況写真撮影・実測 2号
羨道部より掘削開始。
8月12日 7号、8号、9号、10号墳検出。
8月21日 6号、7号、8号墳 石室実測。
8月24日 1号外護列石実測。
8月26日 2号玄室床面の敷石を精査。6号実測完
了
8月27日 1号石室床面掘下げ、鉄釘検出。
8月31日 1号羨道で土器、耳環出土。
9月3日 2号南斜面墳丘精査。炭化物を含む小土
坑を検出
9月4日 1号石材据え方検出し、写真撮影 8号
実測完了 3号周溝西上端を検出。
9月8日 全体清掃。2号及び全景撮影。
9月9日 空中写真撮影 1号撮影

9月13日 現地説明会 108名

10月15日 埋め戻し完了

(4) 普及公開

発掘調査に関する情報は三重県埋蔵文化財センターホームページにて適宜公開した。また、1次調査は平成21年1月24日に、2次調査は同年9月13日に現地説明会を行い、それぞれ136名、108名の参加を得た。平成21年2月22日には三田地区文化祭において展示、解説を行った。

(5) 文化財保護法による諸手続き

文化財保護法等にかかる諸通知は、以下により行っている。

- ・遺跡発見の届出 文化財保護法第97条第1項（県教育長宛）
平成21年10月27日付け 教理第286号
- ・三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長宛）
平成20年9月19日付け 賀建第445号及び平成20年9月26日付け 教委第12-4055号
平成21年4月3日付け 賀建第56号及び平成21年4月8日付け 教委第12-4001号
- ・文化財保護法第99条第1項（県教育長宛）
平成21年6月3日付け 教理第108号
平成20年10月14日 教理第301号
- ・遺失物法による文化財発見・届出通知（伊賀警察署長宛）
平成21年2月16日付け 教委第12-4430号 12箱 9.22kg
平成21年11月12日付け 教委第12-4411号 16箱 16.45kg



写7 1次調査現地説明会風景



写8 三田小学校6年生見学



写9 2次調査現地説明会風景

II 位置と環境

浅子谷古墳群は、三重県伊賀市三田字高尾に所在する。標高は240～250mほどで、伊賀盆地を流れる木津川周辺の水田とは100m余りの比高差がある。

現在の三重滋賀県境、伊賀盆地北部を東西に延びる丘陵は、今から200万年前に笠置山地等の隆起活動により発生した断層が形成したものである^①。この断層活動は北側の花崗岩層が南側の洪積層に乗り上げた、いわゆる逆断層である。各所に断層崖を見ることができる。

この丘陵を木津川支流の柘植川が浸食し河岸段丘地形となった。さらに、この柘植川北岸の段丘上を流れりいくつもの小河川によって開析され、小さな扇状地や開析谷を形成した。遺跡や古墳群はこうしてできた丘陵斜面から段丘平面に多く営まれている。

旧石器・縄文時代 周辺では旧石器時代の遺跡は報告されておらず判然としない。縄文時代になると

旧石器・縄文時代 周辺では旧石器時代の遺跡は報告されておらず判然としない。縄文時代になると

柘植川南岸の小芝遺跡や高野遺跡において中期から後期の土器及び遺構が確認されている。今回の調査でも後期の土器片が一点検出され、今後の調査が待たれるが、その足跡は北岸にも広がっているものと考えられる。

弥生時代 服部川と柘植川の合流点南東の沖積地に前期の壺を出土した小芝遺跡がありその北東1kmには中期から後期の方形周溝墓などが検出された印代東方遺跡群、対岸の台地上には中期から後期にかけての三田遺跡が所在する。2つの川の合流点付近に弥生期の遺跡が見られることは、米栽培を行うに適した沖積地に集落が形成されたゆえであろう。

古墳時代 枝植川中流域北岸には三重県最古の古墳がある。当地より約5km上流の旧伊賀町地内にある東山古墳である。4世紀前半に造られた楕円墳で、四獸鏡を出土している。この東山古墳を端緒として

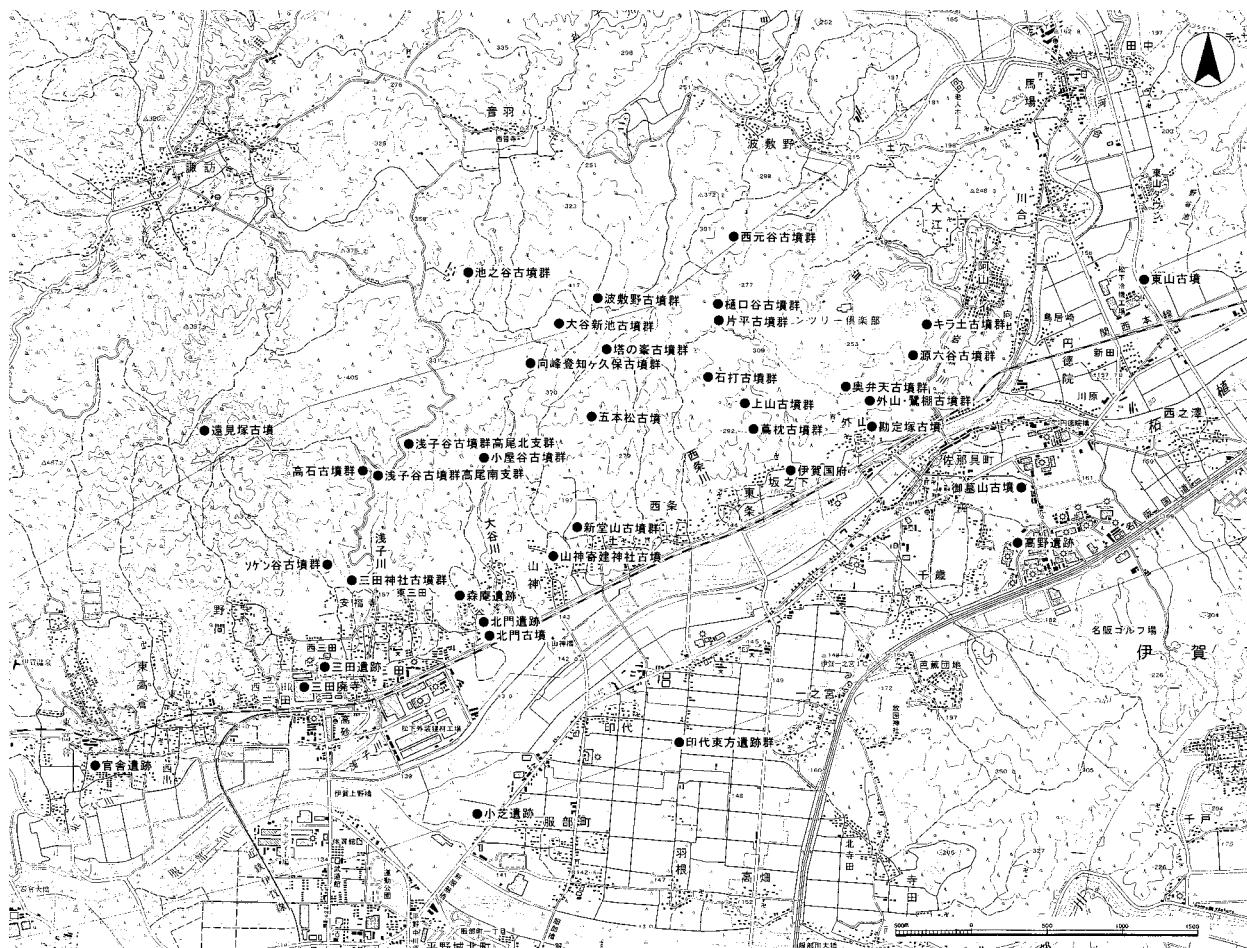


図1 遺跡位置図 (1:50,000 国土地理院 1:25,000 「上野」・「島ヶ原」)

数多くの古墳が造営される。浅子川の東隣に山神寄立神社古墳が築かれる。柘植川の平野部をバックにして北の段丘上に墓域を営んだものであろう。中期には4基の前方後円墳を主とする外山・鷺棚古墳群が営まれる。また、柘植川左岸となるが、この流域の盟主墳である御墓山古墳も所在する。全長188mを測る三重県最大の前方後円墳である。このように古墳時代前・中期には平野部または平野を見下ろす段丘面に多く築かれた。後期になり丘陵上にはキラ土古墳が築かれる。しかし、群集墳と呼ばれるものは丘陵山腹など山中に多い。三田地区東隣の集落、大谷地区を流れる大谷川をさかのぼると向峰登知ヶ久保古墳群がある。なかでも向峰登知ヶ久保古墳11号墳は石室内高3.5mあまりを計る大きな石室を持つ^②。さらにさかのぼると大谷新池古墳群があり、分水嶺を越えて波敷野古墳群に至る。波敷野古墳群は旧阿山町域であるが丘陵の開析谷をさかのぼり山中深くの斜面に営まれた古墳群である。7世紀前半には巨石を用いた横穴式石室を有する勘定塚古墳が築かれ、この地域の最後の盟主墳となった。

飛鳥・奈良時代

伊賀盆地4郡にそれぞれ1寺が置かれた。当地域の属する阿挾郡はその中でも早く、飛鳥時代とも推定される三田廃寺が7世紀半ばには姿を現している。

また、古代の基幹道路である東海道がこの地域を通っており、和銅4年に新居駅が置かれた。これは現在の新居小学校付近にある官舎遺跡が相当と比定されている。ここから東に向かい、伊賀国府を経て加太峠を越え鈴鹿関に至る古代主要官道である。

これらの寺院や道路を支えられるだけの経済基盤、文化基盤をこの地は有していたといえる。

〔註〕

① 磯部 克 『三重県地質図集』三重県高等学校理科教育研究会地学部会 1987

② 市田進一氏(三重県文化財パトロール員、伊賀市文化財保護審議会委員)のご教示による。

参考文献 伊賀市『上野市史 考古編』 2005

III 立地と層序

浅子谷古墳群高雄北支群の立地と層序

浅子谷古墳群高雄北支群は、浅子川を平野部から約2km北上した最上流域の緩斜面に立地する。調査地の標高は240mから255m余りまでで、調査区内の比高差は約15mほどである。浅子川は古墳群の北と南を流れしており調査地の南東で合流する。この2つの沢が造りだした小さな扇状地が、古墳群が所在する緩斜面と考えられる。調査区は四方とも傾斜のきつい斜面に囲まれており、古墳を造営できる空間は相当制約されている。当地は花崗岩盤を基盤とした

隆起断層活動により形成されており、所々に花崗岩の露頭が確認できる。花崗岩は古墳の石室にも使用されているが、風化が進んでいる石材もあり、形状をとどめないようなものは本書内図中に網掛けでその範囲を表示している。この花崗岩盤の上に橙色ないしは褐色系の山砂が、西方の傾斜上位から流出し緩斜面に堆積しているものとみてよい。古墳群はこの堆積土の範囲内で構築されており、1号墳の奥壁北側で花崗岩盤を確認したにとどまる。

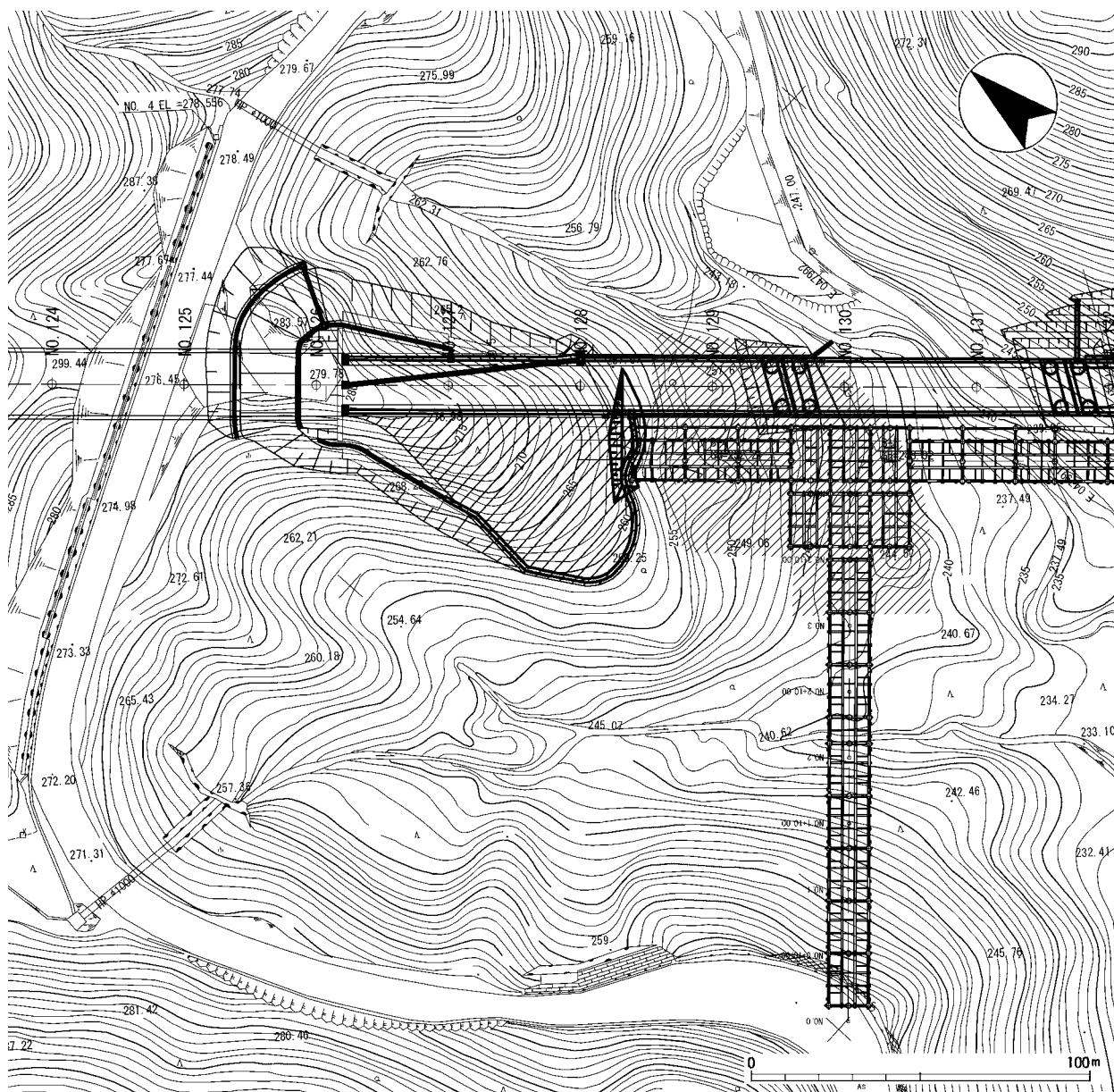




図3 調査前地形測量図 (1:200)

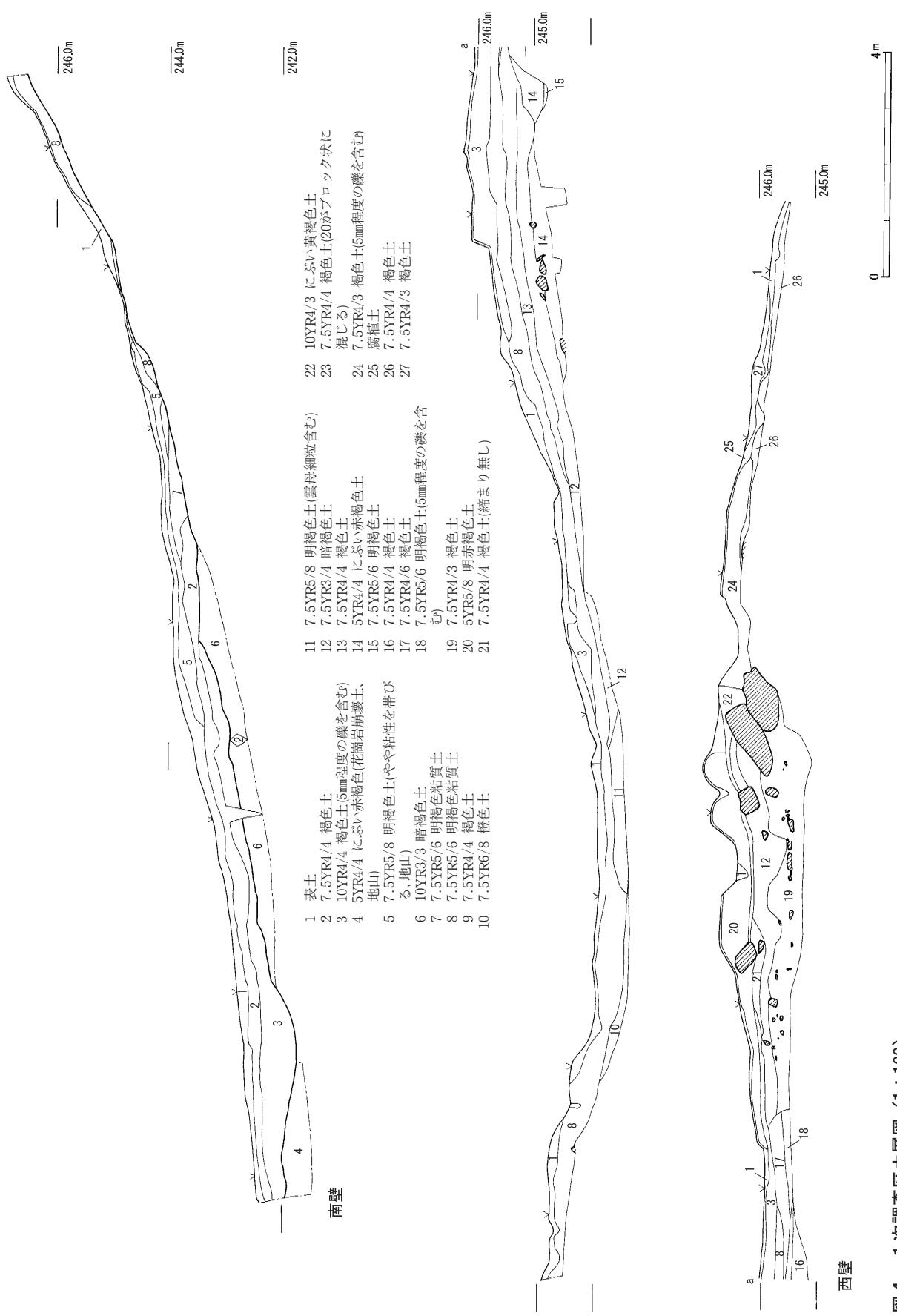


図4 1次調査区土層図 (1:100)

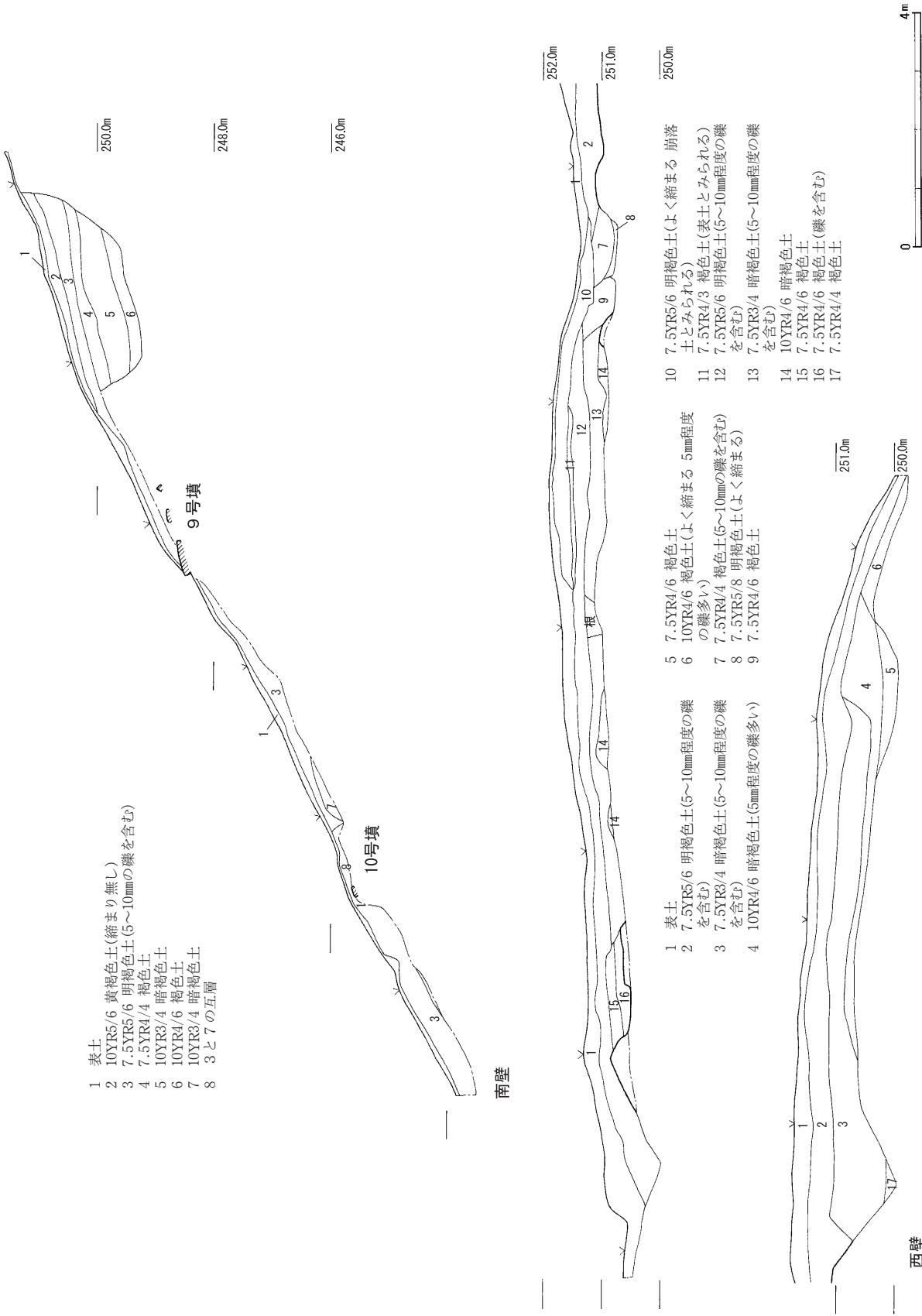


図5 2次調査区土層図 (1:100)

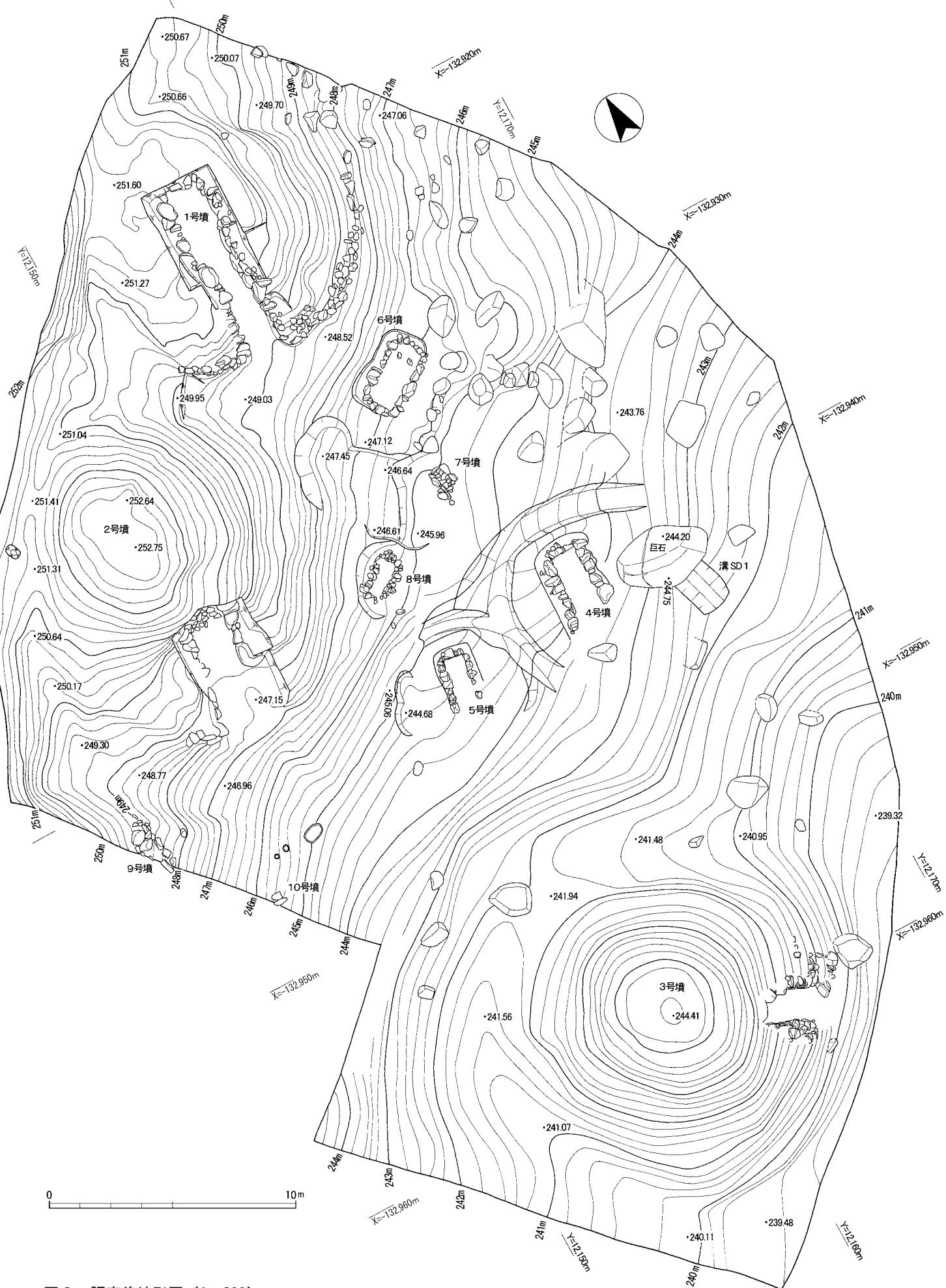


図6 調査後地形図 (1:200)

IV 1号墳の調査

浅子谷1号墳の調査 1号墳は石室天井石及び側壁の石材が取り除かれ、または崩落しており、石材が露出していた。横穴式石室墳であるが、遺存状況はよくないとみられた。

墳丘の掘削 1号墳は道路本線下になるため、破壊を前提とし、墳丘や石室の一部を解体することも視野に調査に着手した。石室方向に沿って十字に土層観察土手を設定し、墳丘上部から裾に向かって掘削を進め、周溝の検出を行った。東半部は斜面下方向に拡がるため、周溝の両端は開放しているものと考えられた。周溝の掘削は手作業で行ったが、抜根、排土など可能な限り重機を活用した。

横穴式石室の掘削 墳丘上部の表土掘削を進めながら、石室の周囲に任意の調査坑を設定し掘削を進めた。天井石は残っておらず、側壁の石材も相当数崩落していることが判明した。そのため、石室内に崩落した石材を撤去することを考え、玄室部分から掘

り下げ、羨道部へと進めることで作業足場などを確保することとした。玄室部分までは重機は届かないため、石材の撤去にチェーンブロックを使用した。石材の搬出には重機も利用した。

玄室をある程度掘り下げた段階で奥壁、左側壁は予想以上に状態がよく最上部まで残っていること、右側壁は相当崩落していることが判明した。玄室に崩落した石材をほぼ撤去した段階で羨道部の掘削にも着手した。石室床面近くと思われるところまで掘り下げて、石室内に40cmグリッドを設定し、堆積土を採取して洗浄することとした。

石室及び外護列石の実測は3次元スキャナーにより行った。出土状況図、土層図は適宜作成している。

墳丘の調査 墳丘の北東部から北西部にかけて周溝を検出した。周溝は地山を削り込んで作られており、墳丘の西半部を円形に巡り、西部で2号墳と共有する。また、墳丘の南裾部と東裾部からは外護列石を

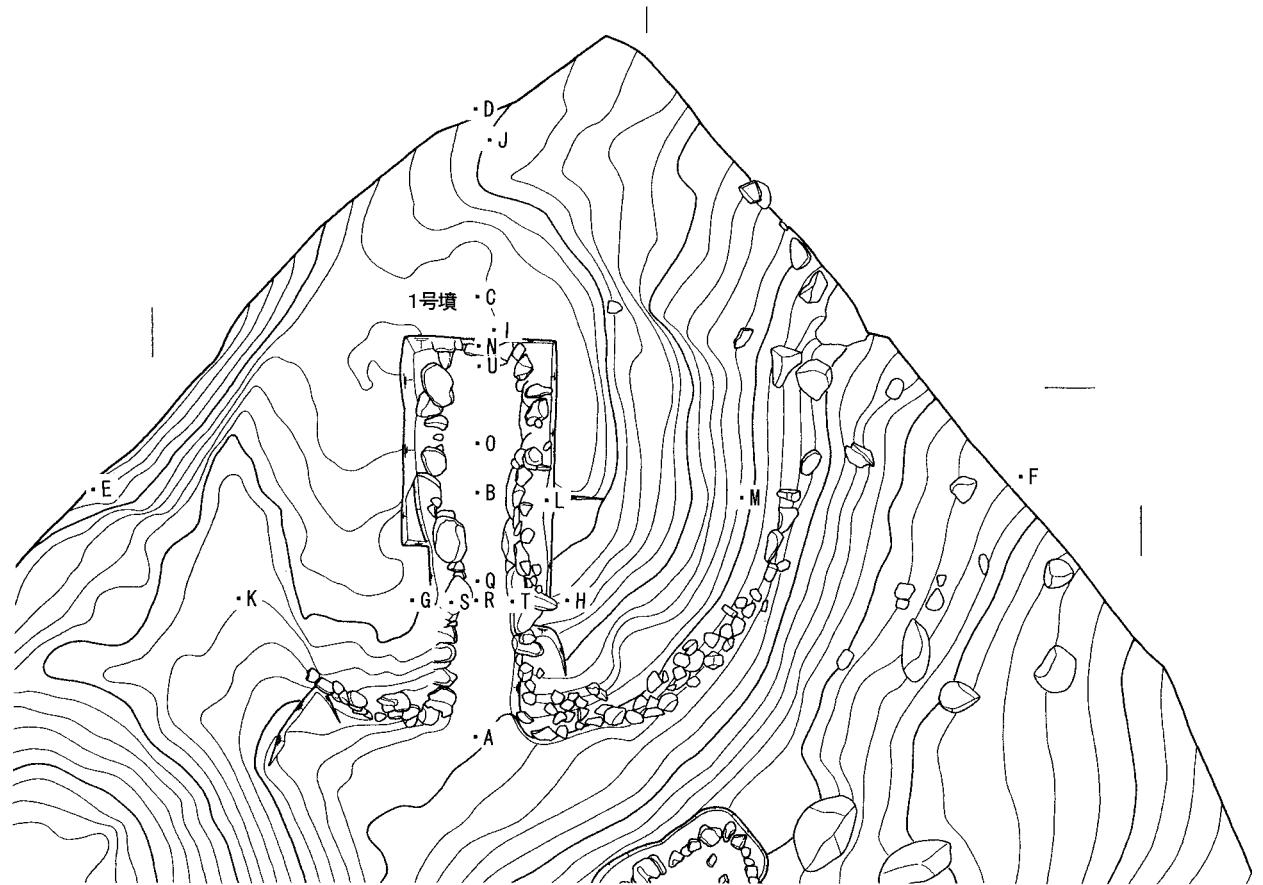


図7 1号墳ポイント図

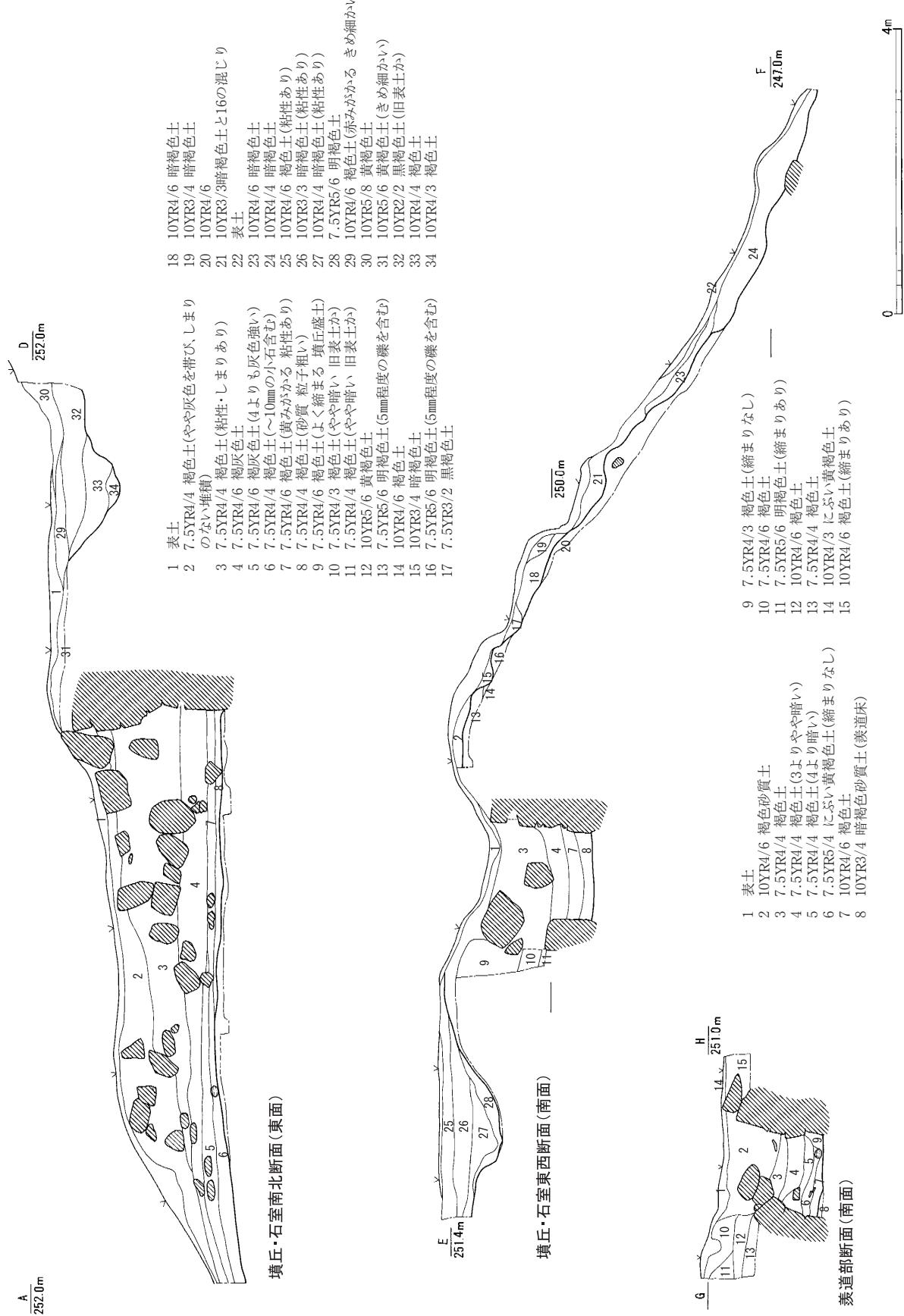


図8 1号墳土層図 (1 : 80)



図9 1号墳外護列石実測図 (1:60)

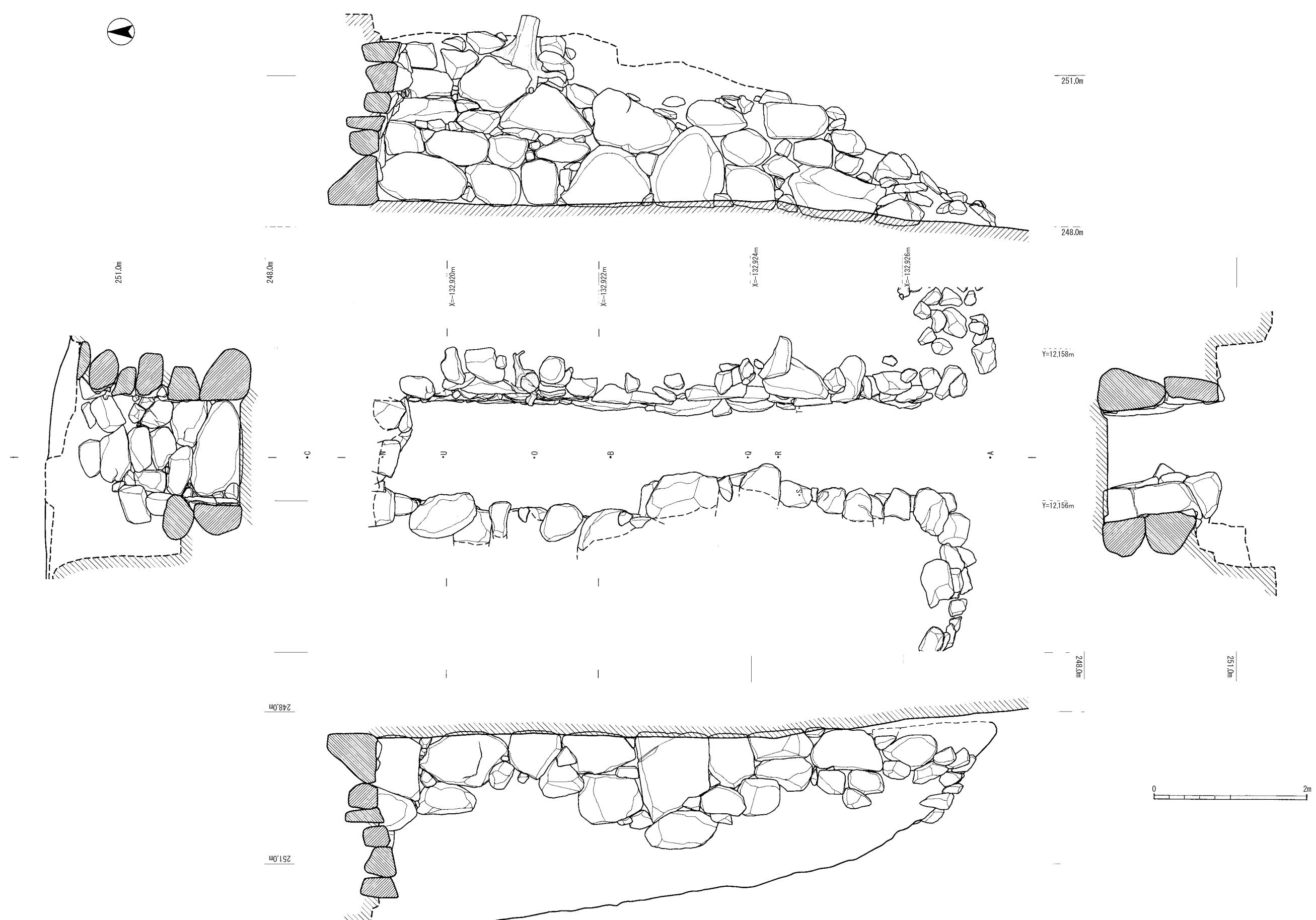


図10 1号墳石室実測図 (1:50)

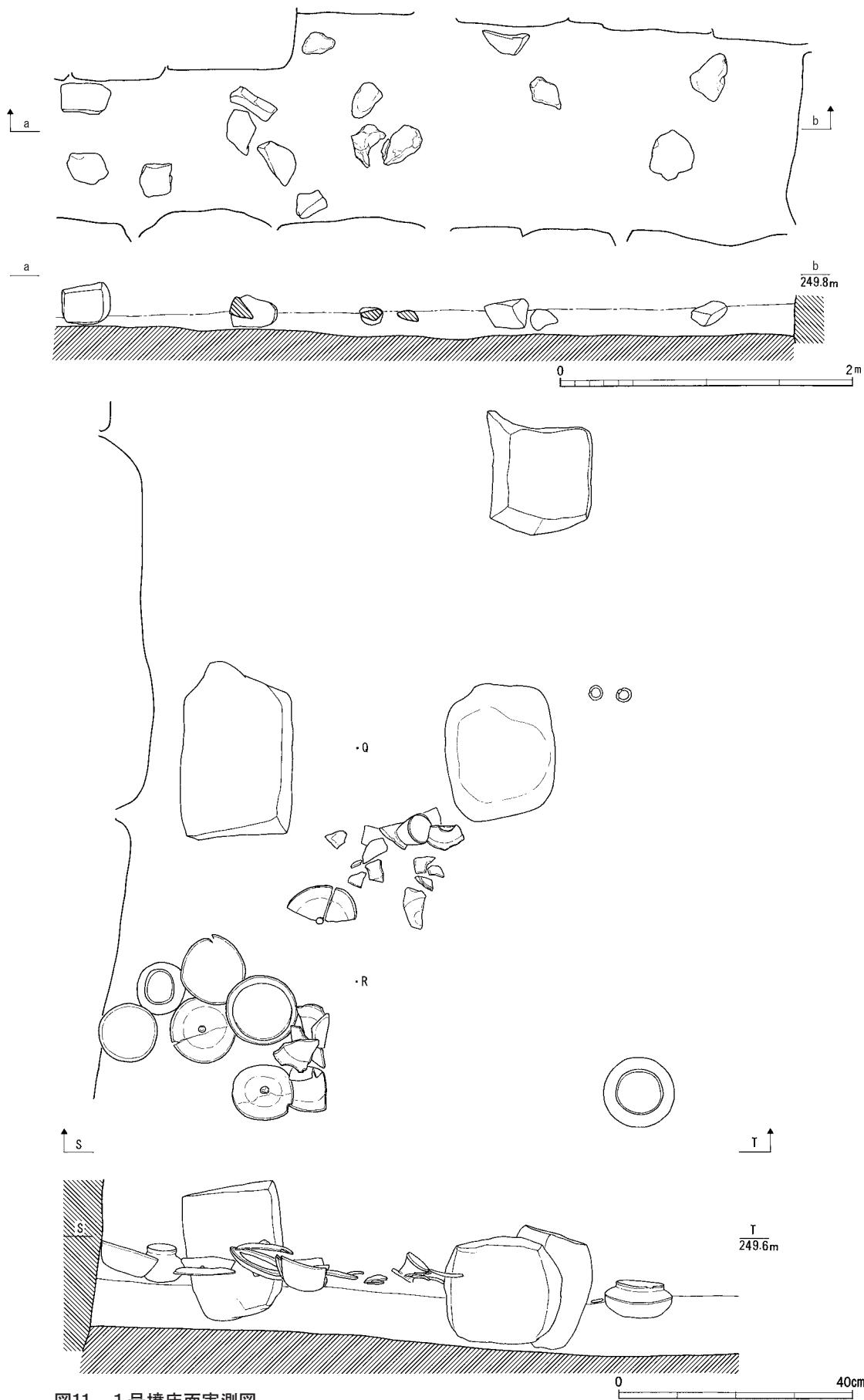
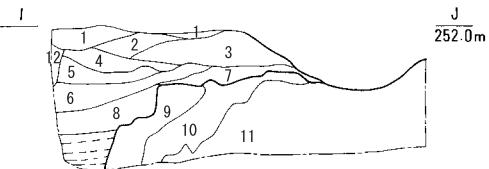


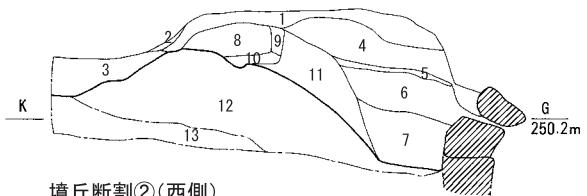
図11 1号墳床面実測図

図12 1号墳羨道遺物出土状況実測図 (1:10)



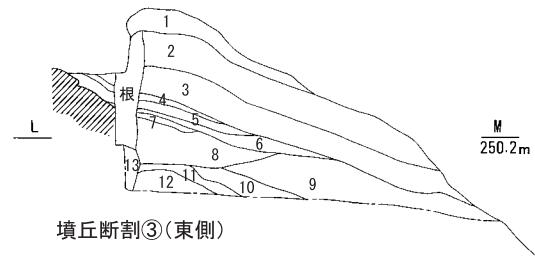
墳丘断割①(北側)

- 1 10YR5/6 黄褐色砂質土(縮まりなし)
- 2 10YR3/3 暗褐色土(腐植土 根か)
- 3 10YR5/6 黄褐色土(縮まりあり)
- 4 7.5YR5/8 明褐色土(縮まりあり)
- 5 7.5YR5/6 明褐色土(縮まりあり)
- 6 10YR4/6 褐色土
- 7 10YR5/6 黄褐色土(縮まりあり)
- 8 10YR4/6 褐色土と10YR3/3 暗褐色土の互層
- 9 10YR4/6 褐色土(8より赤味が強い 花崗岩バイラン)
- 10 7.5GY6/1 緑灰色土と10YR5/6黄褐色土の互層
- 11 7.5YR5/8 明褐色土
- 12 10YR4/6 褐色土(やや赤味が強い 縮まりなし)



墳丘断割②(西側)

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 10YR5/6 黄褐色土(縮まりなし) | 8 7.5YR5/6 明褐色土(花崗岩粒を含む) |
| 2 7.5YR4/4 褐色土(縮まりなし) | 9 = 1 |
| 3 7.5YR4/4 褐色土(白色粒を含む よく縮まる) | 10 7.5YR3/2 黒褐色土 |
| 4 7.5YR5/6 明褐色土(よく縮まる) | 11 = 8 |
| 5 7.5YR4/4 褐色土 | 12 7.5YR5/6 明褐色土(花崗岩バ |
| 6 7.5YR4/6 褐色土(白色粒を含む よく縮まる) | 13 7.5YR4/6 褐色土(花崗岩バイ |
| 7 7.5YR4/4 褐色粘質土 | ラン土) |



- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 10YR6/8 明黄褐色土 | 7 = 5 |
| 2 10YR4/6 褐色土(花崗岩粒多い 縮まり弱い) | 8 7.5YR4/4 褐色土(やや暗い) |
| 3 7.5YR5/6 明褐色土(花崗岩粒多い 縮まり弱い) | 9 10YR5/8 黄褐色土(粘性あり) |
| 4 10YR4/6 褐色砂質土(きめ粗く 粘性低い) | 10 11と7.5YR4/6の互層(粘性あり) |
| 5 7.5YR5/6 明褐色土(粘性あり) | 11 10YR3/3 暗褐色土(粘性あり 旧表土とみられる) |
| 6 = 4 | 12 10YR4/6 褐色土(縮まり弱い) |
| | 13 7.5YR4/4 褐色土(墓坑埋土) |

0 4m

図13 1号墳墳丘土層図 (1:40)

検出した。外護列石は石室入口から西方向に3m、東方向に8mほど確認した。ほぼ円形にめぐらされており、墳丘西部及び北部の周溝につながる。このことから、墳形は斜面下方にやや張り出しているがほぼ円形である。西側周溝底と東外護列石外周を結んだ直径は11mほどを測る。周溝内からは当該期の遺物はほとんど出土しなかった。外護列石は石室入口両側付近には3段程度積まれていたものとみられるが、回り込むに従いその数を減らしていく。全体にきちんと積んでいる印象は受けず、墳丘裾に石を並べているように見える。

石室の調査 石室入口付近の床面と奥壁上端は1.8mほどの差がある。これに天井石を置き盛土で覆うとおよそ1m余り高くなるであろう。

横穴式石室は右片袖式で、主軸は真北にのっており真南に開口している。規模は玄室の長さ3.4m、幅1.4m、高さは遺存状況のよい左側壁で2.1mを測る。玄門から石室入口までは4.3mを測る。玄室の基底石には長さ1m前後の石材を多用しているが、一部はやや小さめの石材を2段に積むことで高さを合わせ、目地を揃えている。奥壁の基底石に長さ1.3mの石材

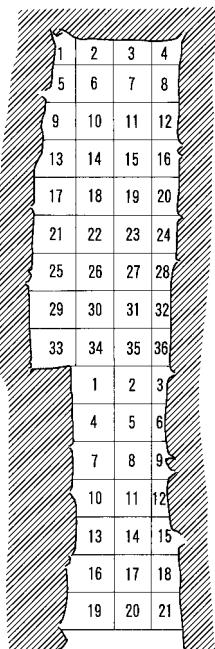


図14 1号墳石室グリッド配置図

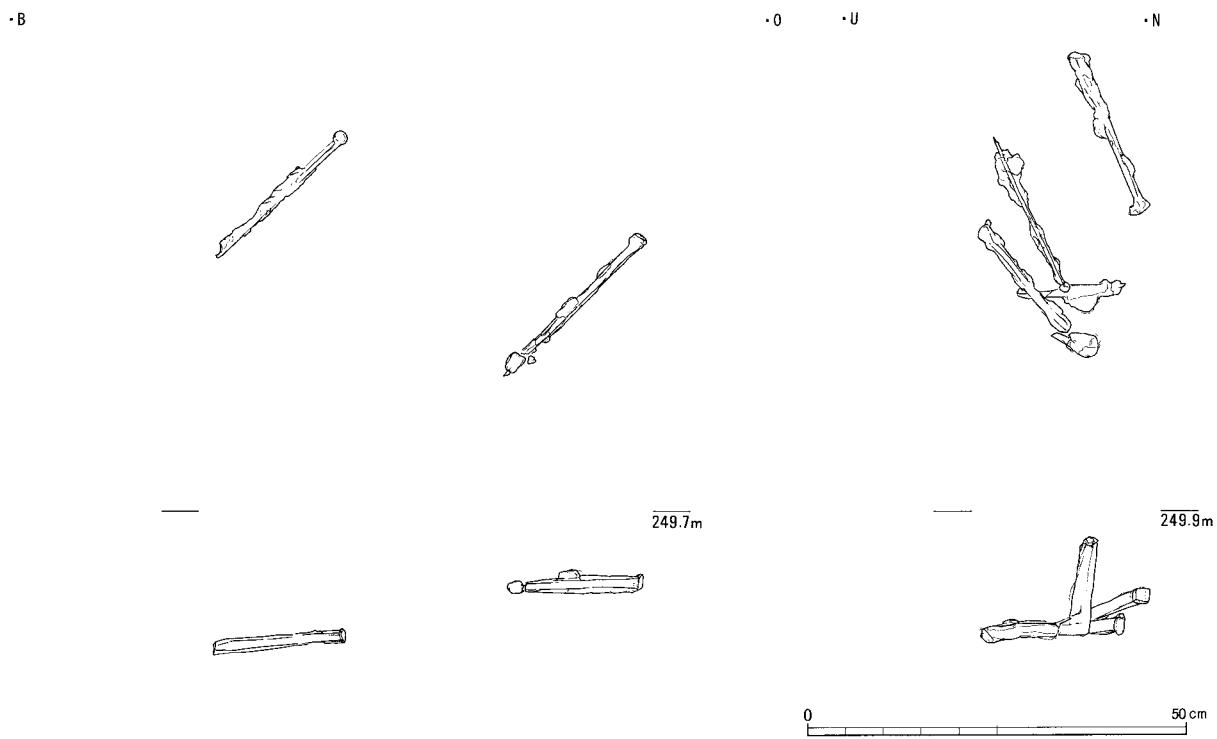


図15 1号墳石室鉄釘出土状況実測図 (1:10)

を置き鏡石とし、その上に2石をおいて目地を通している。2段目以降は崩れているため明瞭でないが、所々に1m前後の石材が配されており、目地通りを乱している。玄門には高さ1m余りの石材を立て、柱としている。左側壁にも同様の意図が見受けられる。

出土遺物 遺物は石室内から棺に使われたとみられる鉄釘が出土した。また、羨道から須恵器、耳環などが出でた。1~11、20,21は羨道部から出土した遺物である。12~19は玄室から出土した鉄釘である。

須恵器 1から4は杯蓋である。外面に降灰による小さな黒斑が付着している。口径が9.2cmから9.3cmとよく揃う。短いかえりを持ち、天井部が比較的丸いもの(3・4)と扁平なもの(1・2)とがある。5から8は杯身である。口径が10.6cmから10.9cmである。いずれも底部外面はヘラ切り無調整である。図の上下でセットになるものと考えている。9は小壺である。外面に自然釉や黒斑が付着している。体下半外面はヘラ切り無調整で、器壁も厚く雑な印象を受ける。10は壺である。体部中央に丸頭工具による沈線がめぐらされている。11は平瓶である。底部外面下半1/3はヘラケズリ、それ以上はナデで仕上

げる。頸部に1条の内面底部付近に自然釉の付着がみられる。

金属器 20・21は耳環である。銅芯銀地鍍金で断面楕円形を呈す。12~19は鉄釘である。断面がほぼ方形であるが、やや長方形になるもの(13)がある。頭部形状は18を除いて截頭角錐である。18は箱株頭でシャープな印象を受ける。15から17は接着した状態で出土した。棺に打たれていた状態とみられる。場所は底部角と考えられる。

小結 1号墳は、天井石は除去されていたものの奥壁、左側壁の遺存状況は良く石室高さがほぼ推定できた。右側壁の一部は石室内に崩落していたものとみられる。築造時期は羨道出土須恵器から7世紀前葉と考えられる。

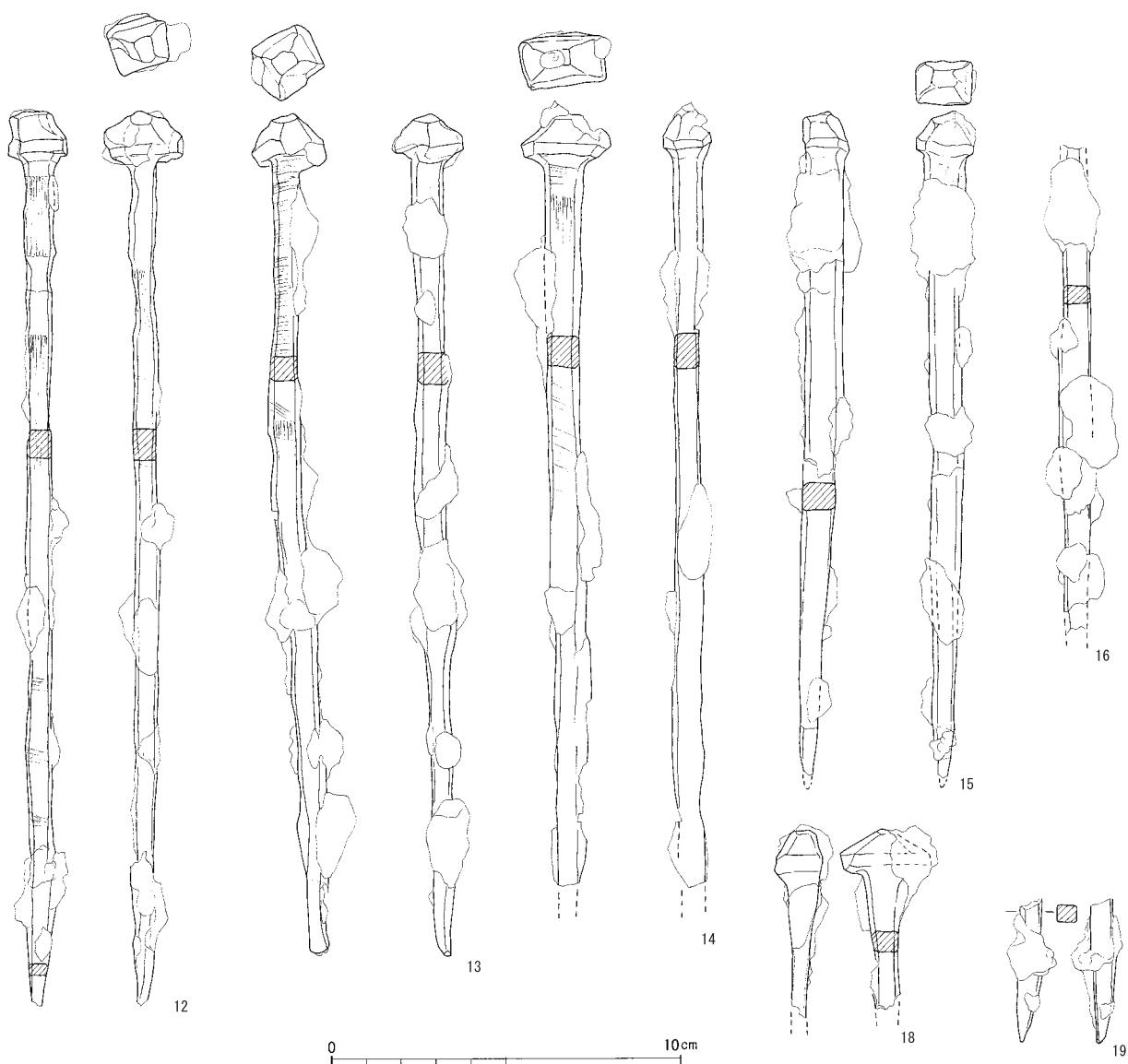
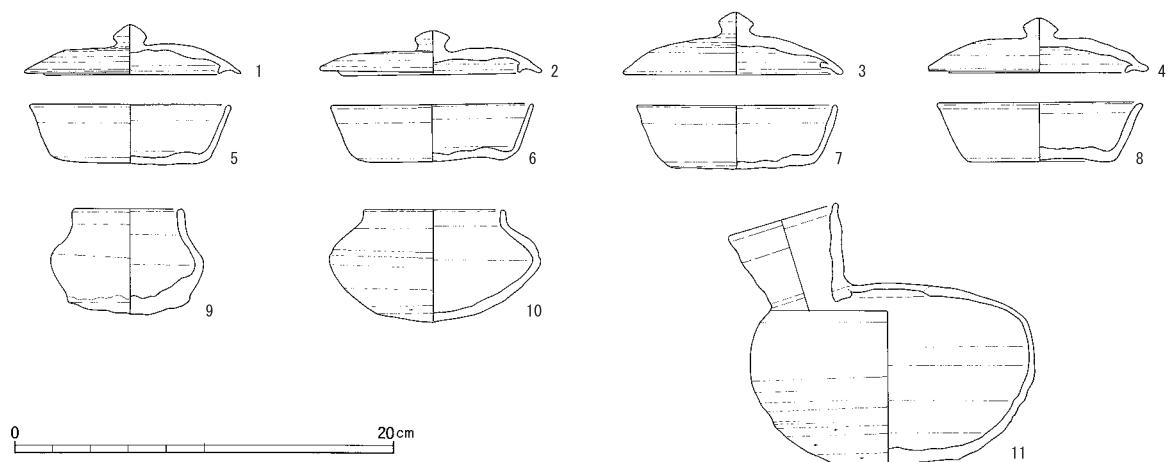


図16 1号墳遺物実測図① (1:4、1:2)

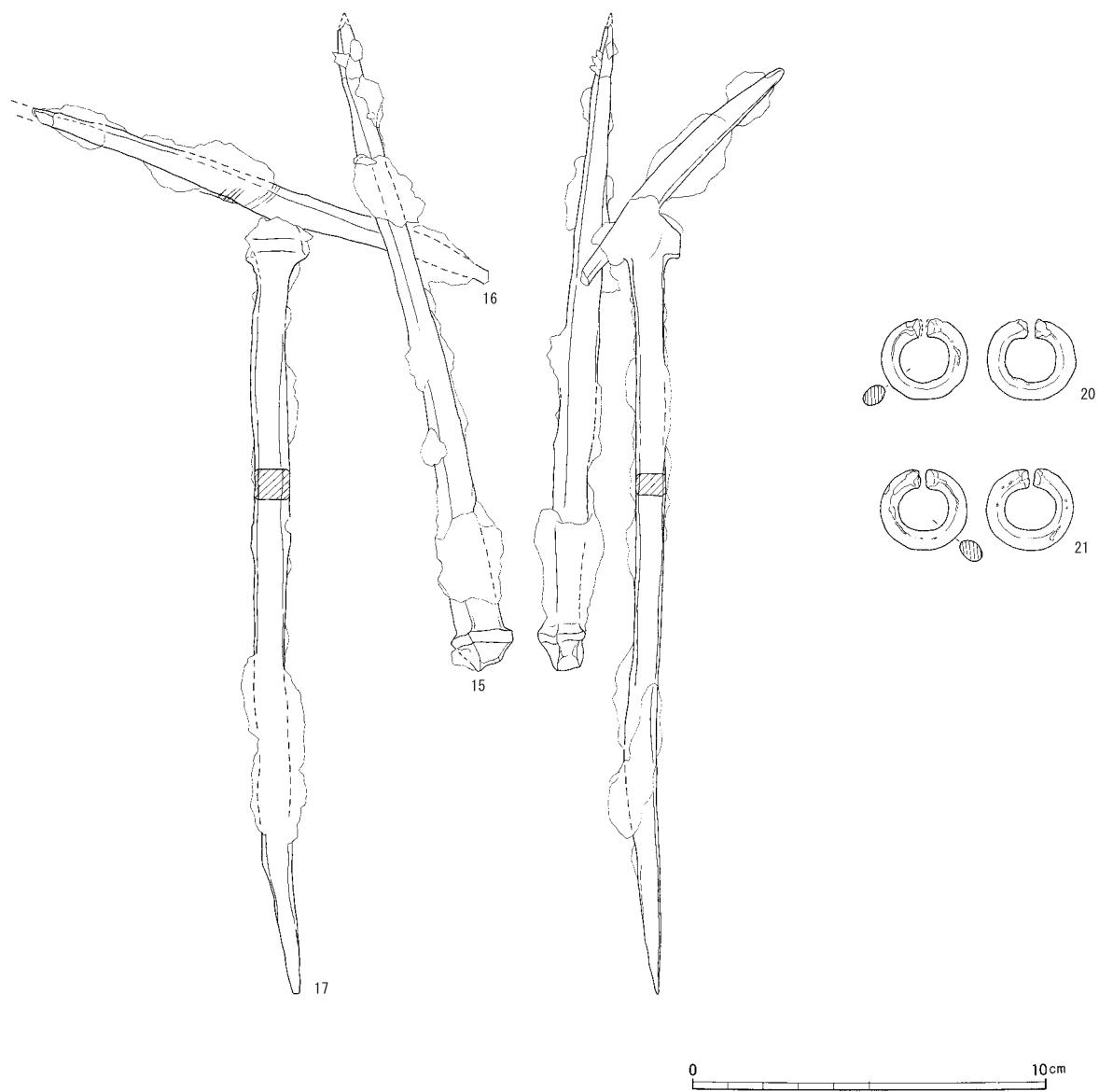


図17 1号墳遺物実測図② (1:2)

V 2号墳の調査

浅子谷2号墳の調査 2号墳は石室が大きく開口しており、人間が立って出入りできる状況であった。そのため、横穴式石室墳であることは明白であった。玄室の天井石は残っていたが、羨道の天井石はすべて除去されていて、何個かが崩落していた。

墳丘及び周溝の検出と羨道の掘り下げを同時に行つた。羨道の掘削がほぼ終了した後、石室の掘削に着手した。

墳丘の掘削 2号墳は地元要望により工事後墳丘を残すこととなつたため、墳丘の構築方法などは調査終了段階でトレンチを設定し確認することとした。墳丘には石室方向とそれに直交するように十字に土層観察ベルトを残して掘削した。このベルトは周溝まで延長した。墳丘以外の掘削には可能な限り重機を利用し、期間短縮を図った。

横穴式石室の掘削 石室中央と羨道中央で「キ」字型になるよう土層観察ベルトを設定して掘削した。

羨道から掘り進め、石室内部へと進入した。石室床面近くと思われるところまで掘り下げる、石室内に40cmグリッドを設定し、グリッドごとに堆積土を採取して洗浄することとした。床面には奥壁付近の一部を除いて敷石が施されていた。調査終了後、墳丘東側にトレンチを設定し、墓坑の調査と盛土状況の確認を行つた。

墳丘の調査 表土下10cm程度で盛土とみられる褐色土を検出した。1号墳同様に西半部から周溝を検出した。周溝は石室入り口南から西へ回り込み墳丘北で1号墳周溝と共有して開放される。北西部では調査区外となる。西側で幅3m、深さ1mを測る。2号墳では外護列石は石室入り口西側にわずかに認められたのみで、他の場所からは検出されなかつた。これは、羨道左袖が崩落しており伴つて墳丘も影響を受けているものとみられる。3号墳周溝内にあつた石はここから崩落したものかもしれない。平面形

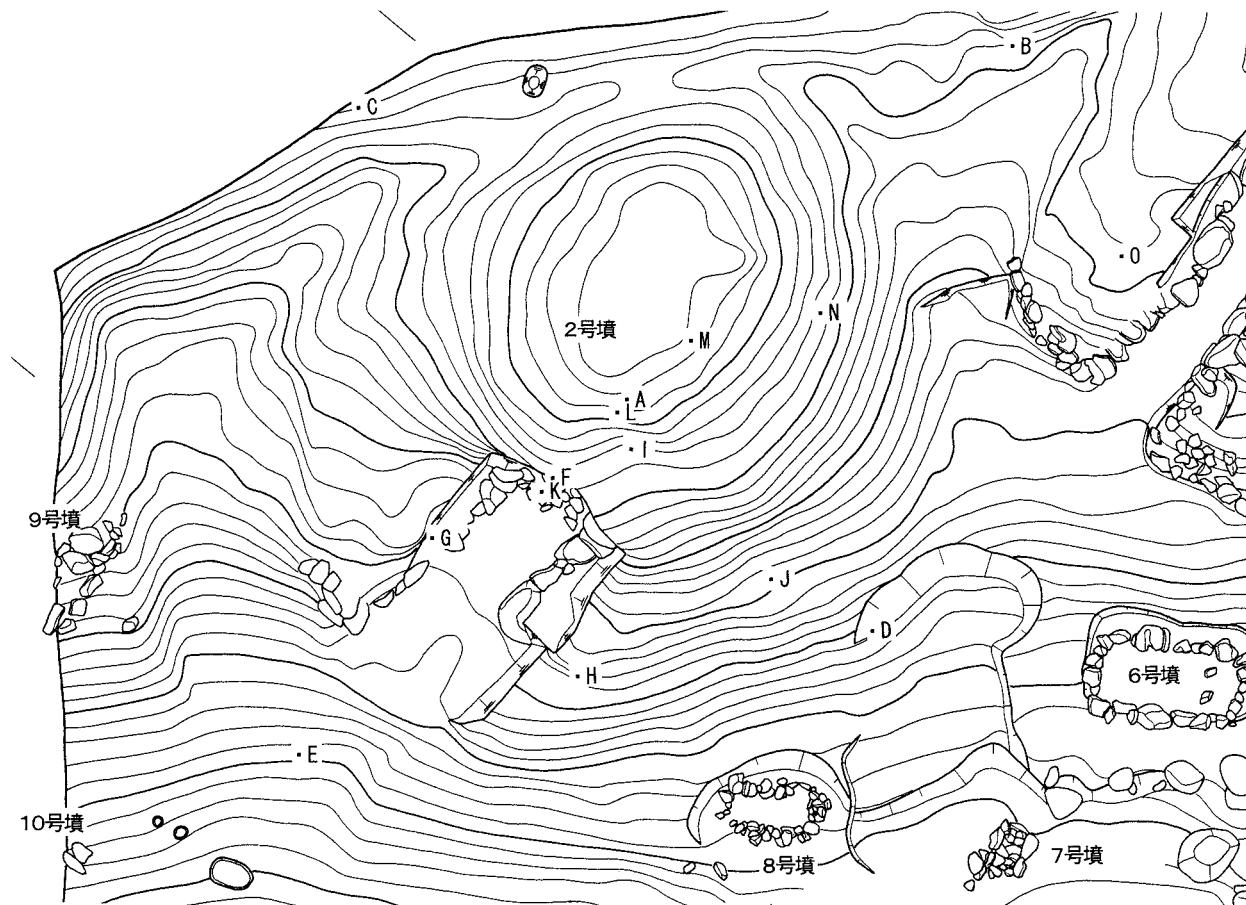


図18 2号墳ポイント図

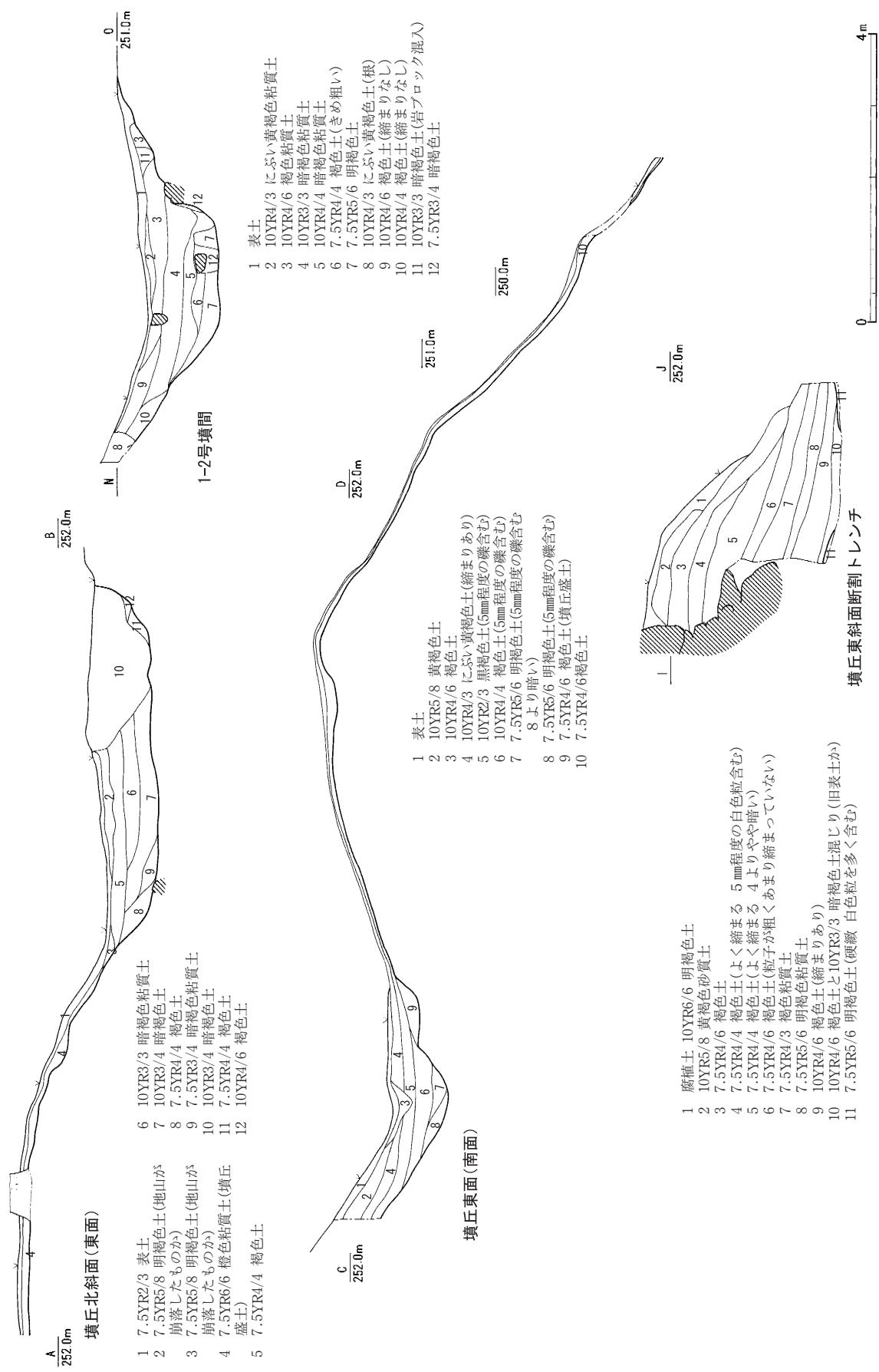
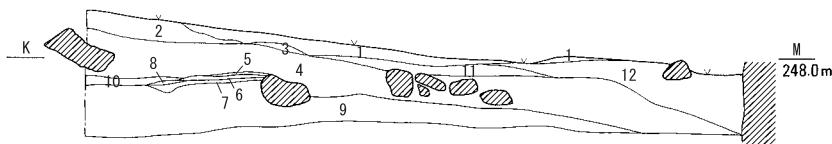
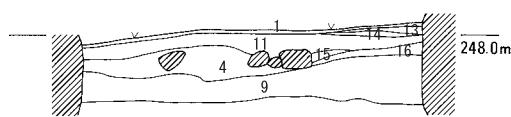


図19 2号墳土層図 (1 : 80)

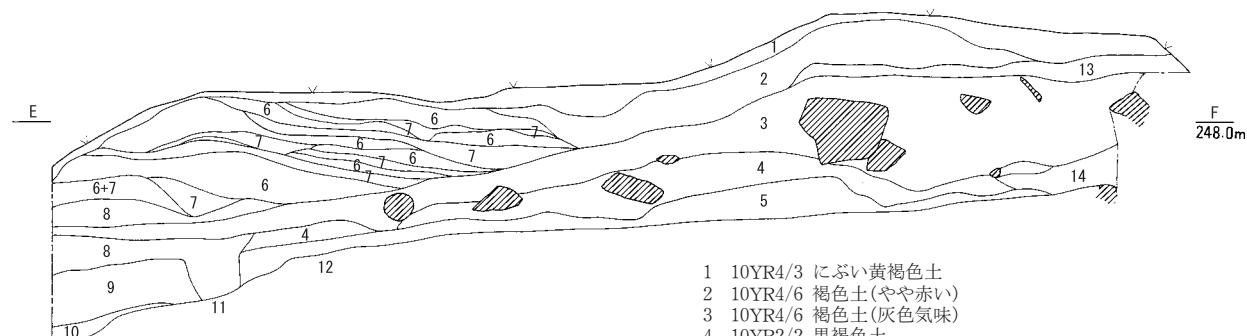


石室縦断面(東面)



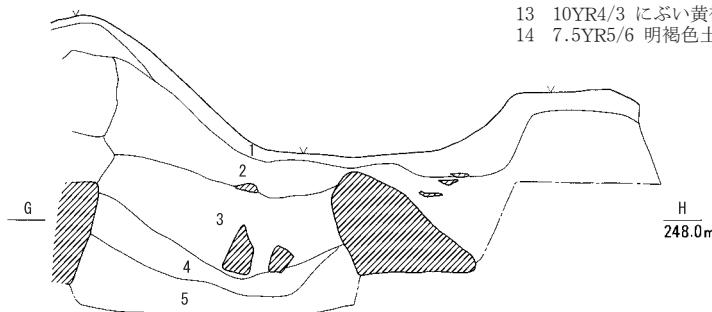
石室横断面(南面)

- 1 7.5YR3/2 黒褐色粘質土(表土)
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土
- 3 2と4の互層
- 4 7.5YR5/6 明褐色土
- 5 10YR3/3 暗褐色粘質土(焼土粒、炭混じり)
- 6 7.5YR5/6 明褐色土(4より淡い)
- 7 10YR2/3 暗褐色土(炭混じり)
- 8 7.5YR5/6 明褐色土
- 9 7.5YR5/6 明褐色土
- 10 7.5YR4/4 褐色土
- 11 7.5YR4/8 明褐色土(花崗岩バイラン土)
- 12 10YR4/6 褐色土
- 13 10YR4/6 褐色土
- 14 10YR5/4 にぶい黄褐色土
- 15 10YR5/8 黄褐色土
- 16 7.5YR4/4 褐色土



羨道部縦断面(東面)

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 2 10YR4/6 褐色土(やや赤い)
- 3 10YR4/6 褐色土(灰色氣味)
- 4 10YR2/2 黒褐色土
- 5 7.5YR4/3 褐色土(やや暗い)
- 6 7.5YR5/6 明褐色土
- 7 7.5YR4/4 褐色土
- 8 10YR3/3 暗褐色粘質土
- 9 7.5YR4/4 褐色粘質土
- 10 10YR4/4 褐色粘質土
- 11 7.5YR5/6 明褐色粘質土(地山)
- 12 7.5YR4/6 褐色土(地山)
- 13 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 14 7.5YR5/6 明褐色土



羨道部横断面(南面)



図20 2号墳石室土層図 (1:80)

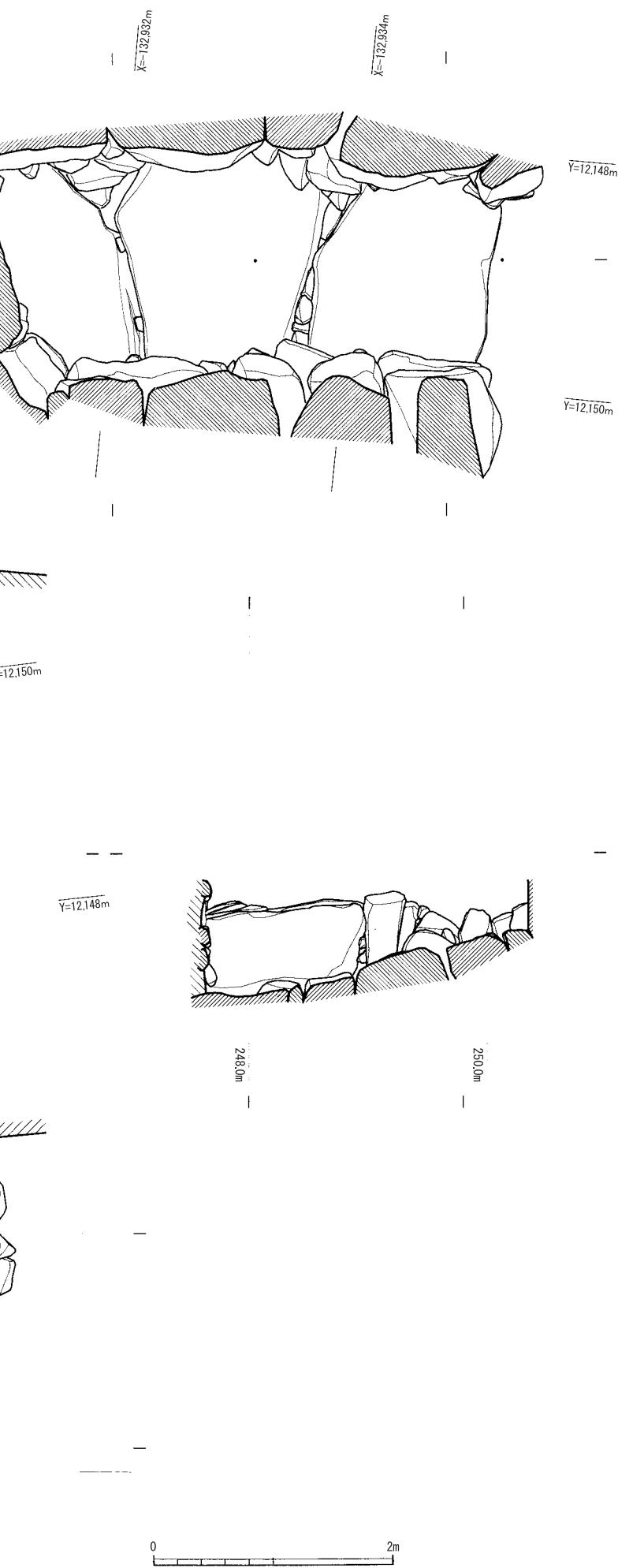
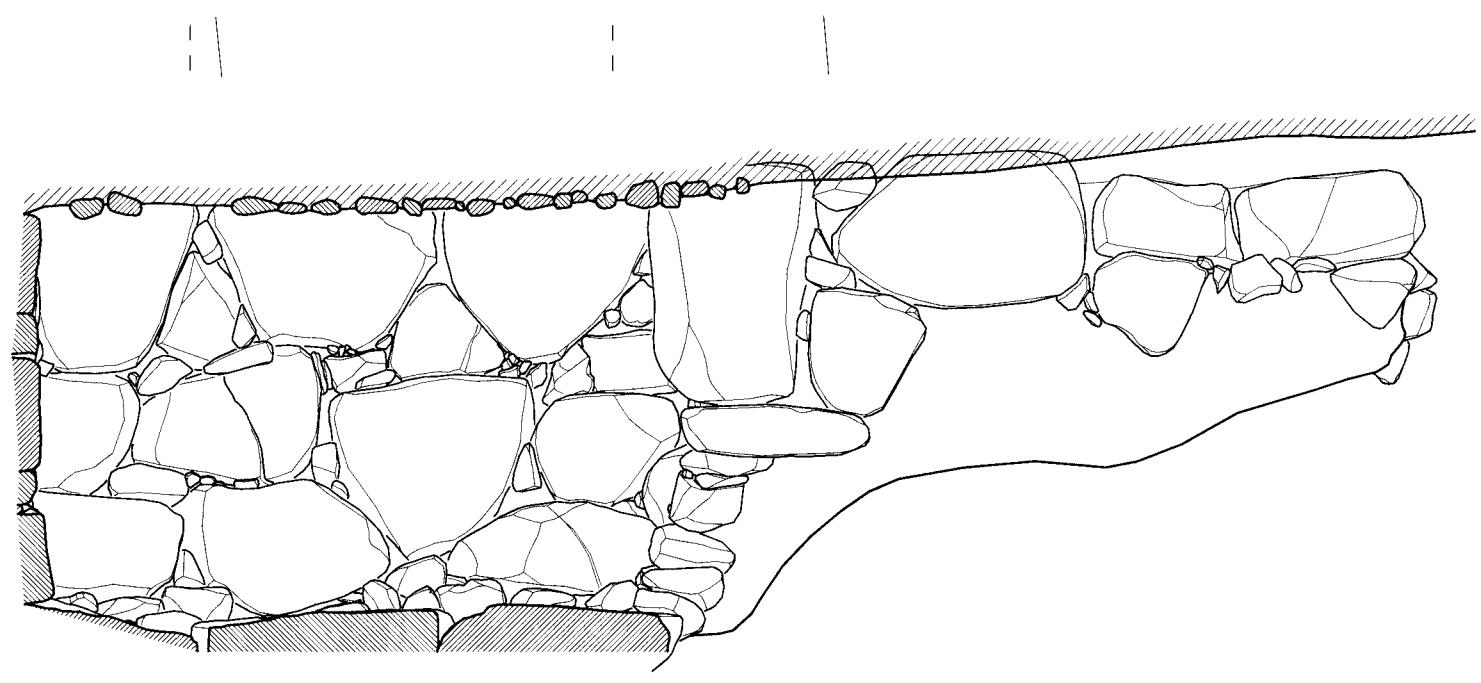
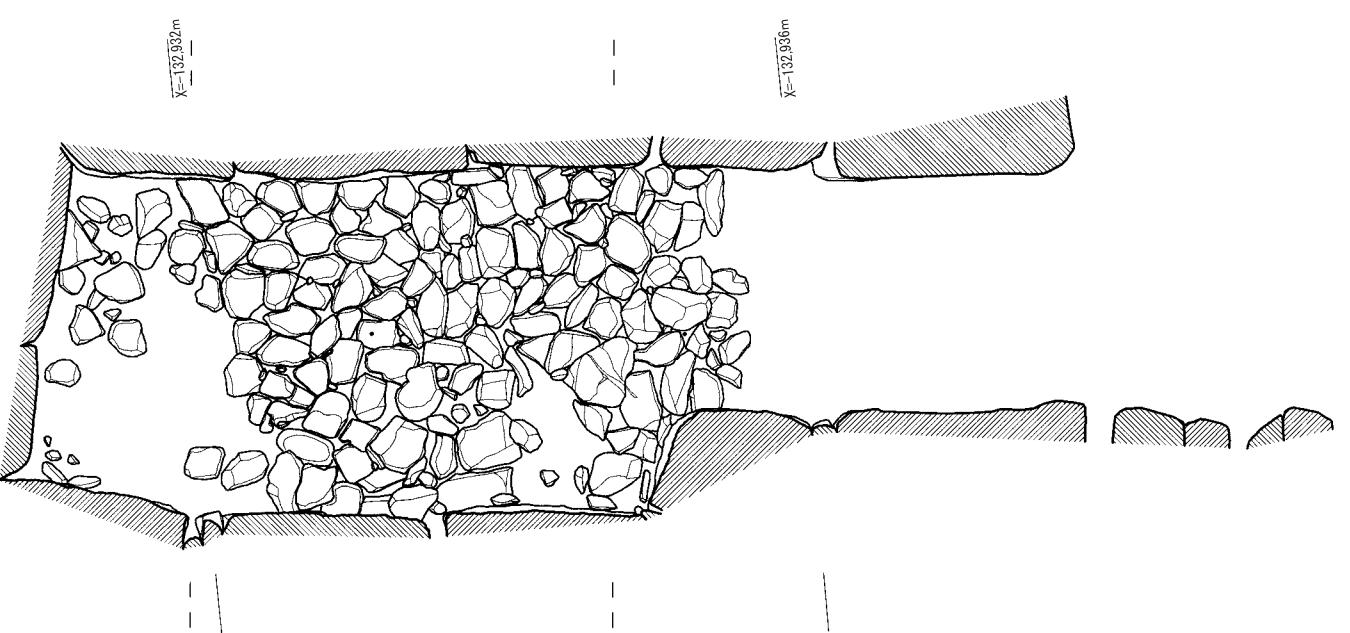
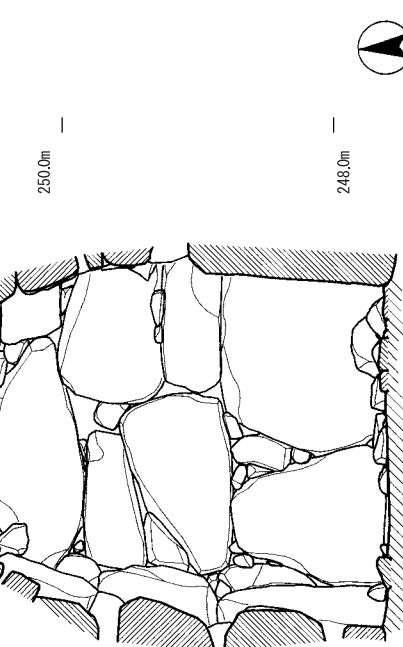


図21 2号墳石室実測図 (1:50)

はやや橢円になっており、石室入り口と周溝北芯で14.5m、東西は13mほどを測る。斜面下方にやや延びているものの南北径が勝る。

石室の調査 横穴式石室は右片袖式で、主軸はN6°Eとほぼ南に開口している。規模は玄室の長さ4.5m、幅2.3m、高さ2.6mである。奥壁から残りのよい右側壁端までは9.2mである。玄室奥壁、側壁の1段目はそれぞれ3個大きめの三角形石材を並べ、その隙間を逆3角形の石材で埋めている。奥壁に特に大きな石材を使ってはいない。2段目は不揃いであるが0.8mから1.2m程度の石材を並べている。大きなものは左右1個ずつで、それが3段目の構築に影響している。特に左側壁は2段目の目地通りが明瞭でない。全体に左よりも右側壁に大きな石材が使われている。右は3段目から、左は2段目から持ち送りがはじまっている。また、玄門には1.5m近い石を立て立柱石としている。左側壁も玄門を意識したかのような柱状の石材が配置されている。天井は3石で構成され、幅1.8mを測る。

羨道 羨道は天井石がないが、左右とも長さ1.5mほどの石が置かれており、ここまでが天井石がある部分、右の残り2.5mほどには天井石がなかったものと考えられる。石室端から西周溝にかけて外護列石が確認された。

敷石 玄室床面からは、奥壁付近の一部を除いて、玄門石中央まで敷石が確認された。

2次利用 床面やや上から炭化物を面的に検出した。たき火などの痕跡とみられる。奥壁付近が大きく搅乱されていることもあり、石室が後世に何らかの目的で利用されていたものと考えられる。

出土遺物 大きく開口していたこともあり、遺物はほとんど持ち去られていた。23グリッドの土砂洗浄時に棺釘2点が出土している。鉄割矢や寛永通宝とみられる銭、施釉陶器土瓶など近世遺物が出土し、石室が2次的に使われていたことを裏付ける。

須恵器 1は杯蓋である。かえりは短いが、口縁端部より下方に出る。扁平なツマミを持つ。2は壺蓋である。外面には2条の沈線で区画された中に刺突文を施す。3・4は杯身である。径12cm程度で、立ち上がりが短く内傾し端部は丸い。外面に灰かぶりがみられる。5は壺の口縁部である。体部からラッ

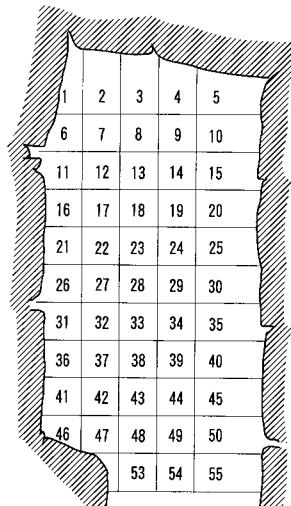


図22 2号墳石室グリッド配置図

バ状に伸び、沈線を境として内湾気味に立ち上がる。端部は丸く仕上げる。6～8は高杯である。2段の長方形透かしを3方向に配している。9は有蓋脚付壺の体部である。タタキのあとカキメで調整し、上部には沈線により区画した中に刺突文を施している。10・11は平瓶の口頸部である。やや内湾し漏斗状をなす。

土師器 12・13は甕である。13はハケ調整のあと指ナデ、指押さえを施し成形する。口頸部は強く外反し、端部は稜を持つ。

鉄製品 19は鉄製刀子である。現存刃部長6.4cmで鋒を欠く。刃部背は平棟で厚さ最大0.25cmである。茎部は断面扁平方形を呈し、茎尻に向けやや幅を狭める。関の位置で9°ほど屈曲している。20・21は鉄製釘である。23グリッドから出土した。断面方形で先端が曲げられる。頭部形状は鋒による崩壊が著しく不明瞭であった。

近世遺物 14は椀である。奥壁付近の搅乱土坑からの出土であり、後世の混入と思われる。15・16は施釉陶器土瓶である。22・23と合わせて江戸期のものと考えられよう。22は鉄製割矢である。石材再利用の際に使われたものとみられる。23は銅錢である。傷みがひどいが寛永通宝とみられる。

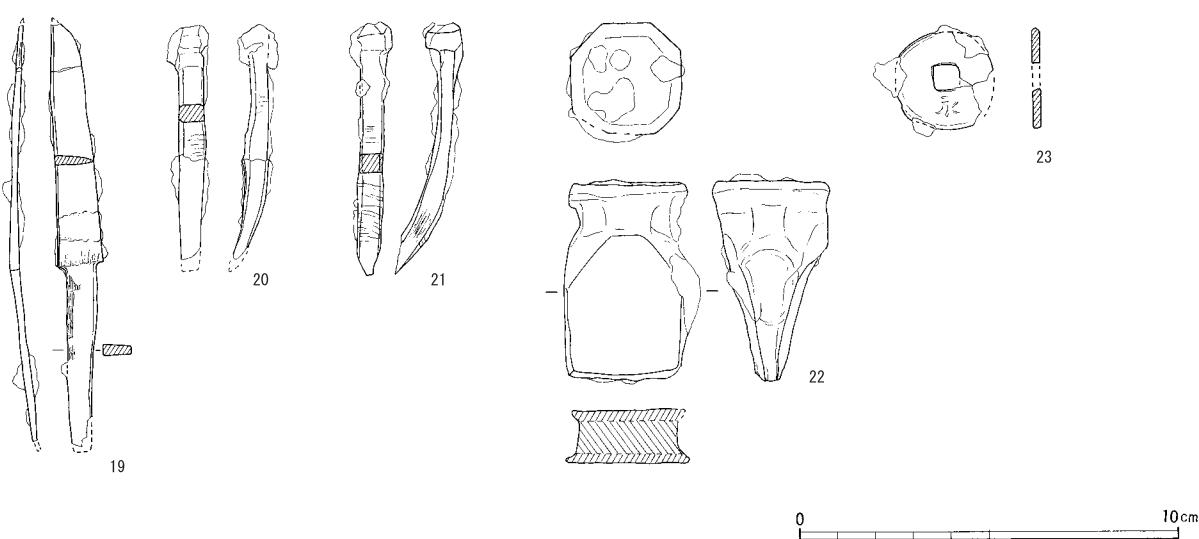
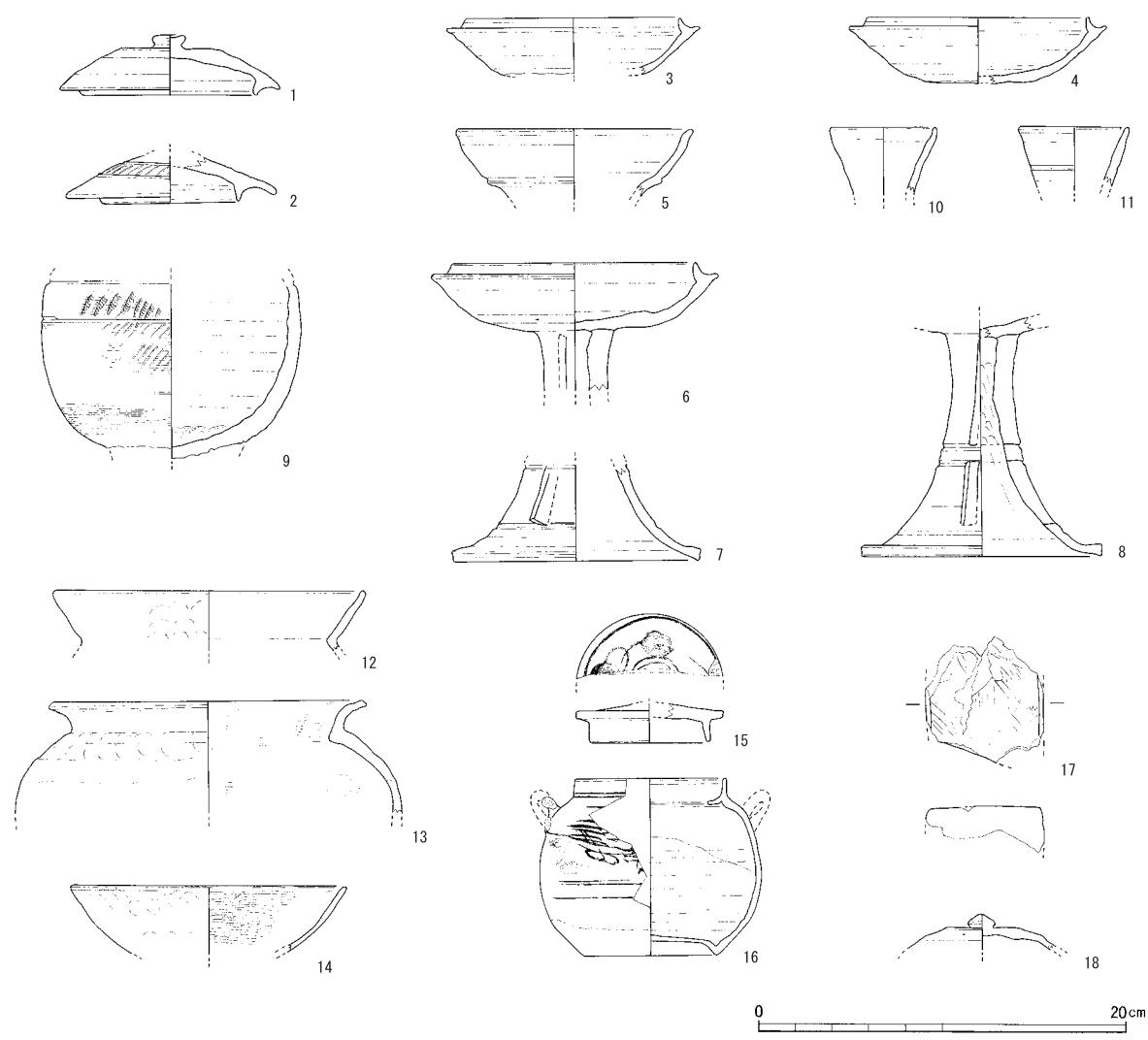


図23 2号墳遺物実測図 (1:4、1:2)

VI 3号墳の調査

浅子谷3号墳の調査 浅子谷3号墳は、着手前には雌竹が覆い茂り、その存在すら確認が難しいほどであった。しかし植物を伐採すると、墳丘は丸くヘルメットのようにこんもりした形状で、盜掘坑もなく遺存状況はよいと考えられた。周囲との比高差は3mほどである。石室入口には天井石の一部が露出しており、その下に小さな穴が開いていた。10年ほど前には出入りが可能であったようである^①。石室は東南東に開口している。

墳丘部分の掘削 3号墳は地元要望により工事後墳丘を残すこととなつたため、天井石などは撤去せずに調査し、墳丘の構築方法などは調査最終段階でトレンチを設定し確認することとした。掘削にあたつては、墳丘のほぼ頂上を交点として石室方向とそれに直交する十字に土層観察ベルトを設定し墳丘及び羨道の掘削に着手した。このベルトは延長して周溝の土層観察にも利用した。墳丘は表面から10cm程度

表土を除去したところで検出した褐色土が墳丘盛土と考えられたので、雌竹の根を人力で除去した程度であった。また、調査区全体の表土除去を進め、周溝を検出した。周溝部分の表土除去には重機を使用した。

横穴式石室の掘削 羨道を軸方向に二つに分け北側をA区、南側をB区として掘削した。床面近くまで掘削後、ベルトを入口天井石の真下まで除去し、軸と直交する土層観察壁を設定した。その後、さらに奥へと掘り進む際にはA区の奥をC区、B区の奥をD区とした。羨道部の掘削を終えて奥に進むと、石室が北に曲がっていることが判明した。そのため、石室入口で軸を北に折り、土層観察ベルトを設定した。石室への流入土はなだらかな斜面で奥壁に向かって下っていた。石室中央で直交する土層観察ベルトを設定し、羨道同様に4区に分けて掘削を進めた。床面に近くなり、ピンポールで探ったところ、石が

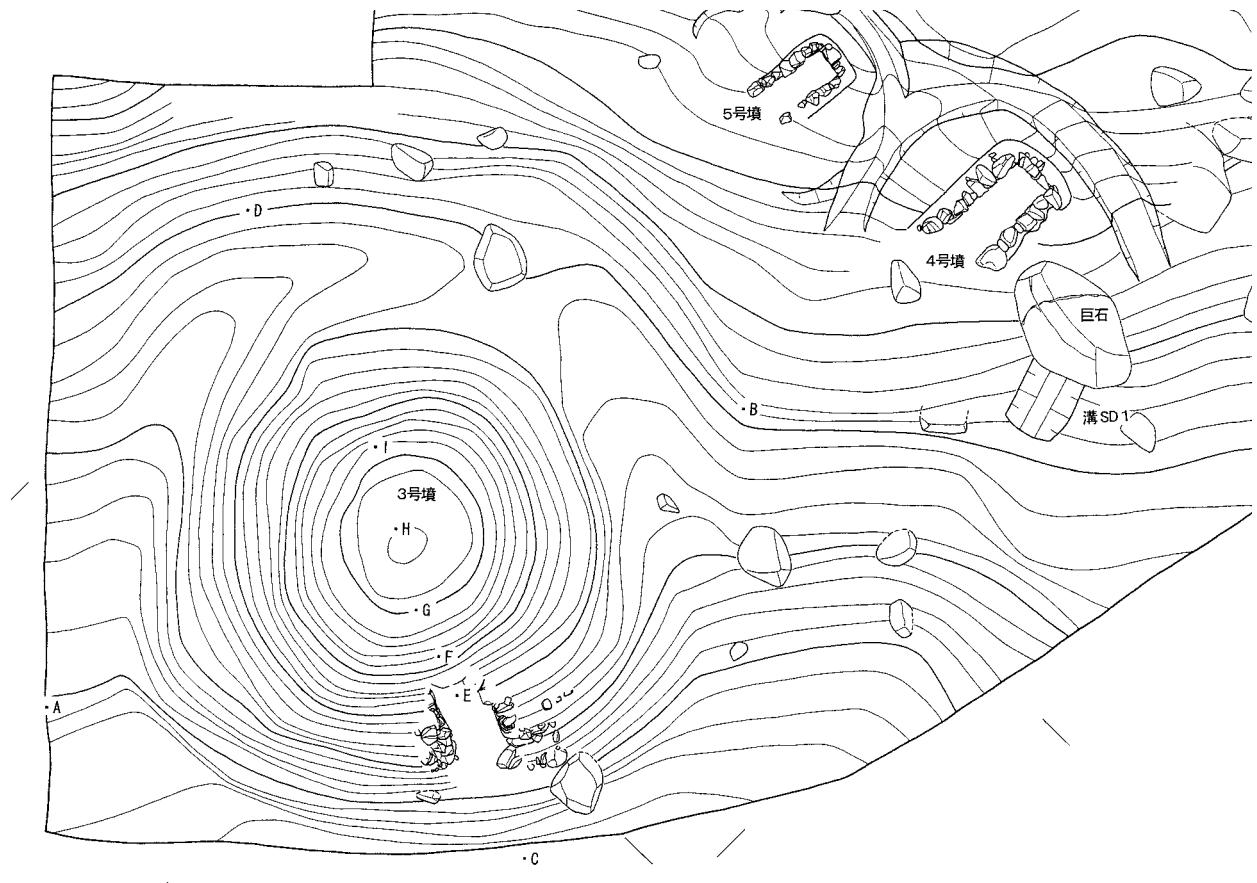


図24 3号墳ポイント図

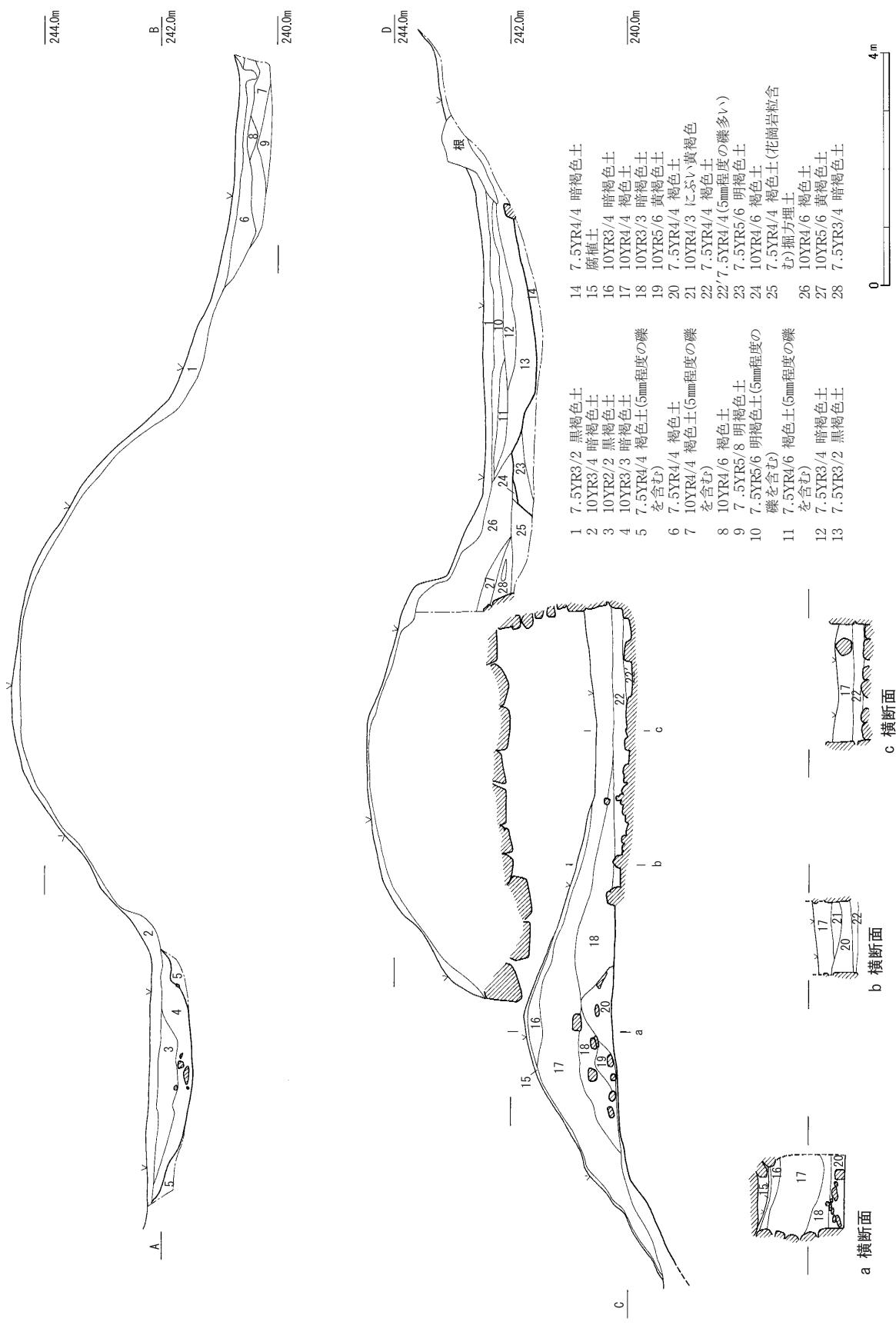


図25 3号墳土層図 (1 : 100)



平面図

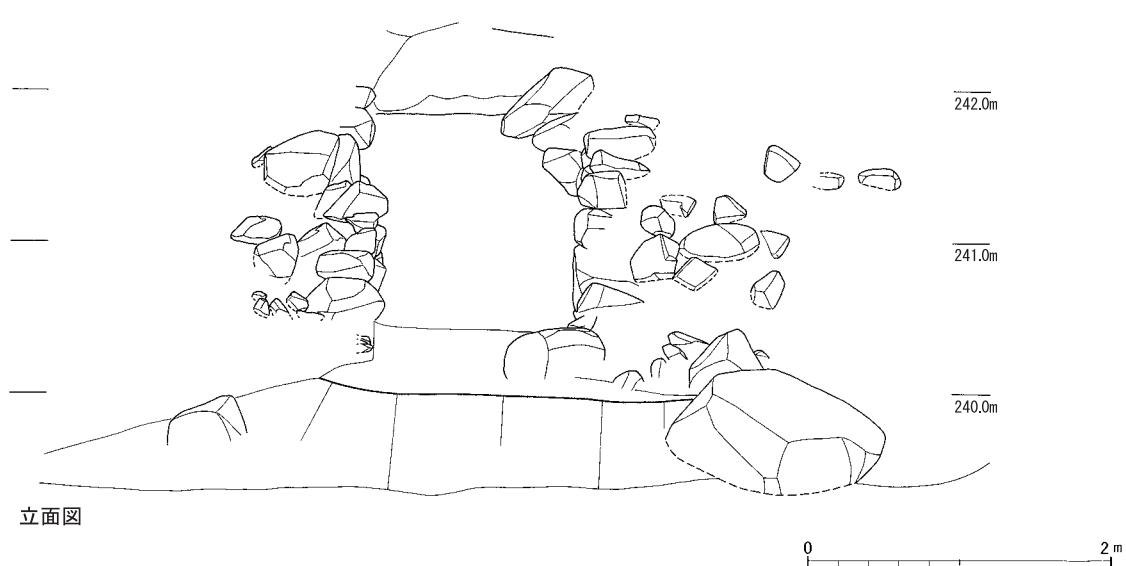


図26 3号墳石室入口実測図 (1:20)

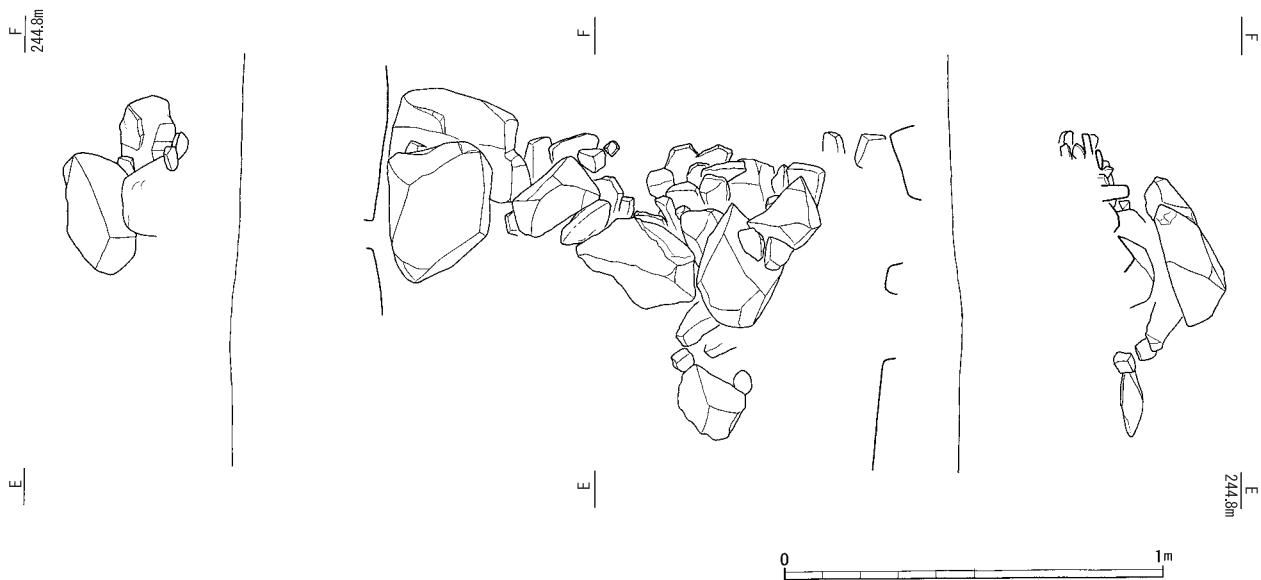


図27 3号墳羨道積石実測図（1：20）

敷かれているような状況が覗えた。そのため、敷石より5cm程度上で石室内に40cmグリッドを設定し、埋土を採取して洗浄することとした。石室は石材の崩落もなく、ほぼ完全な形で残されていたが、左側壁の迫り出しが強く、安全確保のため補強を施して作業にあたった。土層図、遺物出土状況図は手作業で適宜作成した。石室実測は当初は手作業の予定であったが、側壁の迫り出しによる危険回避のため、作業期間を短縮することを目的に、デジタル写真撮影による機械図化に切り替えた。石室内での作業終了後、墳丘西方向のみトレンチを設定し墓坑及び盛土の状況を確認した。2次調査では石室に土嚢を詰め工事に備える作業を行ったが、その前に敷石を精査のうえ撤去し、床面の検出に努めた。その際にも40cmグリッドを使って埋土を採取し洗浄した。

墳丘の調査 墳丘の周囲から周溝を検出した。幅は墳丘裾から北東側で約4m。斜面上位方向である西側で最大になり約8m。南東側は調査区外に拡がるが4m以上を測る。墳形はやや惰円形の円墳で、墳丘裾で東西径14m、南北径12mを測る。周溝深さは墳丘西側で深く約1m、南北では約0.8mである。墳丘東側では周溝ではなく、全体の平面形は馬蹄形といえる。遺物は北側から西側の周溝底土層から出土している。但し、出土状況からは3号墳に伴うものか、斜面上位にある古墳からの流入かは判然としない。

墳丘構築 墳丘は南北の周溝底を結んだラインから

高さ3.5m、石室床からは高さ4.5mを測る。墳丘西側に掘削したトレンチから、地山への堀込を検出した。ほぼ石室天井石の高さから掘込まれている。奥壁天井付近と石室入口床面を結ぶラインを西に延長すると周溝西上端にあたる。トレンチは石室保護のため西側のみに設定した。調査の結果、緩斜面に墓坑を掘込んで石室を構築し、その上に周溝部分の土砂を盛り上げて墳丘としたものと考えられる。

石室の調査 石室は左側壁が迫り出していた他は、遺存状況は良好であった。入口から内部に侵入できたため、相当搅乱されているものと思われたが、奥壁付近が乱されていたのみで、遺物の遺存状況も良好であった。

横穴式石室は右片袖式で、主軸はN60°Wとほぼ東南東に開口している。規模は全長が9m、玄室は長さ4.9m、幅2m、高さ2.3mで、羨道は長さ2.1m、幅1.3m、高さ1.6mである。

奥壁 石室は全体に小型の石材を用いて構築されており、奥壁も小型の石材が使われ、基底石からやや内傾している。下位2段はやや大きめの石を使っているが、いわゆる鏡石のようなものはない。側壁と同様に積み上げている。

側壁 玄室の側壁は大小の石材を用いているためやや乱雑に見えるが、石材の面を横長に見せるように配しており、横方向の目地の通りを確認できる。左右両側壁とも5段に積まれている。側壁、奥壁とも

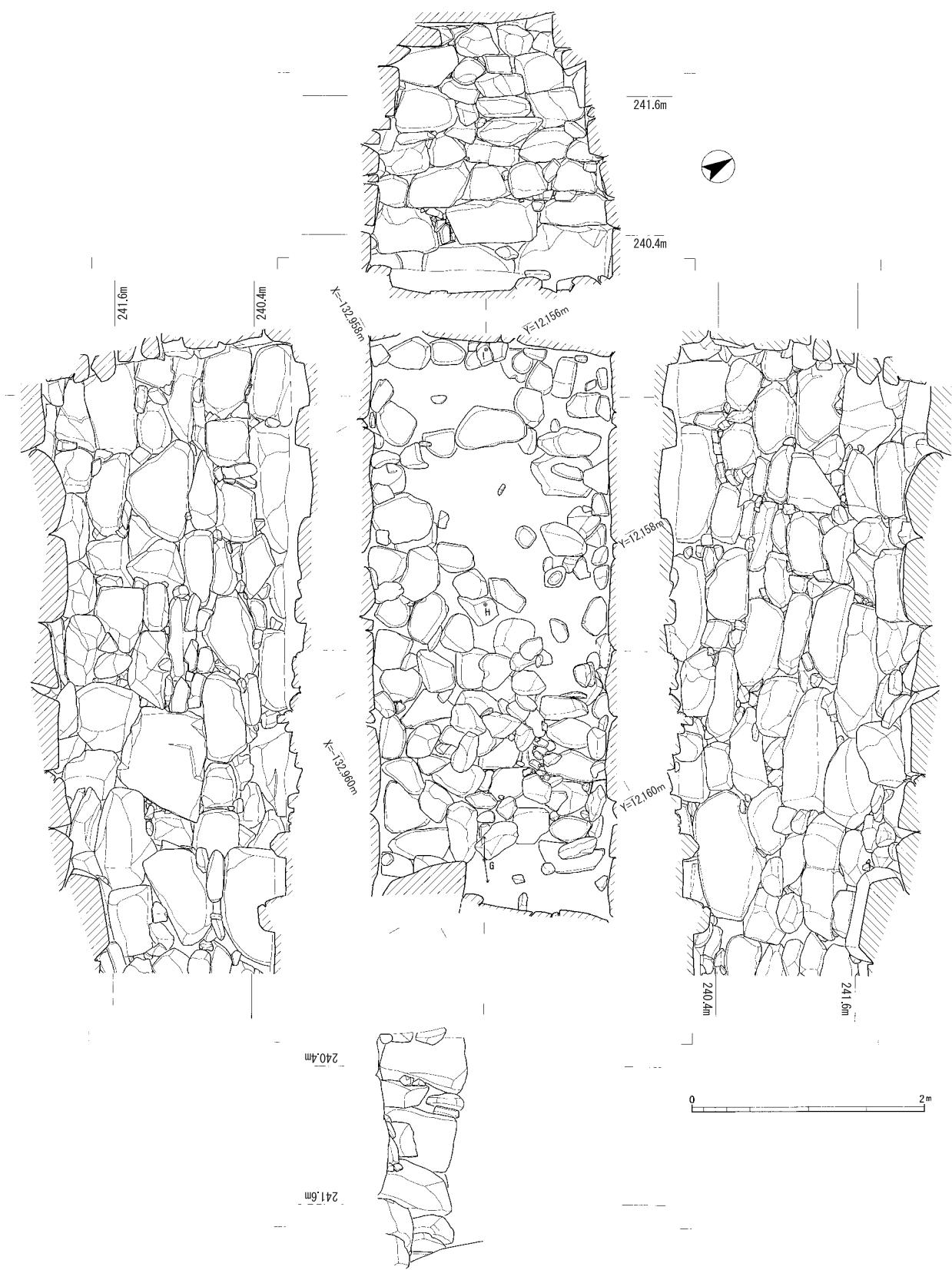


図28 3号墳石室実測図① (1:50)

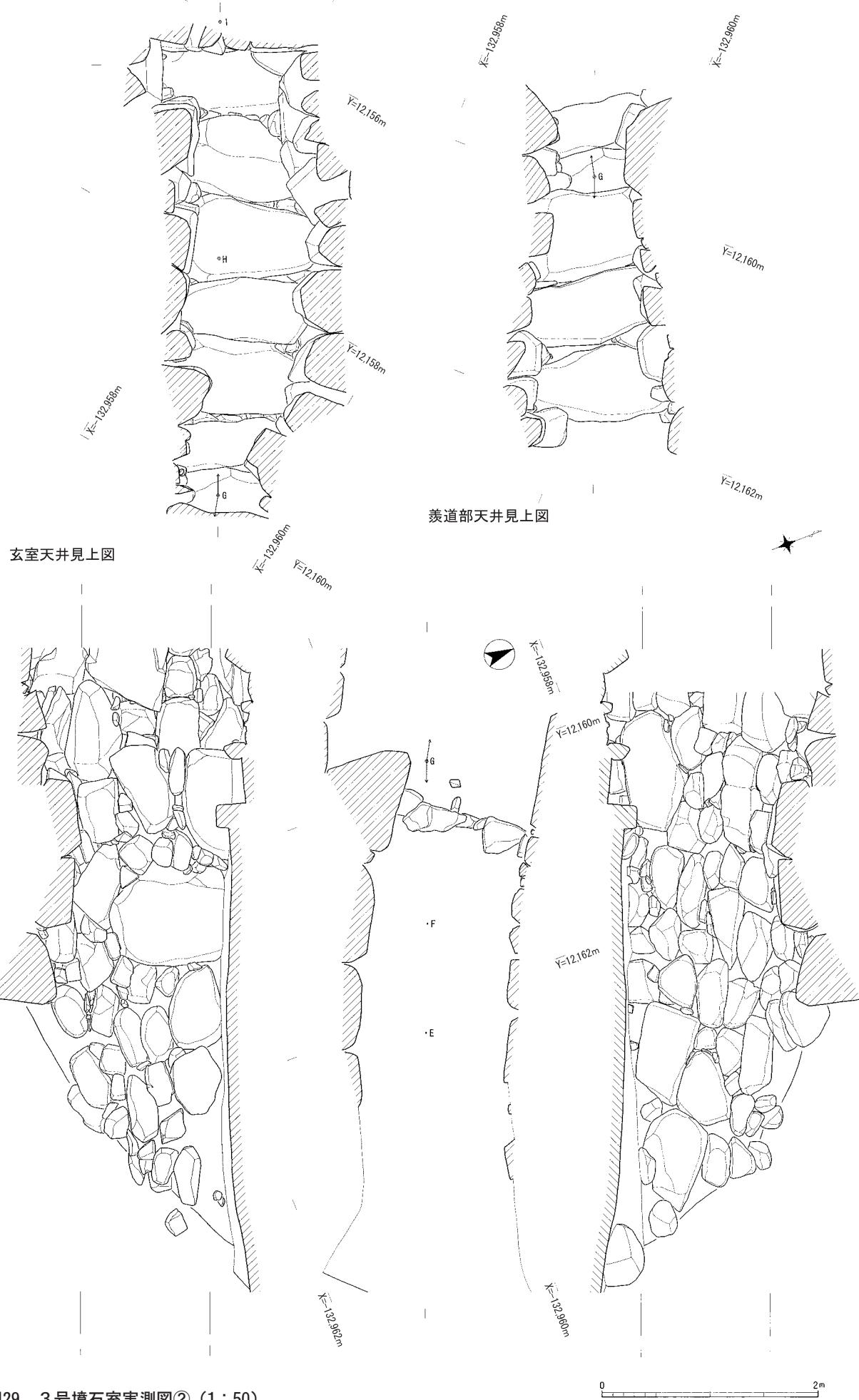


図29 3号墳石室実測図② (1:50)

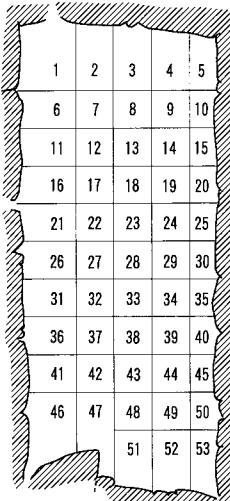


図30 3号墳石室グリッド配置図

2段目ではほぼ高さをそろえている。両側壁とも2段目あたりから持ち送られ、内傾している。特に左側壁は迫り出しがきつく、崩落の危険を感じるほどである。天井幅が1mで石室幅の1/2と狭いため、内傾がきついものと思われる。

敷石 玄室床面からは敷石が確認された。奥壁付近の一部が搅乱されていたが、概ね良好な状態であった。なお、図28・29中綱をかけた部分は花崗岩が風化し脆くなっている部分である。敷石が風化したものとみられる。玄室入口には框石が施され、玄室床は羨道部より10cm程度下げられていた。

羨道 羨道軸は玄室軸よりさらに東を向きN69°Wである。そのため、玄室入口付近で測量軸線を9°折り実測を行った（矢印表示、G）。右側壁は入口第1天井石の下に高さ1.2m程の石材を立て立柱石のようにしているが、他の石材は玄室よりもやや小さめの石を使っている。目地もほとんど通っていない。天井は3石で構築されていて、玄室入口付近で最も狭く0.4m程となり、入口に向かって拡がる。入口付近では床の幅とほぼ同じ0.8m程になる。持ち送りもほとんど無い。床面は框石から羨道入口までほぼ平坦で、堅く締まった花崗岩粒子混じりの褐色土である。立柱石から墳丘裾までは極緩やかに下っている。なお、排水溝は検出されなかった。

閉塞 羨道中央付近床面で石が積まれている様子を検出した。層序と対照すると初期閉塞とみられる。さらに、その外側に石を含んだ盛土があり追葬時の閉塞ではないかと考えられる。玄室内の遺物出土状況からすると3体以上埋葬されたとみられ、複数回

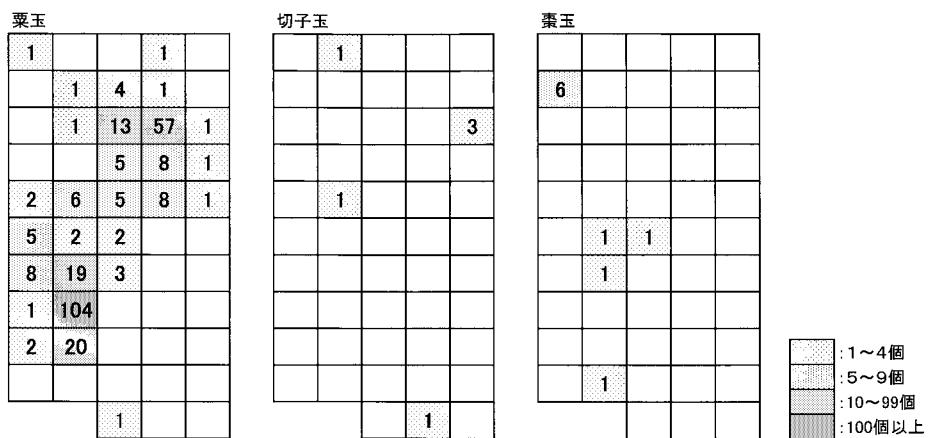


図31 3号墳玉類グリッド毎検出数

の追葬があったことも考えられる。しかしながら、土層観察からはこれ以上の明確な閉塞回数は判然としなかった。

玄室内出土遺物 玄室床面敷石上から30点余りの土器類、10点余りの金属製品を検出した。奥壁付近が攪乱されていたのみで、ほぼ原位置を保っているものと考えられる。なお、玄室内遺物は出土状況図（図32）に報告番号を付している。

須恵器 1～10は杯蓋である。7以外は低い天井部に外に開く口縁部が付く。天井部と口縁部の境はナデにより弱い稜を持つ。7は径12.5cmと他より小さく、丸い天井部に垂直に近い口縁部が付き、口縁端部は段をなす。11～17は杯身である。径12.4cmから15.4cmまで、高さ3.5cmから4.4cmまでである。蓋、身とも赤褐色を呈するものが2点ずつある。18は甌である。体部最大径を測る部分に円孔が側方から穿孔され、さらに孔の周りを打ち欠いている。頸部は体径の半分以下と細くラッパ状に開く。口縁部は欠損しており不明であるが、段を経て上外方に開くと思われる。19は壺の口縁部である。外面に2条の横線の間にカキメを施す文様帶を持つ。小片であるが、脚付長頸壺とみられる。

土師器 20から22は椀である。ハケのあと指押さえ、ナデにより仕上げている。雑な仕上げのもの（20）もある。23～26は高杯である。杯部は指押さえで器形を整え、丁寧なハケで調整している。脚部も同様にハケで丁寧に仕上げている。接合部及び口縁、脚端部はナデ調整しており、口縁端部は丸く收めている。27・28は甕である。27は内外面をハケで調整し

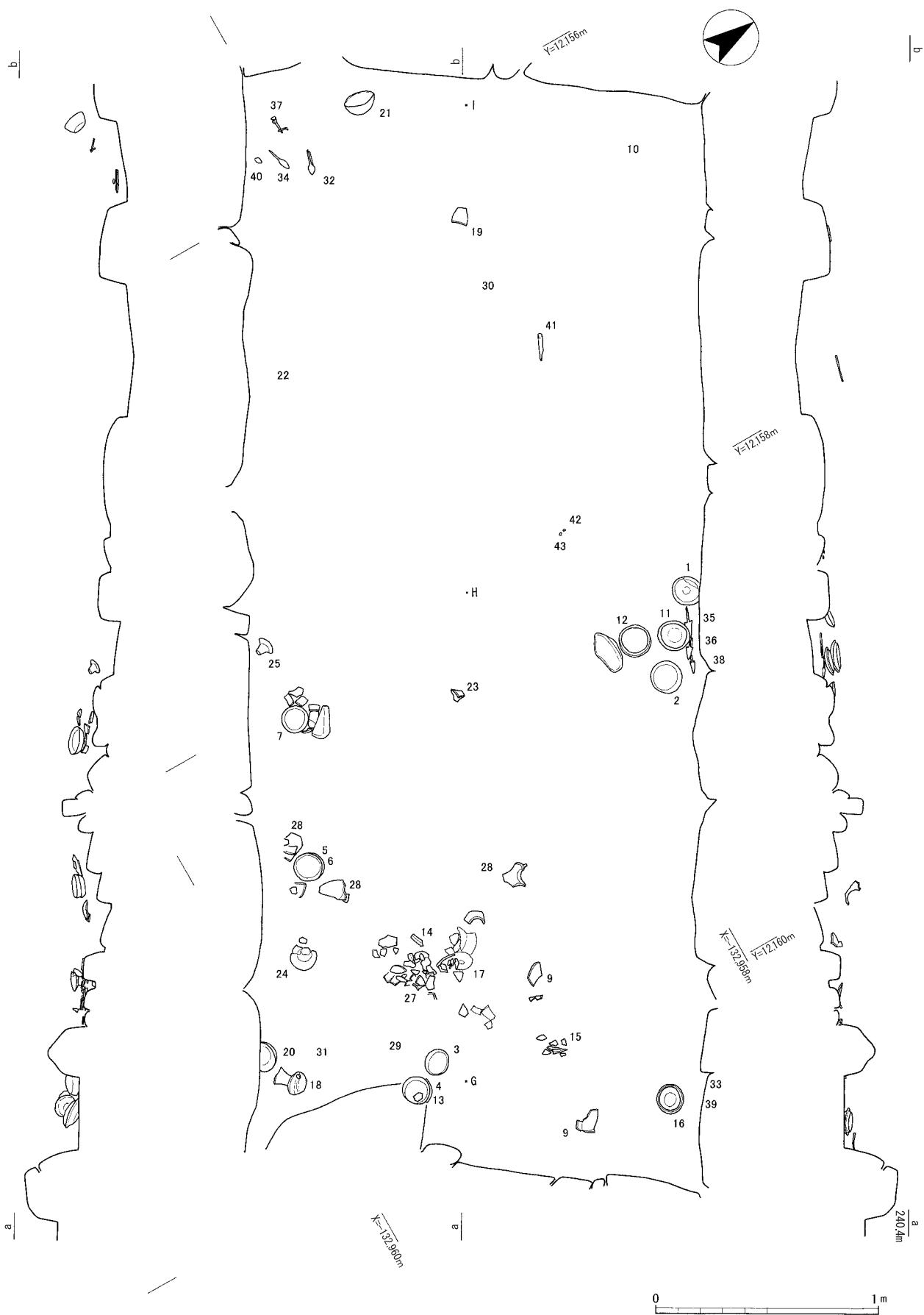


図32 3号墳玄室遺物出土状況実測図 (1 : 20)

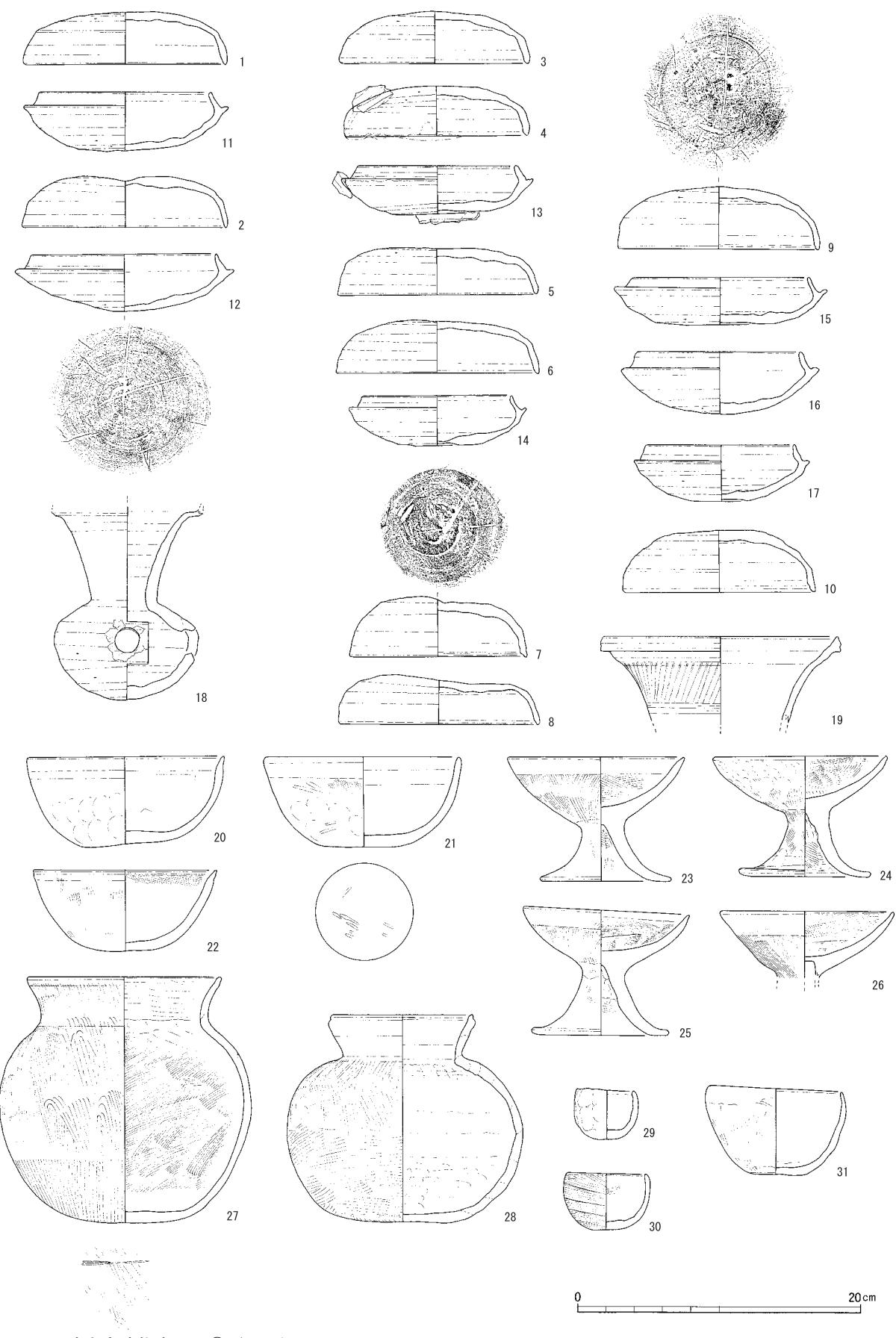


図34 3号墳玄室遺物実測図① (1:4)

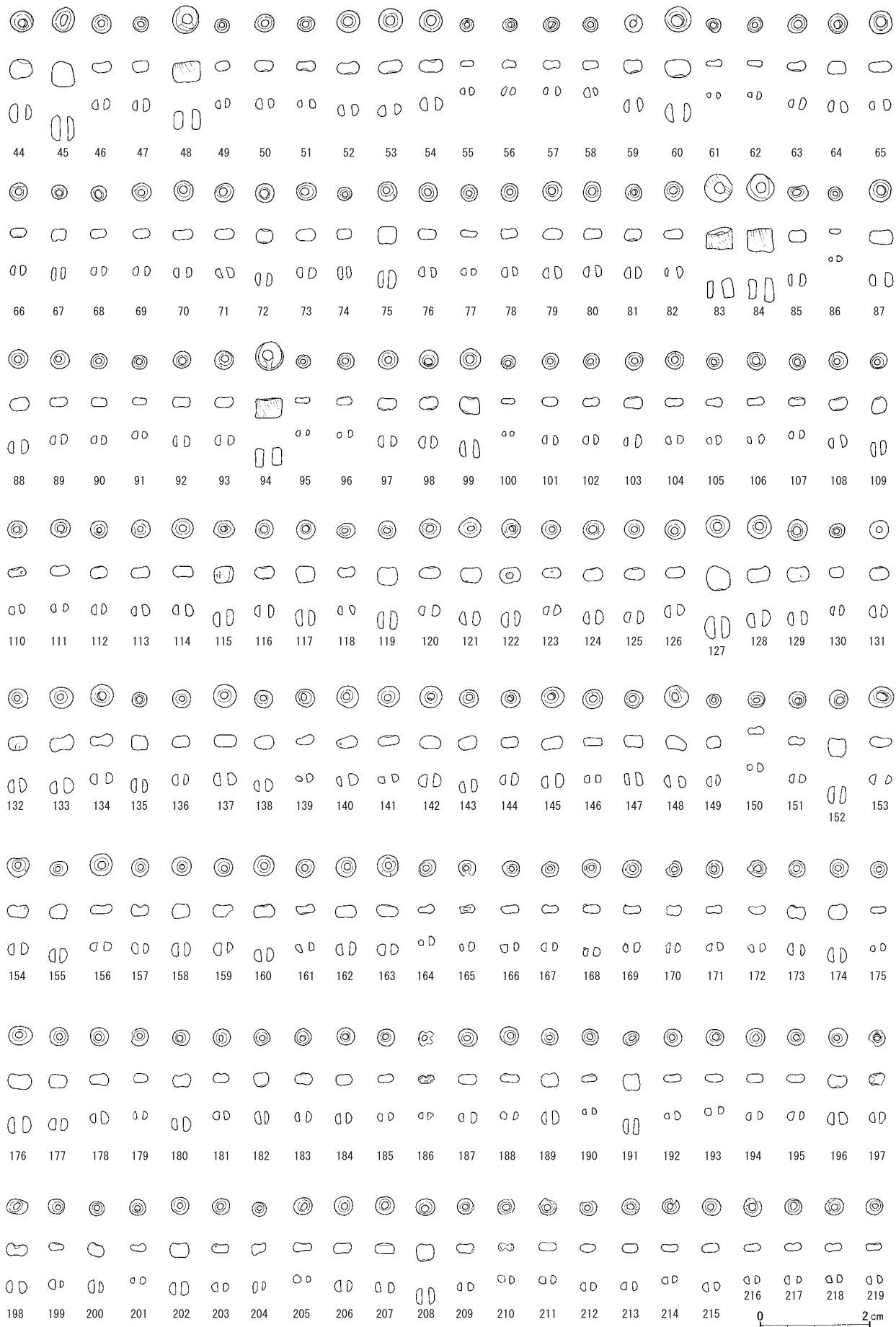


図35 3号墳玄室遺物実測図② (1:1)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | | |
| ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | | |
| 220 | 221 | 222 | 223 | 224 | 225 | 226 | 227 | 228 | 229 | 230 | 231 | 232 | 233 | 234 | 235 | 236 | 237 | 238 | 239 | 240 | 241 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | | |
| 242 | 243 | 244 | 245 | 246 | 247 | 248 | 249 | 250 | 251 | 252 | 253 | 254 | 255 | 256 | 257 | 258 | 259 | 260 | 261 | 262 | 263 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | | |
| 264 | 265 | 266 | 267 | 268 | 269 | 270 | 271 | 272 | 273 | 274 | 275 | 276 | 277 | 278 | 279 | 280 | 281 | 282 | 283 | 284 | 285 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | | |
| 286 | 287 | 288 | 289 | 290 | 291 | 292 | 293 | 294 | 295 | 296 | 297 | 298 | 299 | 300 | 301 | 302 | 303 | 304 | 305 | 306 | 307 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ |
| 308 | 309 | 310 | 311 | 312 | 313 | 314 | 315 | 316 | 317 | 318 | 319 | 320 | 321 | 322 | 323 | 324 | 325 | 326 | 327 |

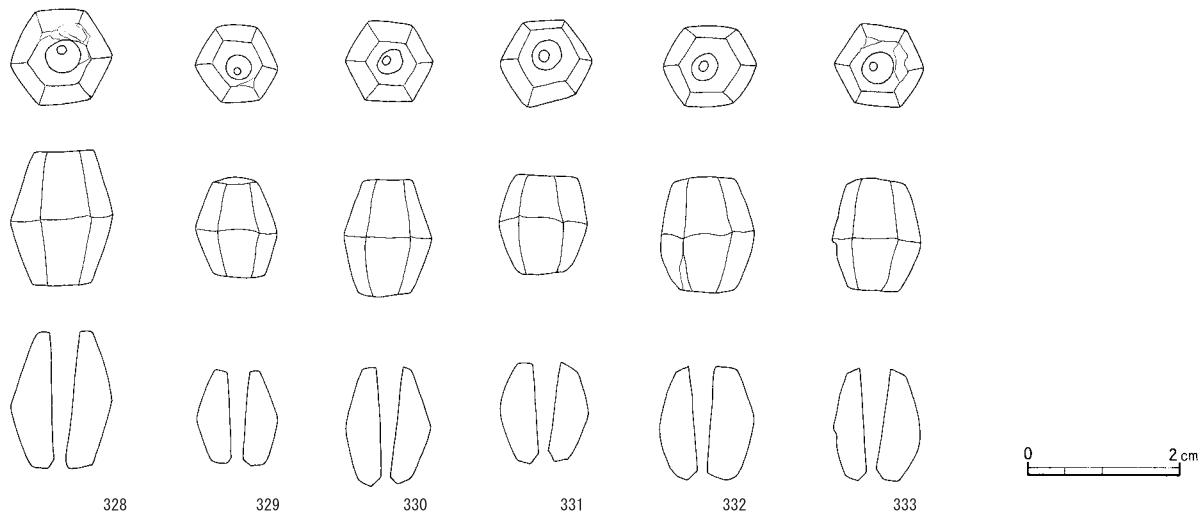
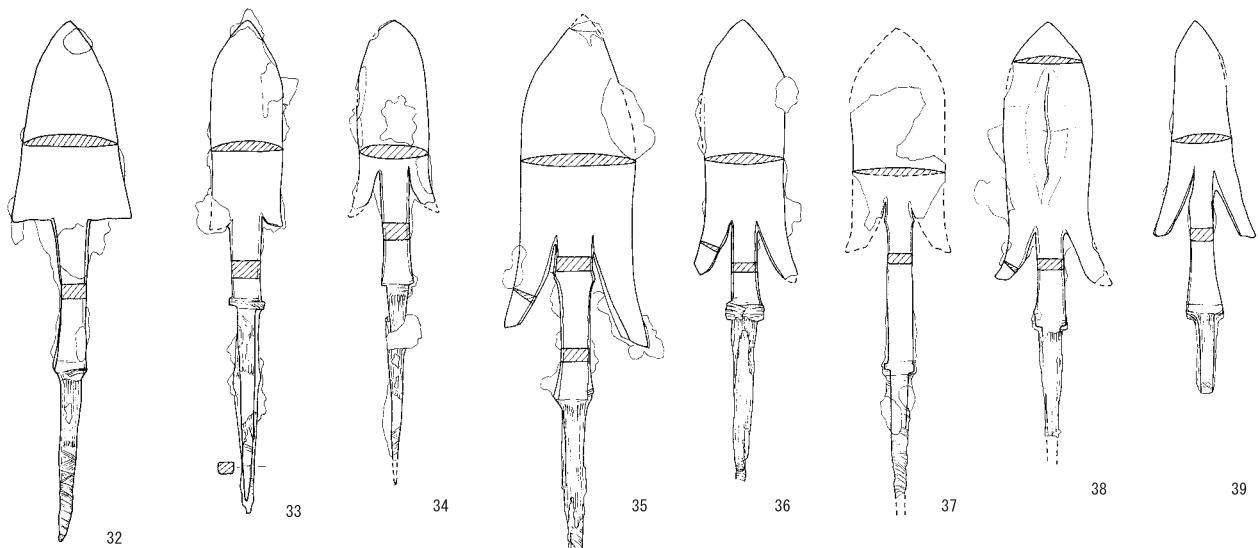
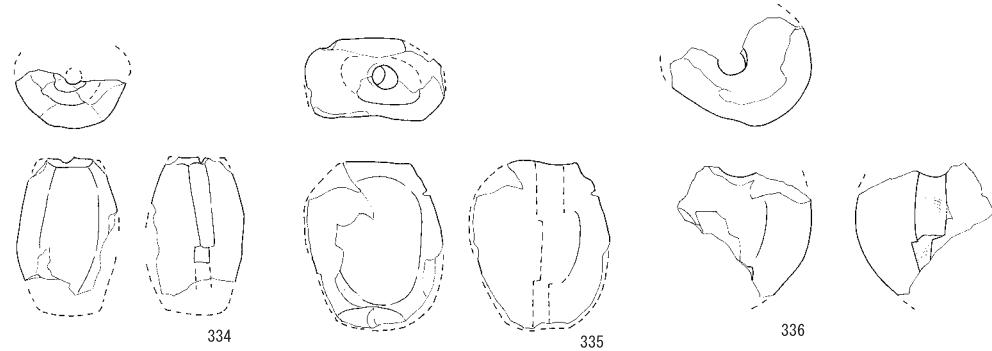
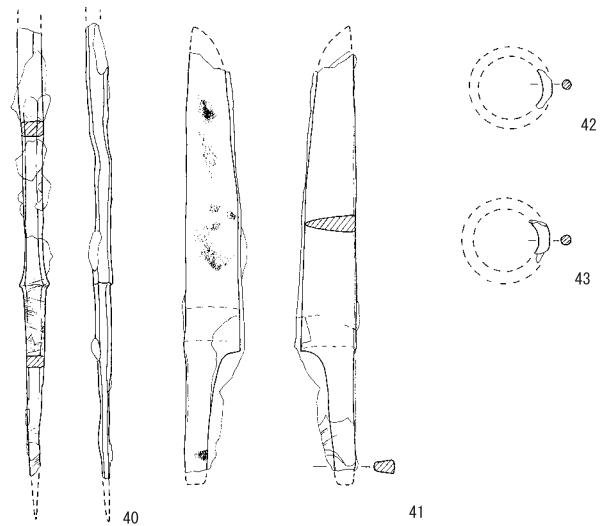


図36 3号墳玄室遺物実測図③ (1:1)



0 10 cm



0 4 cm

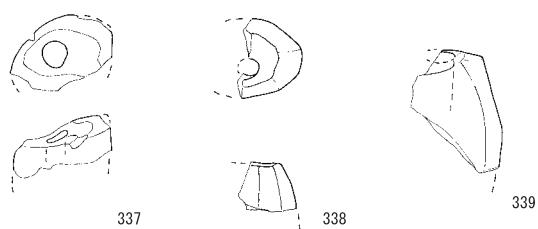


図37 3号墳玄室遺物実測図④ (1:2、1:1)

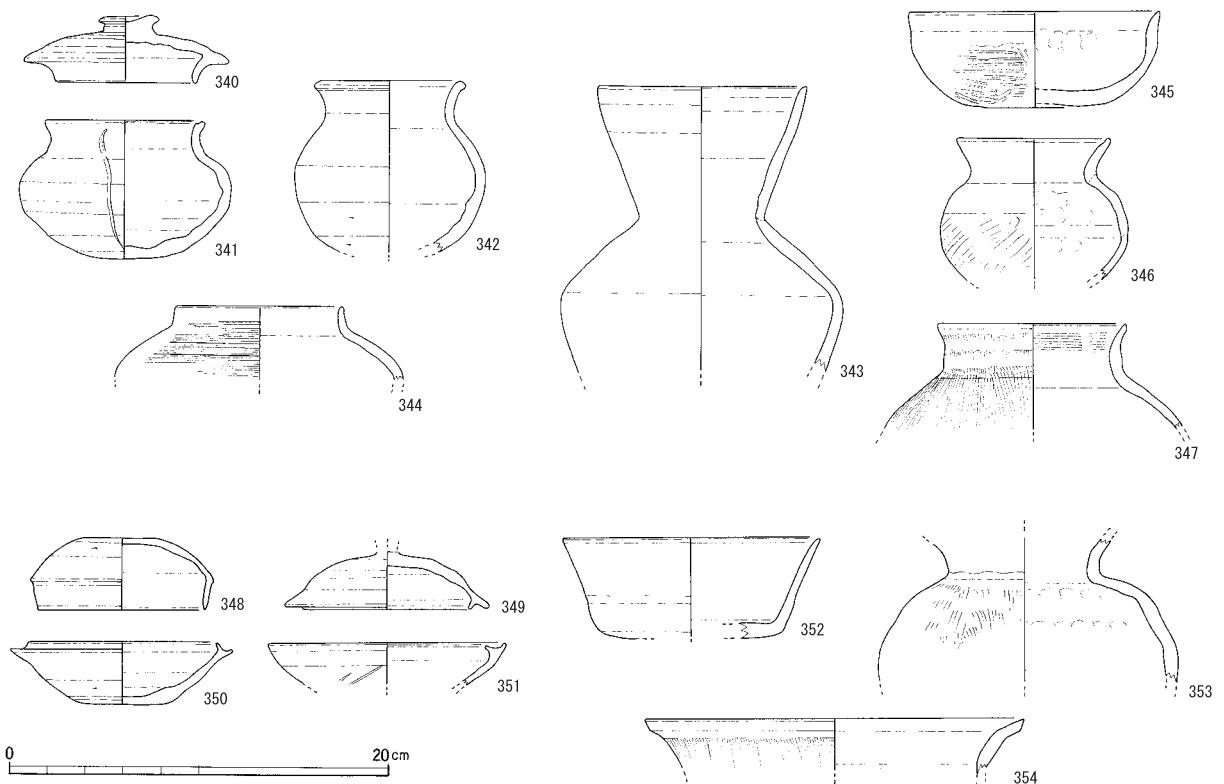


図38 3号墳遺物実測図 (1:4)

口縁端部をナデている。外面は縦方向のハケ調整である。28は外面上半は縦方向、下半は横方向のハケ調整を施す。口頸部から口縁端部まではナデで仕上げる。29~30はミニチュア土器壺である。

金属器 32~40は鉄鏃である。長三角形鏃とかえりを持つ腸抉柳葉形鏃がある。茎部に木質の残るものが多い。41は刀子である。床面より40cmほど上で出土した。盗掘時または追葬時に混入したものかもしれない。42・43は耳環である。遺存状態は悪いが、銅芯鍍金細円環である。

装飾品 44~327は石英ガラス製粟玉、滑石製臼玉である。328~333は水晶製切子玉である。334~339は琥珀製棗玉である。40cmグリッド毎の土砂洗浄によって検出した。グリッド毎の出土数は図31に示している。

羨道出土遺物 羨道部堆積土中からの出土である。

床面付近からの出土はなかった。

須恵器 340は蓋である。341は小型の壺である。2点は羨道部第1層から出土した。色調、胎土がほぼ同質ゆえセットの可能性もある。342~344は壺である。344は外面をカキメで仕上げる。

土師器 345は椀である。指押さえで整形し、外面を

強いハケで、内面はナデで調整している。口縁端部は上外方に丸く収める。

周溝出土遺物 3号墳周溝内最下層の埋土からの出土である。石室内遺物と時期がずれるため斜面上方からの流入とみてよいと思われる。

須恵器 348・349は杯蓋である。天井部外面をロクロケズリする。349はツマミを欠損する。かえりは口縁端よりも下方に出る。350・351は杯身である。受け部の立ち上がりは小さい。352は台付鉢である。台を欠損するが、底部はロクロケズリを施す。体部下半に1条横線を持つ。

石室掘方内遺物 354は墳丘トレチ掘削の際、一部掘り下げた石室掘方から出土した土師器甕である。築造時の遺物として貴重である。

[註]

- ① 市田進一氏(三重県文化財パトロール員、伊賀市文化財保護審議会委員)のご教示による。

VII 4号墳・5号墳の調査

浅子谷4号墳の調査

浅子谷4号墳は、着手前には確認していなかった古墳である。表土除去の途中、溝1条と石材が多数確認できる地点があったため、石を動かさないように慎重に表土を除去したところ、並んでいる状況が確認でき、周溝と石室であると認定し13号墳として調査を行った。1次調査終了後、発見した古墳の整理の中で4号墳と命名した。調査中の遺物取上ラベル等には13号墳と記載している。なお、石室は南に開口している。

墳丘の掘削 4号墳が石室であることを確認したので、その北側で再度検出作業を行った。その結果、G8・H8地区で円形にめぐる溝を検出した。墳丘盛土は、ほぼ削平されていた。

横穴式石室の掘削 石室内を土層観察ベルトで4区画に分け、西侧奥をA区、東側奥をB区、西入口をC区、東入口をD区として掘削した。石室外側に任

意の調査区を設定し石室掘形の検出を試みた。土層図、遺物出土状況図、石室実測図は手作業で適宜作成した。

墳丘の調査 表土除去を進めG8、H8グリッドで溝を検出した。埋土は黒褐色で、円弧状になる。その南、G9、H9グリッドで検出した石列とあわせて横穴式石室墳とした。周溝は西端で5号墳と共にしている。また、東半では4mを越える巨石を迂回するようにやや湾曲を緩やかにしていた。

石室の調査 石室は南北長2.8m、東西幅1.2m、残存高さ1.2mを測る横穴式石室である。羨道部分は破壊されており不明である。主軸方向はN6°Eである。基底部の1列には高さ0.4~0.6m程の石材を並べているが、それ以上は大きさをそろえていない。しかし、壁面は整っており、特に奥壁は切石積みのような印象を受ける。右側壁南端の石材が0.7mと一段高く、かつ立てられており立柱石を意識したものと思

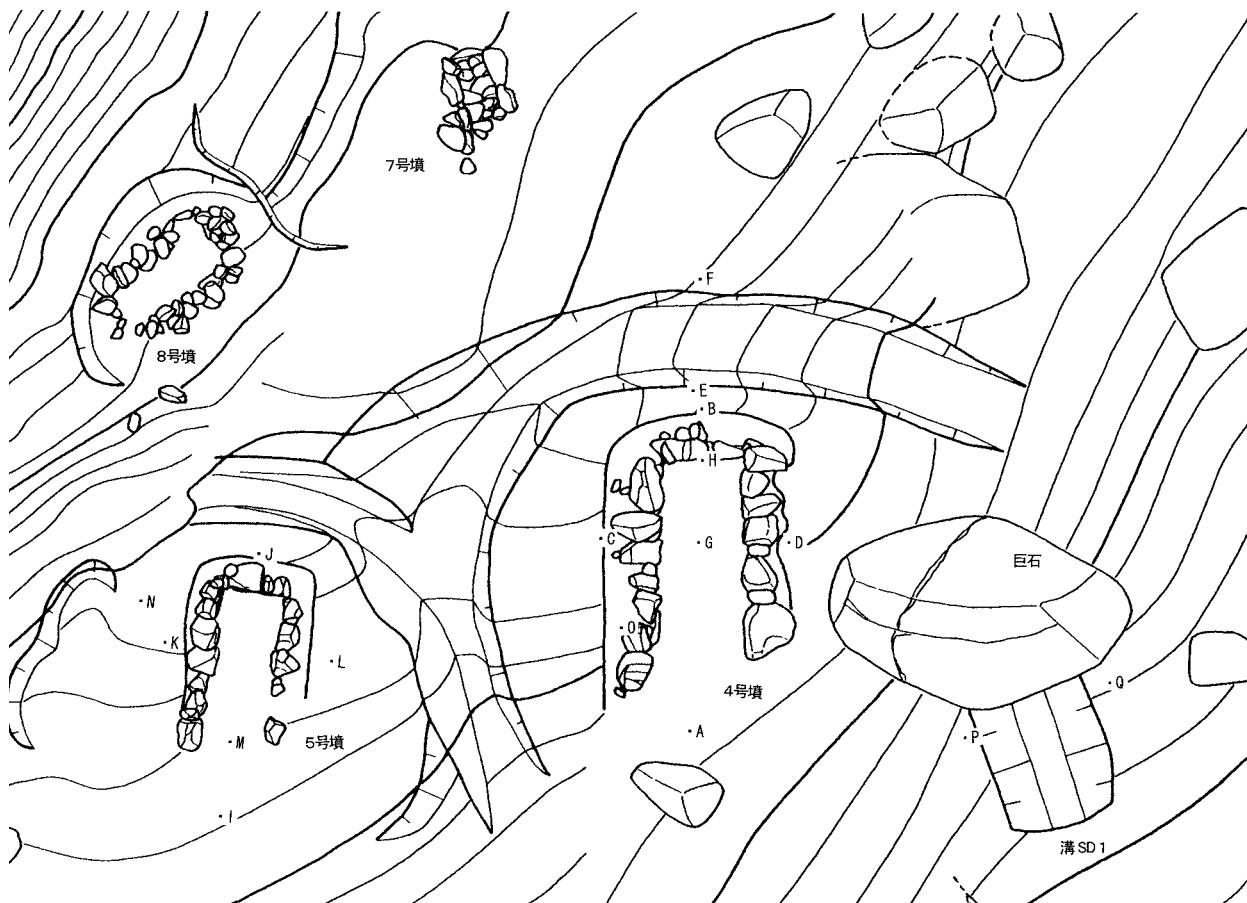


図39 4・5号墳ポイント図

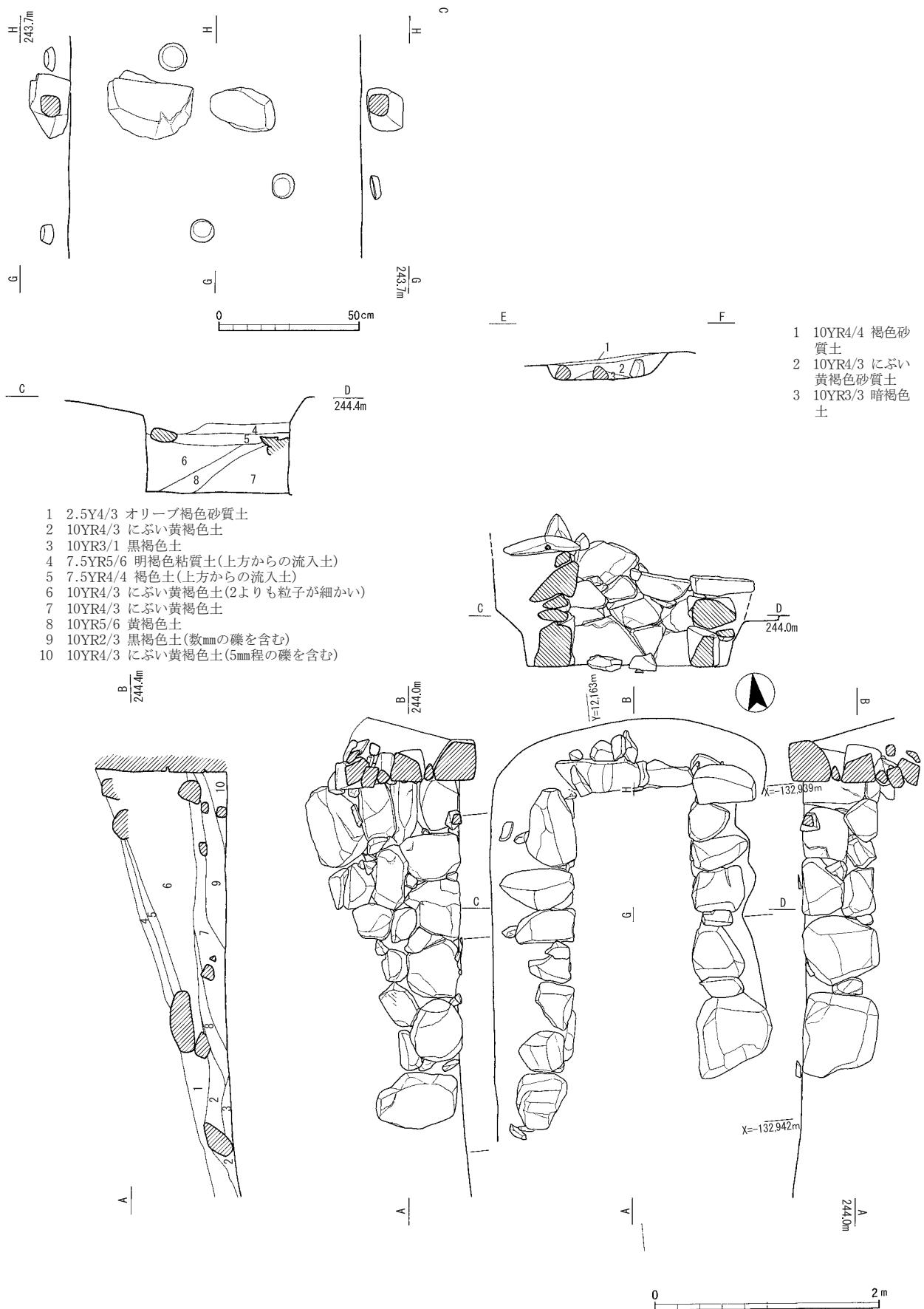


図40 4号墳実測図 (1:50)

われる。石室掘方は奥壁側、右側壁側は検出できたが、左側壁側は巨石との境界が判然としない。花崗岩が崩壊した状況で残されており、石材の大きさに合わせた掘方であったと思われる。石室床面北半から0.3m程度の石材2個を検出した。東西に並べられており棺台または枕石とみられる。その周辺から須恵器蓋・杯が計3個検出された。

石室内出土遺物 石室棺台付近から1・4・6の須恵器が出土した。1は須恵器杯蓋である。乳頭形のツマミを持つ。かえりは小さく口端部よりも内側に收まる。4・6は杯身である。底部外面をヘラ切りのあとナデ、底部と体部の境界にケズリを施す。

羨道部出土遺物 石室の南側からは土器類が多く検出された。2・3・5・7・8は杯身である。2の立ち上がりは内傾し小さい。9は縁部である。10と同一個体と思われる。10は体部最大径のところに上外方から内下方に向けて円孔を穿つ。2条の沈線で区画した中に刻み文を施す。11は提瓶口頸部である。12は施釉陶器擂鉢。13は土師器皿である。底

部外面をケズリで、口縁部外面にはミガキを施す。

底部内面に螺旋状暗文と放射状暗文を施す

浅子谷5号墳の調査

浅子谷5号墳も、4号墳同様着手前には確認していなかった古墳である。4号墳確認後、表土除去を西南方向に進めたところ数m西隣で石材が並んでいるようすが窺えた。精査したところ、石室と判明し14号墳として調査を進めた。1次調査終了後、発見した古墳の整理の中で5号墳と命名した。調査中の遺物取上ラベル等には14号墳と記載していた。石室は4号墳同様南に開口している。

墳丘の調査 石室周辺を精査したところ、周溝を確認した。4号との関係を検証するため土層確認トレーニチを設定、掘削した。

石室の掘削 石室内を土層観察ベルトで4区画に分け、西側奥をA区、東側奥をB区、西入口をC区、東入口をD区として掘削した。石列外側に任意の調査区を設定し石室掘形の検出を試みた。土層図、遺物出土状況図、石室実測図は手作業で適宜作成した。

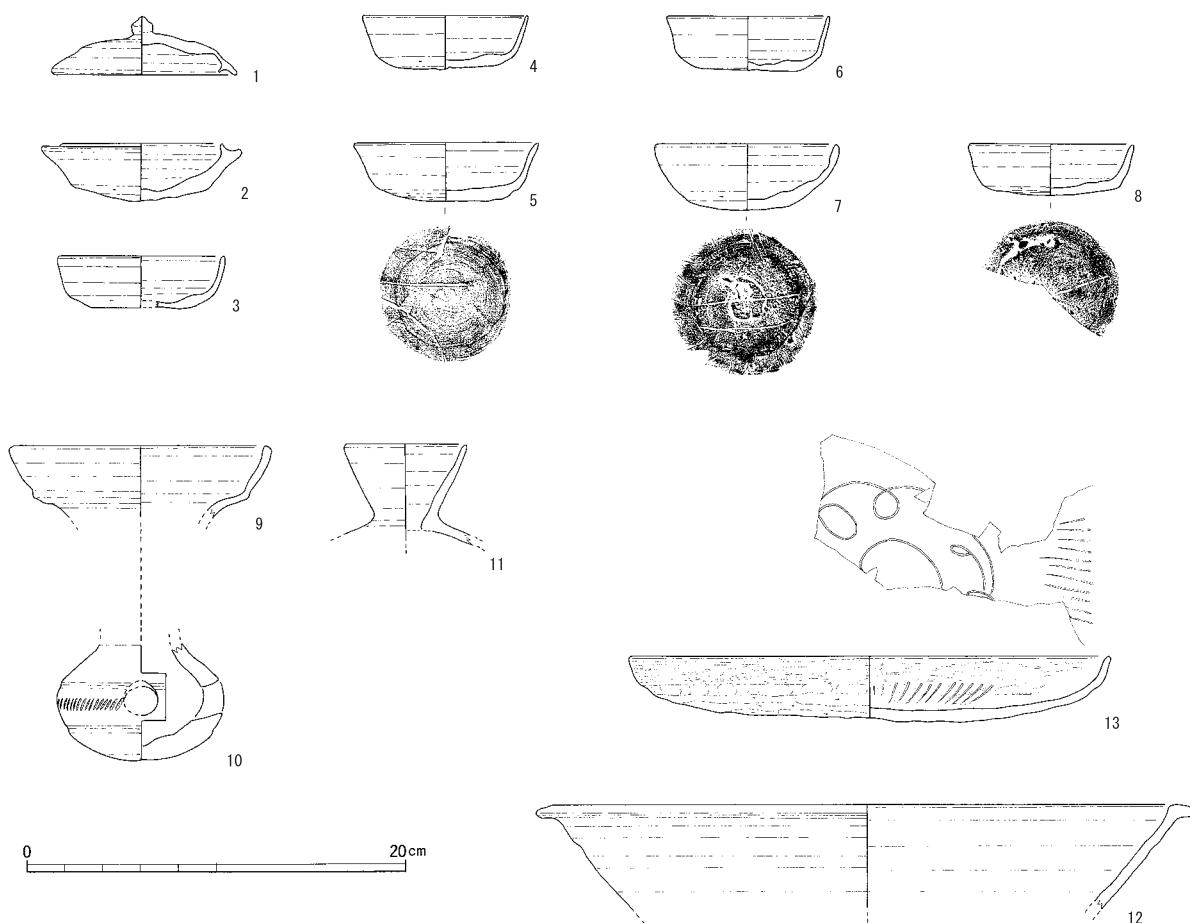
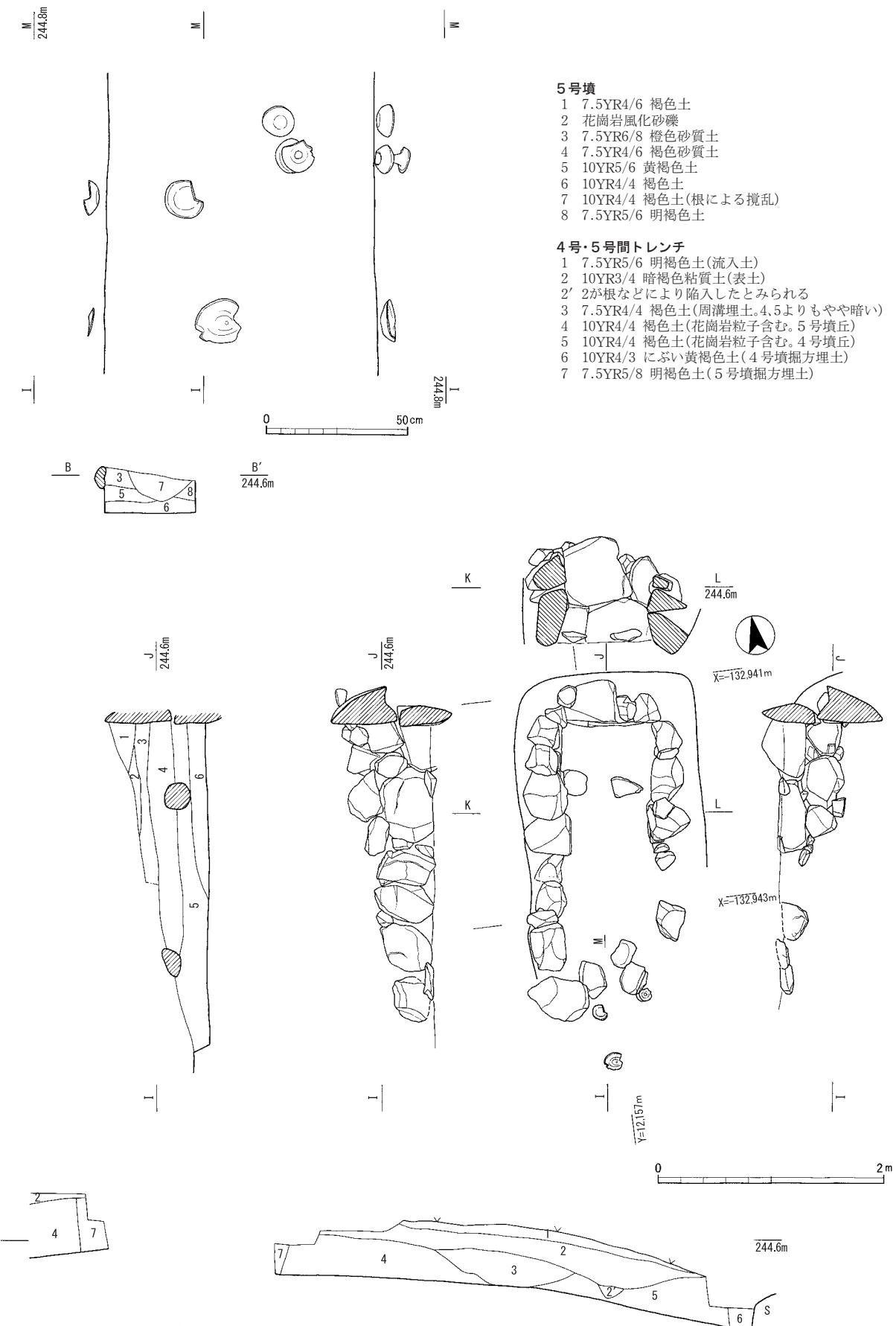


図41 4号墳遺物実測図（1：4）



4・5号間トレンチ実測図

図42 5号墳実測図 (1:50)

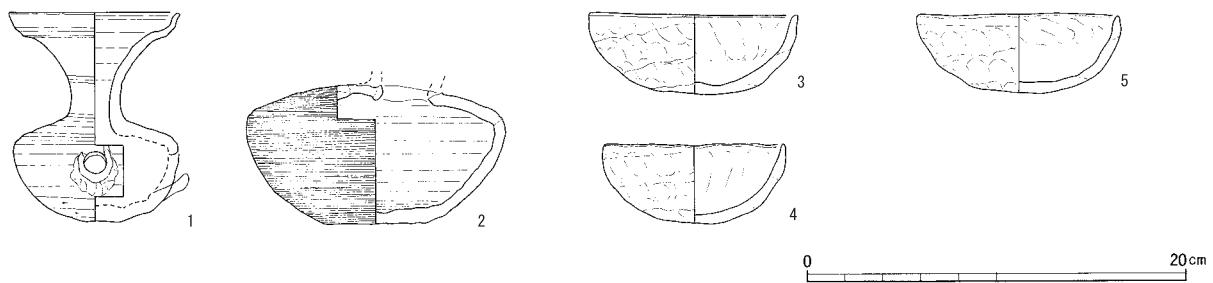


図43 5号墳遺物実測図（1：4）

墳丘の調査 石材が検出された周辺を精査し、褐色土の面で周溝を検出した。墳丘盛土はほぼ失われていた。2次調査では西側周溝は判然とせず落ち込みを検出したにとどまった。周溝は東端で4号墳と共有している。

石室の調査 石室は南北長2.2m、東西幅0.8m、残存高さは奥壁で約1mを測る。南に開口し、主軸はN7°Eである。基底部1段目を奥壁と右側壁が高さ0.4mに、左側壁は高さ0.2mにそろえているが石材の大きさはそろっていない。石室内北半に2個、1.7m南に離れて2個の石が置かれており、棺台とみられる。石室南の羨道部と考えられる箇所から須恵器甌などの遺物が出土した。

石室内出土遺物 石室内入口付近で検出した5点の土器である。1は須恵器甌である。体部中央に上外方から内下方に向け円孔を穿ち、注口を貼り付ける。頸部は細くラッパ状に開き、中央に1条の沈線が巡る。2は平瓶である。肩部及び底部と体部の境界に稜を有し肩部には沈線を巡らす。口頸部は欠損する。3～5は土師器碗である。指押さえ、指ナデで仕上げている。粘土紐の痕跡がみえるなど雑な印象である。

VIII 6号墳・7号墳・8号墳の調査

浅子谷6号墳の調査

浅子谷6号墳は、着手前には確認していなかった小石室墳である。1号墳外護列石の検出後、さらに下方に表土を除去していくと、石材が多数確認できる地点があったため石を動かさないように慎重に表土を除去したところ、長方形に積まれている状況が確認でき、石室であると認定し6号墳とした。

石室の掘削 石材の範囲をほぼ確認してから、土層観察ベルトを十字に設定し、掘削したところ石材が2段程度積まれていることを確認した。床面上10cmから石室内を8区画に分け埋土を採取し洗浄した。石室掘形及び墳丘盛土は土層観察ベルトを上方向に延長し、1号墳方向にトレーナーを掘削して確認に努めた。土層図、遺物出土状況図、石室実測図は手作業で適宜作成した。

墳丘の調査 6号墳は表面観察では全く不明であり、表土除去の際に石材の並びが検出されたものである。

位置は1号墳の裾であるが表土直下からの堆積状況は不明で、土層堆積状況からは1号墳との前後関係は判然としなかった。

石室の調査 石室は基底部で長軸長2.6m、短軸長1.15m、高さ0.5mを測る小石室である。主軸方向はN60°Eである。緩斜面から平坦になるテラス状の位置に斜面裾をから掘込んで墓坑を設定している。基底石は南が3石、北が2石、東5石、西5石で構成されている。短辺は石の大きさがそろっているが、長辺はそれほど統一されていない。2段目は西半部に残されていたが、積むというより並べるという表現が適切に思うほど、雑な積み方であった。これは基底石も同様である。天井石となるような石材は石室内からは検出されていない。また、幅1mを越える石室を覆うような石材を支えられる壁とは思えない石材の積み方である。そのため、天井石はなかつたか、石材以外の木板材などであろうかと推測する。

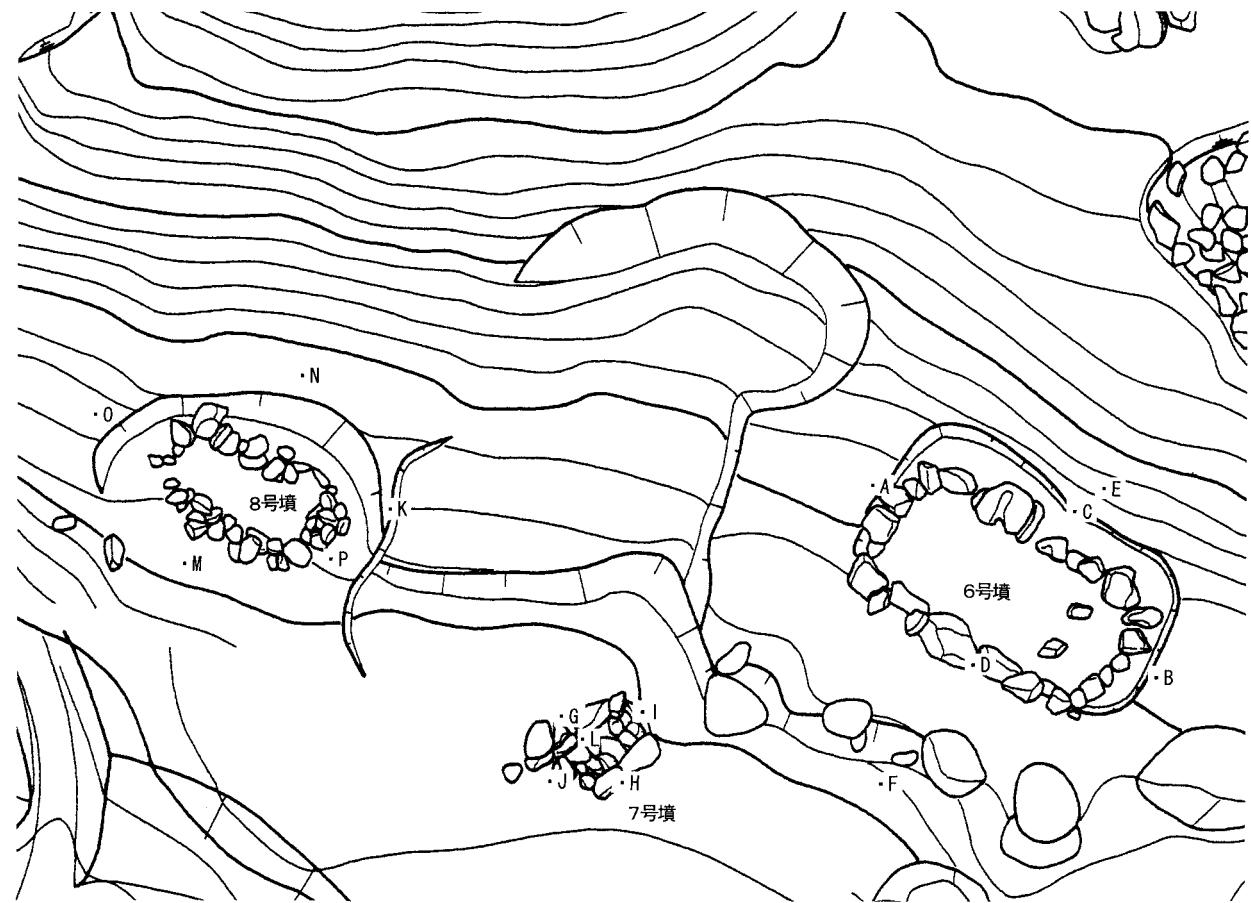


図44 6・7・8号墳ポイント図

- 1 7.5YR5/6 明褐色土
 2 10YR5/6 黄褐色土
 3 10YR5/4 にぶい黄褐色土
 4 10YR5/3 にぶい黄褐色土(堅く締まる)
 5 7.5YR5/6 明褐色土(堅く締まる)
 6 7.5YR4/3 褐色土(堅く締まる)
 7 10YR4/6 褐色土(粗い)
 8 7.5YR4/4 褐色土
 9 7.5YR4/6 褐色土(やや粘性)
 10 7.5YR4/4 褐色土(やや粘性)
 11 7.5YR4/4 褐色土

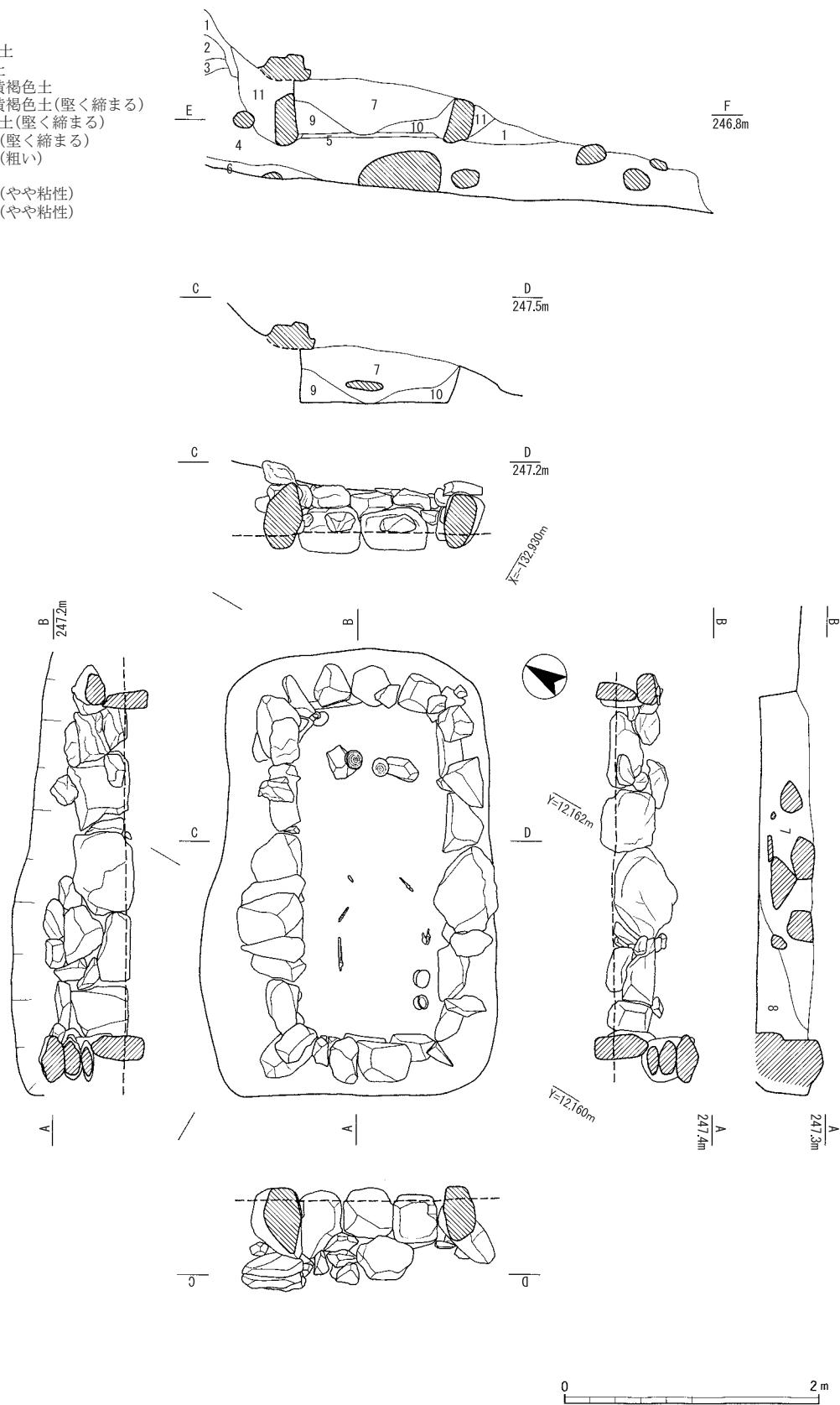


図45 6号墳実測図 (1 : 50)

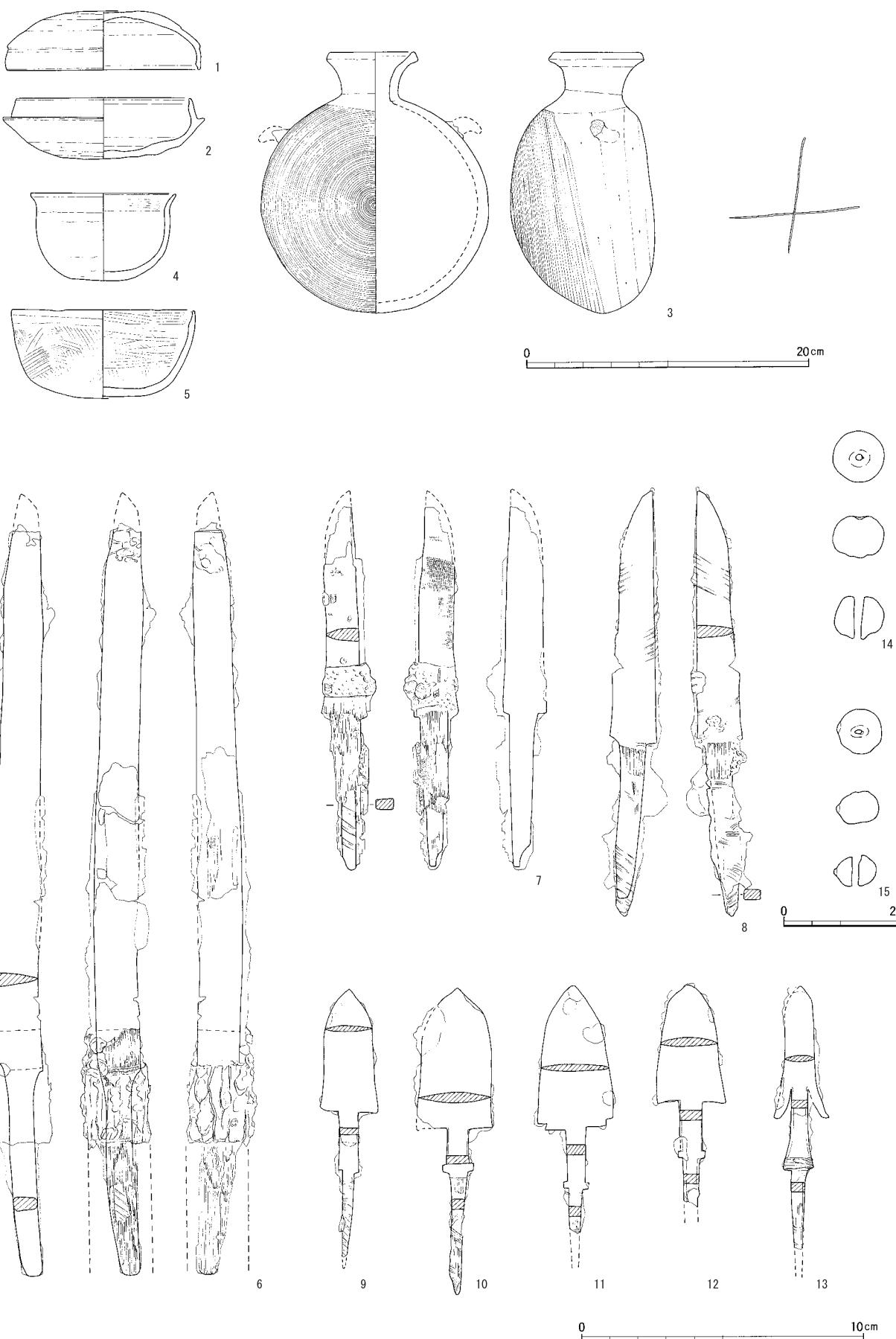


図46 6号墳遺物実測図 (1:4、1:2、1:1)

石室北半の床面から2個の石材を検出した。レベルがほぼそろう。棺台または枕石とみられる。石室掘方は石室よりやや広く長さ約3.5m、幅約2.1mを測る。

石室内出土遺物 周溝、石室掘方からは遺物は検出されなかった。石室内より須恵器提瓶・蓋杯、土師器椀、鉄製刀子・小刀・鉄鏃などが出土地した。

須恵器 1は杯蓋である。大型で天井部は扁平となり、口縁部との間ににぶい稜を巡らす。2は杯身である。1とセットとなる。底部内外面に工具痕跡が残る。立ち上がりはやや内傾し、端部を浅く凹ませる。3は提瓶である。口縁部は外反し、端部外面は内傾して頸部との境界に稜をなす。体部は前面が丸くふくれ、カキメが施される。耳は欠損しているが鉤状になるものと思われる。

土師器 4・5は土師器椀である。底部から丸く立ち上がるが、口縁部を外反させ丸く収めるもの(4)と、口縁部内面に稜をなすもの(5)とがある。

鉄製品 6は鉄製小刀である。現存刃部長19.5cmで峰を欠く。刃部背は平棟で厚さ最大0.4cmである。茎部は断面扁平方形を呈し、茎尻に向け幅を狭める。7は鹿角製刀子である。現存刃部長7.4cmで峰を欠く。刀身に纖維質が付着する。刃部背は平形で厚さ0.5cmである。柄は木質がよく残り、その上に鹿角で装飾されている。8は刀子である。刃部長9.1cm、背は平形で厚さ0.4cmである。茎部断面は方形に近い。9～13は鉄鏃である。平根式で、長三角形、柳葉形、脇抉柳葉形などがある。刃部に段闊を持つもの(11)や、茎部には棘闊を持つもの(10,11,12)がある。

浅子谷7号墳の調査

浅子谷7号墳は、着手前には確認していなかった小石室墳である。6号墳の検出後、さらに南方向に表土を除去していくと、石材が多数確認できる地点があったため石を動かさないように慎重に表土を除去したところ、長方形に並べられている状況が確認でき、石室であると認定し7号墳とした。1次調査では石材の並びは確認できなかったのが残念である。

石室の掘削 石材の範囲をほぼ確認してから、土層観察ベルトを十字に設定し掘削した。石室周辺も精査した結果、周溝とみられる溝を確認した。土層図、遺物出土状況図、石室実測図は手作業で適宜作成し

た。

石室の調査 石室は基底部で南北残存長1m、東西長0.45m、高さ0.5mを測る小石室である。主軸方向はN14°Wである。平坦面に褐色土を掘込んで墓坑を設定している。基底石は北が1石、東と西が2石残されている。東西はその上に1段積まれている。いずれの石材も花崗岩を使用しており、箇所によっては風化が進んで崩壊している石材もある。特に奥壁が著しい。石室床面は平らな石で敷き詰められていた。中央が数cm高く、南北が低い。埋土中には天井石となるような石材はみられなかった。

石室周辺を精査したところ、平面では周溝などは検出できなかった。しかし、断面観察により周溝とみられる幅0.4mほどの落ち込みを確認した。これにより、石室の西方及び北方に1.2m程度離れて周溝が設置されていたものと考えられる。直径2.8m程度の円墳と考えられよう。

出土遺物 周溝、石室掘方からは遺物は検出されなかった。石室内床面中央西より銅製耳環が1個体出土した。

金属製品 1は耳環である。銅芯銀地鍍金で心材は中空とみられる。断面は0.5cm×0.8cmとやや橢円である。今回の調査で出土した中では最も太い。

浅子谷8号墳の調査

浅子谷8号墳は、着手前には確認していなかった小石室墳である。6・7号墳の検出後、さらに南西方向に表土を除去していくと、1m平方程の板状石材が2枚確認できる地点があったため、石を動かさないように慎重に表土を除去したところ、板石材の下に石が積まれていることが判明した。開口部は無かったので竪穴系の小石室とみて天井石を除去して調査を進めた。

石室の掘削 天井石を検出、記録作業のあと重機を使い除去した。石材の周囲を精査し、石室掘形の検出を行った。石室内は十字に土層観察ベルトを設定して掘削した。壁の石積は安定していたが、南西側は2号墳墳丘の土圧によるものか、やや内傾していた。土層図、遺物出土状況図、石室実測図は手作業で適宜作成した。

墳丘の調査 8号墳は表面観察では全く不明であり、表土除去の際に天井石が検出されたもので、2号墳

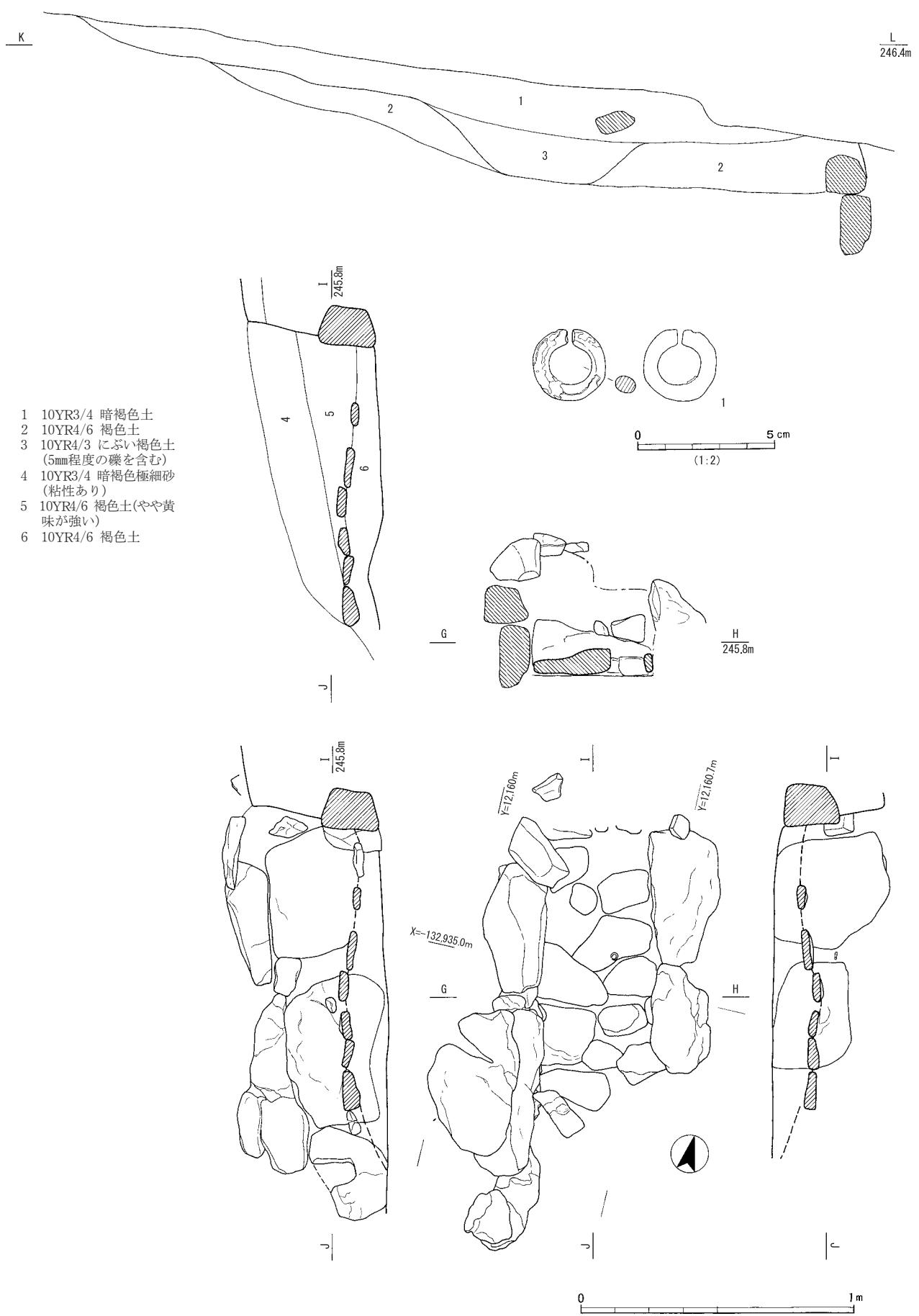


図47 7号墳実測図 (1:20)

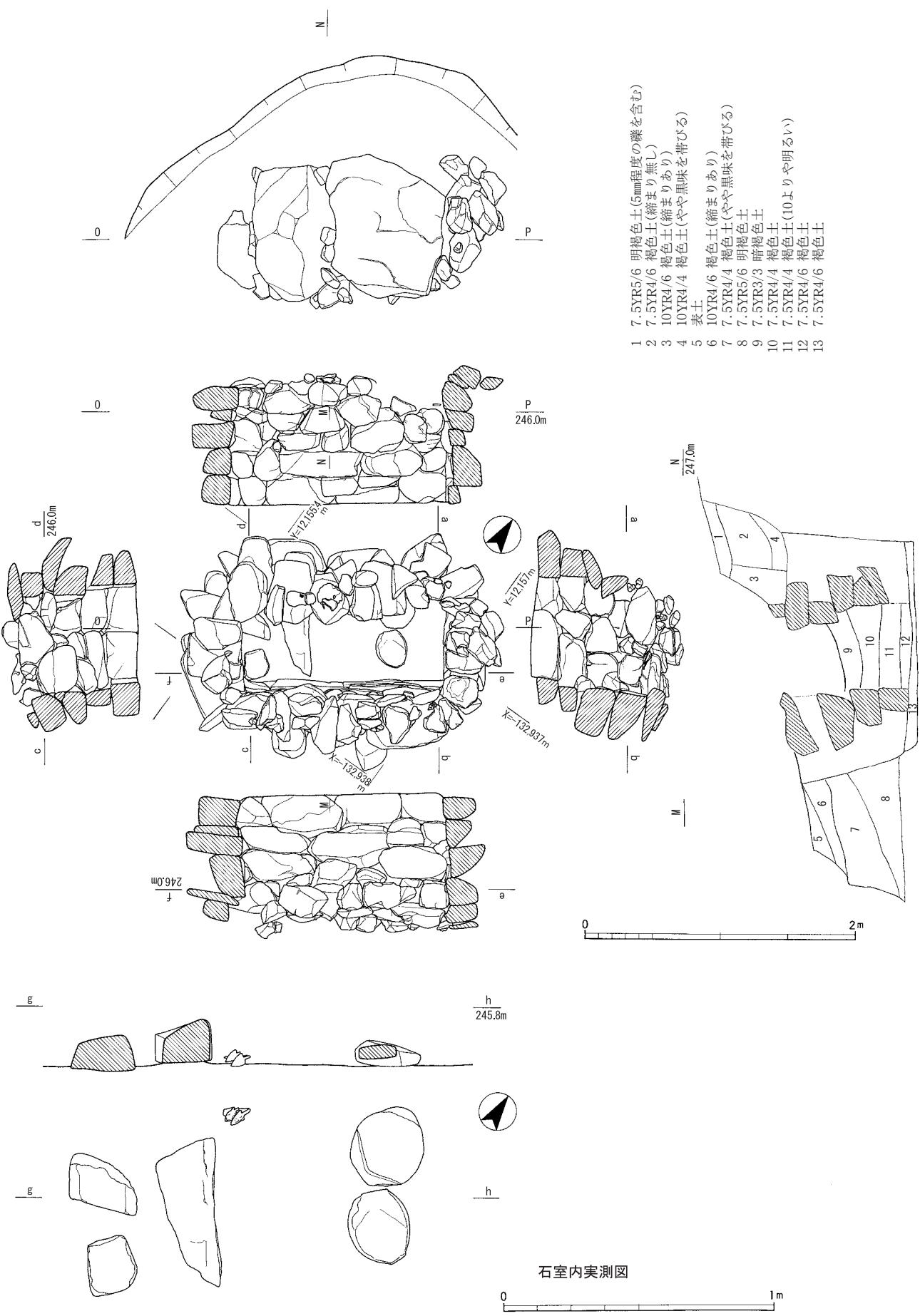


図48 8号墳実測図 (1:20, 1:10)

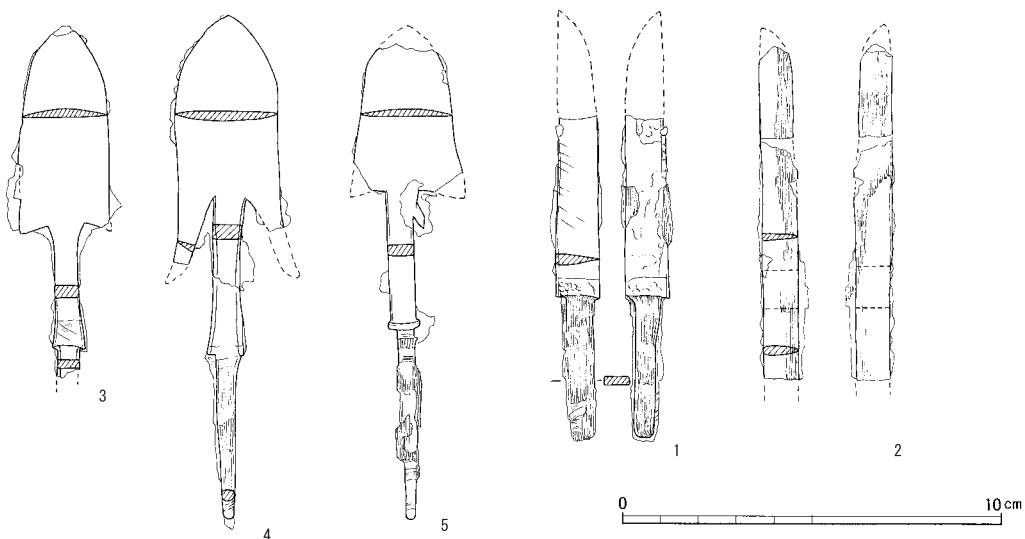


図49 8号墳遺物実測図 (1:2)

墳丘裾に位置している。表土直下からの堆積状況は不明で、土層堆積状況からは2号墳との前後関係は判然としなかった。石室西側で円形に巡るラインを検出した。検出時には掘形とみていたが、断面の形状から周溝と思われる。周溝には褐色系の土が堆積していた。

石室の調査 石室は基底部で南北長1.6m、東西長0.8m、高さ1mを測る小石室である。主軸方向はN54°Eである。緩斜面に明褐色土及び褐色土を掘込んで墓坑を設定している。基底石は南列と北列が2石、東と西が4石で構成されている。東列と西列は中央2石が大きく両端が小さい。その上の2段を0.3~0.5m程度の大きめの石材で積みあげ、さらに2段を0.2~0.3mほどの石材でやや乱れたように積みあげている。4面とも同様に積まれており、石室を構築してから天井石を載せたとみられる。石室床面から5個の石材を検出した。内4個は北端と南端に2個ずつ並べて置かれており、レベルがほぼそろうため棺台とみられる。中央やや南よりには長さ0.5mの細長い石材が置かれていた。石室掘方は不整橿円形で長さ約3m、幅約2m、深さ約1mを測る。

出土遺物 周溝、石室掘方からは遺物は検出されなかった。石室内床面中央西よりから鐵鏃が3個体出土した。他に刀子がある。

鉄製品 1・2は刀子である。1は刀身を1/3ほど欠損する。刃部背は平形で厚さは0.3cmほどである。

2は刀身部分のみの破片である。いずれも木質が付着している。刃部背は平形で厚さ0.2cmである。なお、保存処理を行ったところ、1・2は同一個体であり、接合することが判明した。3~5は鐵鏃である。いずれも平根式で3は柳葉形鏃、4は脇抉柳葉形鏃である。5は基部を欠損するため判然としないが、撫角三角形にもみえる。

IX その他の遺構と遺物

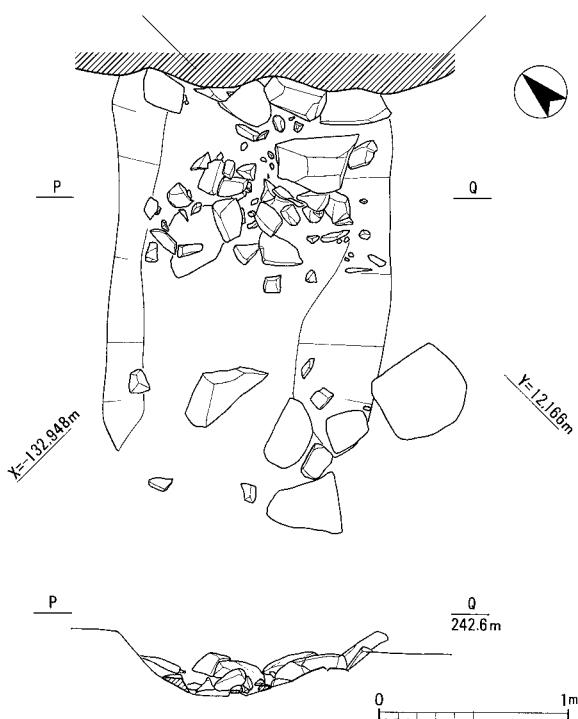


図50 SD 1 実測図 (1:40)

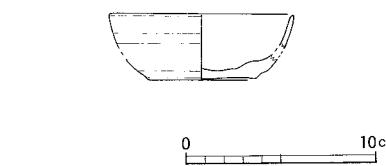


図51 SD 1 遺物実測図 (1:4)

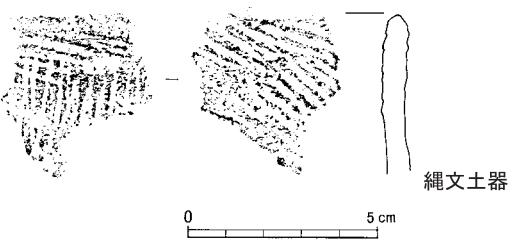


図52 その他の遺物実測図 (1:2)

その他の遺構と遺物

溝SD 1 4号墳東側で検出した2m程度の溝である。巨石から南へ延びる。断面半円状を呈し、石が雜に入れられていた。並べる、積むといった意図は窺えない。巨石の前でなんらかの祭を行ったものかとも考える。4号墳築造に当たり墳丘が影響するため、古墳築造時に行った祭祀か、巨石に対する単独の祭祀かは判然としない。あるいは、周溝を延長したものとも考えられる。須恵器杯身が1点出土した。

縄文土器 縄文中期の深鉢片とみられる。1号墳周溝から出土した。柘植川北岸では当該期の遺物の発見は数少ないと記載することとした。

| | No. | 実測番号 | 種別 | 器種 | 出土遺構 | 出土位置 | 口径/長さ (cm) | 底部径/最大 径/幅(cm) | 器高/厚さ(cm) | 重量 (g) | 色調 | 残存度 | 備考 | | |
|----|-----|--------|---------|-------|----------|---------|---------------|-------------------|----------------|---|---------------------------------|-------------------|---------------------------|--|--|
| 1号 | 1 | 001-07 | 須恵器 | 蓋 | 羨道部 | | 9.3 | 11.4 | 2.6 | 外:N7/0 内:灰N6/0 | 完形 | 取上No.7 | | | |
| | 2 | 001-02 | 須恵器 | 蓋 | 羨道部 | | 9.3 | 11.7 | 2.3 | 灰7.5Y6/1 | 11/12 | 取上No.2 | | | |
| | 3 | 001-06 | 須恵器 | 蓋 | 羨道部 | | 9.2 | 11.5 | 3.3 | 外:灰5Y6/1 内:灰白5Y7/1 | 完形 | 取上No.6 | | | |
| | 4 | 002-02 | 須恵器 | 蓋 | 羨道部 | | 9.3 | 11.6 | 2.9 | 灰5Y6/1 | 完形 | 取上No.10 | | | |
| | 5 | 001-03 | 須恵器 | 杯 | 羨道部 | | 10.6 | 7.8 | 3.2 | 灰N6/0 | 11/12 | 取上No.3 | | | |
| | 6 | 001-08 | 須恵器 | 杯 | 羨道部 | | 10.7 | 6.8 | 3.0 | 外:灰白N7/0 内:灰N6/0 | 完形 | 取上No.8 | | | |
| | 7 | 001-05 | 須恵器 | 杯 | 羨道部 | | 10.6 | 7.2 | 3.4 | 外:灰5Y6/1 内:灰白5Y7/1 | 完形 | 取上No.5 | | | |
| | 8 | 001-04 | 須恵器 | 杯 | 羨道部 | | 10.9 | 7.5 | 3.1 | 外:灰5Y6/1 内:灰白5Y7/1 | 6/12 | 取上No.4 | | | |
| | 9 | 002-01 | 須恵器 | 小壺 | 羨道部 | | 5.9 | 6.4 | 5.6 | 灰5Y6/1 | 完形 | 取上No.9 | | | |
| | 10 | 001-01 | 須恵器 | 短頸壺 | 羨道部 | | 7.4 | — | 5.9 | 灰白色7.5Y7/1 | 11/12 | 取上No.1 | | | |
| | 11 | 003-01 | 須恵器 | 平瓶 | 羨道部 | | 6.1 | 6.4 | 13.9 | 灰5Y6/1 | 8/12 | 取上No.11 体部最大径15.0 | | | |
| | 12 | 005-01 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 25.6 | 頭部 1.35X1.5 | 脚部 0.75X0.9 | | | | | | |
| | 13 | 005-02 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 24.0 | 頭部 1.3X1.8 | 脚部 0.85X0.7 | | | | 取上No.7 | | |
| | 14 | 005-03 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 22.1 | 頭部 2.2X1.3 | 脚部 0.9X0.7 | | | | 取上No.3 | | |
| | 15 | 004-03 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 17.6 | | 0.75X0.65 | | | 取上No.5 | | | |
| | 16 | 004-04 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 13.8 | | 0.65X0.5 | | | 取上No.6 | 4,5,6は一体で出土 した | | |
| | 17 | 004-02 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 22.0 | | 0.85X0.6 | | | 取上No.4 | | | |
| | 18 | 004-01 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 5.2 | | 0.7X0.55 | | | | 17の頭部か | | |
| | 19 | 004-05 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | | 4.1 | | 0.55X0.5 | | | | 取上No.8 | | |
| | 20 | 005-04 | 銅製品 | 耳環 | 羨道部 | | 2.4 | | | 11.24 | | | 耳環取上No.1 銅芯銀地鍍金 | | |
| | 21 | 005-05 | 銅製品 | 耳環 | 羨道部 | | 2.4 | | | 11.15 | | | 耳環取上No.2 銅芯銀地鍍金 | | |
| 2号 | 1 | 001-03 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | 南北アゼ | 9.4 | 12.0 | 3.25 | 外:灰白7.5Y7/1 内:褐灰10YR4/1 | 8/12 | ツマミ径1.7 | | | |
| | 2 | 001-04 | 須恵器 | 蓋 | 石室 | グリッド3 | 7.3 | 11.4 | — | 灰N5/0 | 9/12 | ツマミ部欠損 蓋 | | | |
| | 3 | 004-04 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | グリッド47 | 11.8 | 13.7 | | 外:灰7.5Y4/1 内:灰N4/ | 6/12 | 1号墳石室内出土破片と接合 | | | |
| | 4 | 004-03 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | グリッド9 | 12.0 | 14.0 | 3.6 | 外:灰白7.5Y7/1 内:灰N5/ | 6/12 | | | | |
| | 5 | 004-05 | 須恵器 | 腿 | 羨道部 | 土層アゼ | 12.8 | | | 灰7.5Y4/1 | 2/12 | | | | |
| | 6 | 001-01 | 須恵器 | 高杯 | 羨道部 | | 13.4 | 15.6 | 柱状部径4.3 | 外:灰N6/0 内:灰5Y6/1 | 6/12 | 三方透かし | | | |
| | 7 | 004-01 | 須恵器 | 高杯 | 羨道部 | 土層アゼ | 13.2 | | | 灰7.5Y6/1 | 6/12 | 三方透かし | | | |
| | 8 | 001-02 | 須恵器 | 高杯 | 羨道部 | | 13.1 | | 柱状部径4.2 | 灰5Y6/1 | 2/12 | 三方透かし | | | |
| | 9 | 004-02 | 須恵器 | 有蓋脚付壺 | 石室・羨道部接合 | | | 14.0 | | | 灰7.5Y4/1 | | 壺部片 | | |
| | 10 | 004-06 | 須恵器 | 平瓶 | 石室 | グリッド4 | 6.0 | | | 灰7.5Y4/1 | | 頭部12/12 | | | |
| | 11 | 004-07 | 須恵器 | 平瓶 | 石室 | グリッド17 | 5.8 | | | 灰N4/ | | 頭部6/12 | | | |
| | 12 | 002-02 | 土師器 | 甕 | 石室 | | 17.0 | | | 外:褐灰10YR4/1 内:暗灰N3/0 | 1/12 | | | | |
| | 13 | 005-01 | 土師器 | 甕 | 石室 | グリッド38 | 17.2 | | | 明赤褐5YR5/6 一部黒10YR7/1 | | 端部外面黒化 | | | |
| | 14 | 002-01 | 土師器 | 杯 | 石室 | 搅乱坑 | 15.0 | | | 暗灰N3/0 | 2/12 | | | | |
| | 15 | 003-01 | 陶器 | 土瓶蓋 | 石室 | | 6.6 | 8.0 | | 露胎:浅黄橙10YR8/4軸:灰白2.5Y8/2 | 4/12 | | | | |
| | 16 | 003-02 | 陶器 | 土瓶 | 石室 | | 8.2 | 7.4 | 9.6 | 外:露胎灰白5Y7/1、釉灰白5Y8/2 内:露胎浅黄2.5Y8/3、釉にぶい黄褐 10YR5/3 | 5/12 | 内面施釉 | | | |
| | 17 | 005-02 | 石製品 | 砥石 | 石室 | グリッド4.5 | 6.8 | 6.4 | 2.5 | 91 | | 破片 | 泥岩 | | |
| | 18 | 001-05 | 須恵器 | 杯蓋 | 周溝 | B7 | — | — | | 灰N6/0 | | 破片 | | | |
| | 19 | 006-01 | 鉄製品 | 刀子 | 石室 | グリッド33 | 11.1 | 1.2 | | | | 切っ先欠損 | | | |
| | 20 | 006-02 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | グリッド23 | 6.2 | | 0.65X0.45 | | | 先端欠損 | | | |
| | 21 | 006-03 | 鉄製品 | 釘 | 石室 | グリッド2 | 6.3 | | 0.55X0.55 | | | | | | |
| | 22 | 006-05 | 鉄製品 | くさび | 羨道部 | | 5.3 | | | 3.2 | 186 | | 近世遺物とみられる | | |
| | 23 | 006-04 | 銅鏡 | 鏡 | 羨道部 | | | 2.5 | 0.2 | | | | 寛永通宝か | | |
| 3号 | 石室 | 1 | 008-02 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 14.3 | | 3.7 | 外:にぶい赤褐2.5YR5/3 内:褐灰7.5YR5/1 | 11/12 | 取上No.14 | | |
| | 2 | 008-01 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 14.4 | | 3.3 | 外:灰N6/0 内:灰10Y6/1 | | 完形 | 取上No.11 | | |
| | 3 | 007-03 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 13.3 | | 3.7 | 外:灰R4/2 内:赤褐10R5/3 | 5/6 | 取上No.18 | | | |
| | 4 | 001-04 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 13.2 | | 3.6 | 外:にぶい赤7.5R4/4 内:にぶい赤褐5YR4/3 | | 完形 | 取上No.17-1 | | |
| | 5 | 007-04 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 14.1 | | 3.3 | 灰N6/0 | | 完形 | 取上No.26 | | |
| | 6 | 007-05 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 14.3 | | 3.7 | 灰N6/0 | | ほぼ完形 | 取上No.27 | | |
| | 7 | 007-06 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 12.5 | | 4.1 | 灰N5/0 | 11/12 | 取上No.30 | | | |
| | 8 | 010-03 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 14.2 | | 3.5 | 灰N5/0 | 5/6 | 破片接合(21・31・42区) | | | |
| | 9 | 010-02 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 14.3 | | 4.4 | 外:灰5Y4/1 内:灰N6/0 | 11/12 | 取上No.6 -8他 | | | |
| | 10 | 010-01 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 13.6 | | 4.4 | 外:灰N5/0 内:灰N6/0 | 3/4 | 破片接合(4,5,6区) | | | |
| | 11 | 008-04 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 12.2 | 14.4 | 4.2 | 灰N5/0 | 5/6 | 取上No.12 口縁2/3欠損 | | | |
| | 12 | 008-05 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 13.2 | 15.4 | 4.0 | 灰7.5Y6/1 | | 取上No.13 | | | |
| | 13 | 001-04 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 11.0 | 13.5 | 3.5 | 外:にぶい赤7.5R4/4 内:にぶい赤褐5YR4/3 | | 完形 | 取上No.17-2 報4と合わせた状態で出土 | | |
| | 14 | 010-06 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 10.7 | 12.6 | 3.5 | 灰7.5Y5/1 | 3/4 | 取上No.21・23・43接合 | | | |
| | 15 | 010-05 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 12.6 | 15.0 | 3.4 | 外:灰N4/0 内:灰N5/0 | 11/12 | 取上No.7,7,24,48区接合 | | | |
| | 16 | 008-03 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 11.6 | 13.9 | 4.4 | 外:灰N6/0 内:灰N5/0 | | ほぼ完形 | 取上No.5 口縁一部欠損 | | |
| | 17 | 010-04 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 10.6 | 12.4 | 4.0 | 7.5Y5/1 | | ほぼ完形 | 44区 | | |
| | 18 | 001-02 | 須恵器 | 腿 | 石室 | 頭部A.6 | 10.2 | | 13.5 | 7.5Y5/1 | | ほぼ完形 | 取上No.16 口縁欠損 | | |
| | 19 | 004-03 | 須恵器 | 甕 | 石室 | | 17.0 | | | 外:N3/0 内:N4/0 | | 口縁部 | 12 取上No.3,2区他接合 | | |
| | 20 | 012-03 | 土師器 | 碗 | 石室 | | 13.9 | 6.5 | 6.4 | にぶい黄褐10YR5/4 | | 完形 | 取上No.15 | | |
| | 21 | 012-02 | 土師器 | 碗 | 石室 | | 14.0 | 5.3 | 6.4 | 7.5YR6/6 | | 完形 | 取上No.1 | | |
| | 22 | 012-01 | 土師器 | 碗 | 石室 | | 13.0 | | 5.7 | にぶい黄褐10YR6/4 外に黒斑有り | 1/3 | 石室内C区 | | | |
| | 23 | 011-02 | 土師器 | 高杯 | 石室 | | 12.5 | 9.3 | 8.8 | 外:にぶい黄褐10YR5/4～褐灰10YR4/1 内:にぶい橙7.5YR6/4 | 1/4 | 取上No.32,27・32区 | | | |
| | 24 | 001-01 | 土師器 | 高杯 | 石室 | | 12.3 | 9.2 | 8.6 | にぶい橙7.5YR6/4～褐灰10YR4/1 | 2/3 | 取上No.24,48区 | | | |
| | 25 | 011-01 | 土師器 | 高杯 | 石室 | | | | | 外:にぶい黄褐7.5YR5/4～灰黄褐 10YR4/2 内:暗灰黄2.5Y4/2 | 3/4 | 取上No.41,46区 | | | |
| | 26 | 011-03 | 土師器 | 高杯 | 石室 | | 12.2 | | | にぶい黄褐7.5YR5/4～暗灰黄2.5Y4/2 | 1/4 | 石室内D区 | | | |
| | 27 | 003-01 | 土師器 | 甕 | 石室 | | 13.6 | | 17.5 | にぶい黄褐10YR7/3 外に黒斑有り | 5/6 | 取上No.20・21・43 | | | |
| | 28 | 002-01 | 土師器 | 甕 | 石室 | | 10.3 | | 14.7 | にぶい橙7.5YR6/4 | 5/6 | 取上No.10・25・29 | | | |
| | 29 | 014-02 | ミニチュア土器 | 碗 | 石室 | | 4.1 | | 3.5 | 外:暗灰N3/0 内:灰黄褐10YR5/2 | 11/12 | 47区 口縁部2/12残 | | | |
| | 30 | 011-04 | ミニチュア土器 | 碗 | 石室 | | 5.6 | | 4.0 | 黑褐2.5Y3/1 | 3/4 | 8・43区 | | | |
| | 31 | 014-03 | ミニチュア土器 | 鉢 | 石室 | | 9.7 | 3.9 | 5.1 | 外:にぶい橙7.5YR6/4～褐灰10YR4/1 内:暗灰N3/0 -一部黒色化 | 11/12 | 46区 口縁部2/12残 | | | |
| | 32 | 026-01 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 13.7 | 3.0 | 0.4 | 平根式長三角形鐵 | | 取上No.33 | | | |
| | 33 | 026-06 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 13.0 | 2.0 | 0.4 | 平根式柳葉形鐵 | | 取上No.50 | | | |
| | 34 | 026-02 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 11.6 | 2.2 | 0.4 | 平根式揚袂柳葉形鐵 | | 取上No.34 | | | |
| | 35 | 026-03 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 14.6 | 3.6 | 0.4 | 平根式揚袂柳葉形鐵 | | 取上No.36 | | | |
| | 36 | 026-04 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 12.2 | 2.8 | 0.3 | 平根式揚袂柳葉形鐵 | | 取上No.37 | | | |
| | 37 | 026-08 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 11.7 | 2.4 | — | 平根式揚袂柳葉形鐵 | | 取上No.2・4 | | | |
| | 38 | 026-05 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 11.0 | 2.8 | 0.3 | 平根式揚袂柳葉形鐵 | | 取上No.40 | | | |
| | 39 | 026-07 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 9.8 | 2.6 | 0.4 | 平根式揚袂柳葉形鐵 | | 取上No.49 | | | |
| | 40 | 026-09 | 鉄製品 | 鐵 | 石室 | | 11.9 | | | 茎部のみ | | 取上No.35,1区 | | | |
| | 41 | 026-10 | 鉄製品 | 刀子 | 石室 | | 11.0 | 1.5 | | | | 8区 | | | |
| | 42 | 026-11 | 金属製品 | 耳環 | 石室 | | 1.6 | | | 0.07 | | 1/4 19区 | | | |
| | 43 | 026-12 | 金属製品 | 耳環 | 石室 | | 1.6 | | </ | | | | | | |

| | No. | 実測番号 | 種別 | 器種 | 出土遺構 | 出土位置 | 口径/長さ (cm) | 底部径/最大 径/幅(cm) | 器高/厚さ(cm) | 重量 (g) | 色調 | 残存度 | 備考 |
|----|-----|--------|-----|-----|-------------|------|---------------|-------------------|-----------|-----------|-------------------------------------|-------|-------------------|
| 羨道 | | | | | | | | | | | | | |
| | 340 | 007-01 | 須恵器 | 壺蓋 | 羨道部 | | 7.4 | 10.7 | 3.5 | | 灰N5/0 | 2/3 | 341の蓋か |
| | 341 | 007-02 | 須恵器 | 壺 | 羨道部 | | 8.4 | 11.0 | 7.3 | | 灰N6/0 | 11/12 | |
| | 342 | 004-01 | 須恵器 | 小壺 | 羨道部 | | 8.0 | 10.0 | | | 灰7.5Y6/1 | 1/4 | |
| | 343 | 004-02 | 須恵器 | 直口壺 | 羨道部 | | 11.0 | 14.8 | | | 灰N6/0 | 1/2 | 閉塞石の間から |
| | 344 | 013-01 | 須恵器 | 短頸壺 | 羨道部 | | 8.8 | | | | 灰5Y7/1 | 1/4 | |
| | 345 | 014-01 | 土師器 | 椀 | 羨道部 | | 13.2 | | 5.0 | | にぶい黄橙10YR7/4 | 1/12 | |
| | 346 | 004-04 | 土師器 | 小壺 | 羨道部 | | 8.1 | 9.9 | | | 外:にぶい黄橙10YR7/4 内:にぶい橙7.5YR7/4 | 1/4 | 羨道裾 |
| | 347 | 005-01 | 土師器 | 杯壺 | 羨道部 | | 10.0 | | | | にぶい橙7.5YR6/4 | 5/12 | 羨道裾 |
| 周溝 | | | | | | | | | | | | | |
| | 348 | 005-05 | 須恵器 | 杯蓋 | 周溝トレンチ | E12 | 9.0 | 9.6 | 3.8 | | 外:褐灰10YR6/1 内:灰7.5Y5/1 | 1/12 | |
| | 349 | 006-03 | 須恵器 | 杯蓋 | 周溝トレンチ | E12 | 9.0 | 10.8 | | | 灰7.5Y6/1 | 5/12 | ツマミ欠損 |
| | 350 | 006-01 | 須恵器 | 杯身 | 周溝トレンチ | E12 | 10.0 | 11.8 | 3.3 | | 灰白5Y7/1 | 1/12 | |
| | 351 | 006-02 | 須恵器 | 杯身 | 周溝トレンチ | E12 | 10.6 | 12.6 | | | 外:暗オリーブ灰2.5GY4/1 内:オリーブ灰2.5GY6/1 | 1/3 | 外面にヘラ描き |
| | 352 | 005-02 | 須恵器 | 台付鉢 | 周溝 | G12 | 13.6 | | | | 外:灰白N4/ 内:灰5Y6/1 | 5/12 | |
| | 353 | 009-01 | 土師器 | 壺 | 埴丘壺 | F14 | (頸部)8.0 | 15.8 | | | 橙5YR7/6 | | 頸部11/12 口縁端部、底部欠損 |
| 掘方 | 354 | 005-04 | 土師器 | 甕 | 埴丘壺(石室掘方埋土) | | 10.0 | | | | 外:灰褐7.5YR6/3 内:にぶい黄橙10YR6/3 | 1/12 | |

4号

| | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|-----|-----|------|-----|--------|------|-----|--|---------------------------|-------|----------------|
| 1 | 002-01 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 9.8 | | 3.1 | | 外:黄灰2.5Y6/1 内:灰5Y6/1 | 11/12 | 取上No.1 |
| 2 | 003-02 | 須恵器 | 杯身 | トレンチ | G10 | 8.6 | 10.5 | 3 | | 灰5Y6/1 | 5/12 | |
| 3 | 002-04 | 須恵器 | 杯身 | 羨道部 | | 8.8 | | 2.8 | | 外:灰7.5Y5/1,6/1 内:灰7.5Y6/1 | 1/12 | |
| 4 | 002-02 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 8.8 | | 2.9 | | 外:灰5Y6/1 内:灰7.5Y6/1 | | ほぼ完形 |
| 5 | 001-02 | 須恵器 | 杯 | 羨道部 | | 9.8 | | 3.1 | | 外:褐灰7.5YR5/3 内:灰褐7.5YR5/2 | 1/4 | 外面にヘラ記号 |
| 6 | 002-03 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 8.6 | | 2.9 | | 褐灰10YR6/1 | 5/12 | ほぼ完形 取上No.3 |
| 7 | 002-05 | 須恵器 | 杯身 | 羨道部 | | 9.7 | | 3.5 | | 外:灰7.5Y6/1 内:灰7.5Y5/1 | 5/12 | |
| 8 | 002-06 | 須恵器 | 杯身 | トレンチ | G10 | 8.7 | | 2.7 | | 灰7.5Y5/1 | 1/2 | |
| 9 | 003-03 | 須恵器 | 腿 | 羨道部 | G10 | 13.8 | | | | 灰5Y6/1 | 1/6 | 口縁部のみ 10と同一個体か |
| 10 | 003-04 | 須恵器 | 腿 | 包含層 | G9 | 穿孔径1.8 | 8.8 | | | 灰5Y6/1 | 破片 | 9と同一個体か |
| 11 | 001-03 | 須恵器 | 提瓶 | 羨道部 | | 6.5 | | | | 灰N5/0 | 1/6 | 頸部のみ |
| 12 | 003-05 | 陶器 | 擂り鉢 | 包含層 | G9 | 34.8 | | | | 施釉:灰褐7.5YR4/2 黒褐7.5YR3/1 | 破片 | |
| 13 | 001-01 | 土師器 | 皿 | 羨道部 | G10 | 25.3 | | 3.5 | | 橙5YR6/6 | 1/12 | 内面に暗文 |

5号

| | | | | | | | | | | | | |
|---|--------|-----|----|----|----|------|------|------|--|--|------|--------|
| 1 | 001-05 | 須恵器 | 腿 | 石室 | | 9 | 8.6 | 11.1 | | 灰5Y6/1 | 3/4 | |
| 2 | 001-04 | 須恵器 | 平瓶 | 石室 | | | 13.6 | | | 外:暗灰N3 内:灰N6 | 7/12 | 頸部欠損 |
| 3 | 001-01 | 土師器 | 碗 | 石室 | F9 | 11 | | 4.2 | | 浅黄橙10YR8/4 | 完形 | 取上No.5 |
| 4 | 001-03 | 土師器 | 椀 | 石室 | | 9.5 | | 4.2 | | 外:にぶい黄橙10YR7/4～褐灰10YR5/1 内:にぶい黄橙10YR6/3 | 2/3 | 取上No.4 |
| 5 | 001-02 | 土師器 | 椀 | 石室 | | 10.7 | | 4.2 | | にぶい黄橙10YR7/4 | 3/4 | 取上No.2 |

6号

| | | | | | | | | | | | | |
|----|--------|-----|-------|----|--|------|------|------|------|--------------|---------------------|---------|
| 1 | 002-03 | 須恵器 | 杯蓋 | 石室 | | 13.8 | | 4.2 | | 灰N6/0 | 完形 | 取上No.11 |
| 2 | 002-04 | 須恵器 | 杯身 | 石室 | | 12.5 | 14.4 | 4.2 | | 灰5Y6/1 | ほぼ完形 | 取上No.10 |
| 3 | 001-01 | 須恵器 | 提瓶 | 石室 | | 6.6 | 16 | 18.6 | | 灰10Y6/1 | 5/6 | 取上No.12 |
| 4 | 002-02 | 土師器 | 椀 | 石室 | | 10.3 | | 6.3 | | にぶい橙7.5YR6/4 | 完形 | 取上No.8 |
| 5 | 002-01 | 土師器 | 椀 | 石室 | | 13 | | 6.3 | | にぶい橙7.5YR6/4 | 完形 | 取上No.9 |
| 6 | 004-01 | 鉄製品 | 小刀 | 石室 | | 26.6 | 1.6 | 0.4 | | | 取上No.1 鞘・柄の有機物付着 | |
| 7 | 004-03 | 鉄製品 | 鹿角装刀子 | 石室 | | 12.8 | 1.2 | 0.4 | | | 取上No.2 鹿角装刀柄、鞘に漆皮膜 | |
| 8 | 004-02 | 鉄製品 | 刀子 | 石室 | | 15 | 1.5 | 0.4 | | | 取上No.13 有機質付着 | |
| 9 | 004-04 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 9.6 | 1.8 | 0.25 | | | 取上No.3 茎部に木質付着 | |
| 10 | 004-05 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 10.9 | 2.7 | 0.38 | | | 取上No.4 茎部に木質付着 | |
| 11 | 004-07 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 9.4 | 1.9 | 0.25 | | | 取上No.5-1 茎部に木質・樹皮付着 | |
| 12 | 004-08 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 8.8 | 2.7 | 0.24 | | | 取上No.6 茎部に木質付着 | |
| 13 | 004-06 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 7.8 | 2.5 | 0.3 | | | 取上No.7 茎部に樹皮付着 | |
| 14 | 003-01 | 土製品 | 丸玉 | 石室 | | 0.73 | 0.92 | | 0.61 | 暗灰色 | 孔径0.15 | |
| 15 | 003-02 | 土製品 | 丸玉 | 石室 | | 0.6 | 0.79 | | 0.36 | 暗灰色 | 孔径0.12 | |

7号

| | | | | | | | | | | | | |
|---|--------|------|----|----|--|-----|--|-------|--|--|-------|--|
| 1 | 001-01 | 金属製品 | 耳環 | 石室 | | 2.6 | | 15.88 | | | 断面楕円形 | |
|---|--------|------|----|----|--|-----|--|-------|--|--|-------|--|

8号

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|----|----|--|------|-----|------|--|--|--|-------------|
| 3 | 001-01 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 9.3 | 2.8 | 0.2 | | | | 取上No.1 |
| 4 | 001-02 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 13.2 | 2.7 | 0.35 | | | | 取上No.2 |
| 5 | 001-03 | 鉄製品 | 鎌 | 石室 | | 12.5 | 2.9 | 0.2 | | | | 取上No.3 |
| 1·2 | 001-04-05 | 鉄製品 | 刀子 | 石室 | | 8.4 | 1.1 | | | | | 2区土砂中 処理後接合 |

表2 遺物観察表②

| No. | 墳形 | 墳丘規格 | | | 埋葬施設 | | | 石室 | | | | 時期 | 備考 | |
|-----|----|------|------|---------|-------|--------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-------|------------|
| | | 長径 | 短径 | 墳高 | 種類 | 主軸角度 | 玄室長 | 玄室幅 | 玄室高 | 羨道長 | 羨道幅 | 羨道高 | | |
| 1 | 円墳 | 11.0 | 11.0 | (現存)3.0 | 横穴式石室 | N0° | 3.4 | 1.4 | 2.1 | 4.1 | 1.0 | 1.3 | TK217 | 外護列石 天井石欠損 |
| 2 | 円墳 | 14.5 | 13.0 | 4.0 | 横穴式石室 | N6° E | 4.5 | 2.3 | 2.6 | 4.0 | 1.6 | 不明 | | 羨道天井石欠損 敷石 |
| 3 | 円墳 | 14.0 | 12.0 | 4.5 | 横穴式石室 | N60° W | 4.9 | 2.0 | 2.3 | 4.1 | 1.3 | 1.4 | TK10 | ほぼ完存 横石 敷石 |
| 4 | 円墳 | 8.0 | 7.0 | — | 横穴式石室 | N6° E | 2.8 | 1.2 | 1.2 | — | — | — | TK217 | 棺台 |
| 5 | 円墳 | 6.0 | — | — | 横穴式石室 | N7° E | 2.2 | 0.8 | 1.0 | — | — | — | | 棺台 |
| 6 | 不明 | | | | 小石室 | N60° E | 2.6 | 1.15 | 0.5 | — | — | — | TK10 | 敷石 |
| 7 | 円墳 | | 2.8 | | 小石室 | N14° W | 1.0 | 0.45 | 0.5 | — | — | — | | 天井石 |
| 8 | 不明 | — | | | 小石室 | N54° E | 1.6 | 0.8 | 1.0 | — | — | — | | 天井石 |
| 9 | 不明 | | | | 小石室? | | | | | | | | | 天井石 |
| 10 | 不明 | | | | 小石室? | | | | | | | | | 天井石 |

表3 古墳一覧表

| No. | 実測番号 | 種別 | 材質 | 出土グリッド | 最大径(cm) | 長さ(cm) | 孔面径(cm) | 孔深(cm) | 孔径(cm) | 最大径(cm) | 孔面径(cm) | 孔深(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 色調 | 備考 | | | |
|-----|--------|----|-------|--------|---------|--------|---------|---------|-----------|---------|---------|--------|--------|-------|-----|-----------|------------|-----------|-----|
| 44 | 015-01 | 粟玉 | 石英ガラス | 1 | 4.1 | 3.5 | 2.0 | 1.5 | 0.06 青 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 3.3 | 1.8 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | | |
| 45 | 015-02 | 粟玉 | 石英ガラス | 4 | 4.2 | 4.95 | 2.0 | 1.0~2.0 | 0.13 青 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 3.6 | 3.5 | 1.9 | 1.2 | 0.06 緑 | 不透明 | |
| 46 | 015-03 | 粟玉 | 石英ガラス | 7 | 3.5 | 2.1 | 2.0 | 0.8~1.2 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 4.0 | 2.3 | 2.2 | 1.1 | 0.05 緑 | 不透明 | |
| 47 | 015-04 | 粟玉 | 石英ガラス | 8 | 3.0 | 2.1 | 1.5 | 1.0~2.0 | 0.02 白 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 4.0 | 2.9 | 2.4 | 1.1 | 0.07 緑 | 不透明 | |
| 48 | 015-05 | 粟玉 | 滑石 | 8 | 5.0 | 4.0 | 1.5 | 1.0~2.0 | 0.17 白 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 3.7 | 3.2 | 1.8 | 1.1 | 0.05 緑 | 不透明 | |
| 49 | 015-06 | 粟玉 | 石英ガラス | 8 | 2.7 | 2.0 | 1.5 | 1.0~2.0 | 0.01 鉛 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 3.4 | 2.0 | 1.7 | 1.1 | 0.03 青 | 半透明 | |
| 50 | 015-07 | 粟玉 | 石英ガラス | 8 | 3.5 | 2.0 | 2.0 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 3.7 | 2.5 | 2.0 | 1.1 | 0.06 青 | 半透明 | |
| 51 | 015-08 | 粟玉 | 石英ガラス | 9 | 3.4 | 2.0 | 2.5 | 1.0 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 31 | 3.6 | 2.3 | 1.7 | 1.1 | 0.06 緑 | 不透明 | |
| 52 | 015-09 | 粟玉 | 石英ガラス | 12 | 4.1 | 2.6 | 2.2 | 1.3 | 0.06 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.7 | 2.3 | 1.7 | 1.0 | 0.05 緑 | 不透明 | |
| 53 | 015-10 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 4.4 | 2.3 | 2.2 | 1.3 | 0.06 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.7 | 4.0 | 2.3 | 1.2 | 0.13 青 | 半透明 | |
| 54 | 015-11 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 4.2 | 2.5 | 2.2 | 1.5 | 0.05 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.4 | 2.9 | 2.4 | 1.3 | 0.08 黄 | 不透明 | |
| 55 | 015-12 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 2.6 | 1.2 | 1.5 | 1.0 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 2.6 | 3.8 | 2.7 | 1.9 | 1.3 | 0.05 青 | 半透明 |
| 56 | 015-13 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 2.8 | 1.5 | 1.5 | 1.0 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 2.9 | 2.0 | 1.5 | 1.1 | 0.02 青 | 半透明 | |
| 57 | 015-14 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 3.2 | 1.5 | 2.0 | 1.2 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.6 | 2.4 | 1.8 | 0.95 | 0.04 黄 | 不透明 | |
| 58 | 015-15 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 2.7 | 1.7 | 2.0 | 1.0 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.6 | 2.1 | 1.2 | 0.05 緑 | 半透明 | | |
| 59 | 015-16 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 3.4 | 2.5 | 1.2 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.4 | 2.9 | 2.2 | 1.1 | 0.08 青 | 不透明 | |
| 60 | 015-17 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 5.0 | 3.3 | 3.1 | 2.1 | 0.1 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.2 | 2.2 | 2.2 | 1.6 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 61 | 015-18 | 粟玉 | 石英ガラス | 14 | 2.8 | 1.1 | 1.2 | 0.8 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 2.9 | 2.6 | 1.2 | 0.9 | 0.03 水黄 | 半透明 | |
| 62 | 015-19 | 粟玉 | 石英ガラス | 14 | 2.9 | 1.2 | 1.8 | 1.0 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.3 | 2.2 | 1.7 | 1.0 | 0.06 黄 | 不透明 | |
| 63 | 015-20 | 粟玉 | 石英ガラス | 14 | 3.2 | 2.0 | 2.2 | 1.5 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.2 | 2.3 | 1.1 | 0.06 緑 | 不透明 | | |
| 64 | 015-21 | 粟玉 | 石英ガラス | 14 | 3.5 | 2.2 | 2.0 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.45 | 2.5 | 1.5 | 0.8 | 0.02 黄 | 不透明 | |
| 65 | 015-22 | 粟玉 | 石英ガラス | 14 | 4.0 | 2.05 | 2.7 | 1.9 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.6 | 2.1 | 1.3 | 0.05 緑 | 不透明 | | |
| 66 | 015-23 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 3.2 | 1.9 | 1.8 | 1.0 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.05 | 2.3 | 2.1 | 1.1 | 0.05 青 | 不透明 | |
| 67 | 015-24 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 2.7 | 2.1 | 1.9 | 1.1 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.0 | 1.9 | 2.1 | 1.2 | 0.06 緑 | 不透明 | |
| 68 | 015-25 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 2.9 | 1.6 | 2.0 | 1.1 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 4.1 | 2.5 | 2.1 | 1.9 | 0.07 黄 | 不透明 | |
| 69 | 015-26 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 3.3 | 1.9 | 2.0 | 1.2 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.3 | 2.4 | 1.8 | 1.1 | 0.03 黄 | 不透明 | |
| 70 | 015-27 | 粟玉 | 石英ガラス | 13 | 3.7 | 2.1 | 2.2 | 1.3 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 32 | 3.6 | 2.2 | 1.9 | 1.1 | 0.05 緑 | 半透明 | |
| 71 | 015-28 | 粟玉 | 石英ガラス | 14 | 3.3 | 2.1 | 2.0 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 33 | 4.2 | 2.5 | 1.3 | 0.05 青 | 半透明 | | |
| 72 | 015-29 | 粟玉 | 石英ガラス | 15 | 3.2 | 2.8 | 1.3 | 1.0 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 33 | 3.4 | 2.15 | 2.1 | 1.3 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 73 | 015-30 | 粟玉 | 石英ガラス | 15 | 3.5 | 3.1 | 2.1 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 33 | 3.4 | 2.15 | 2.5 | 1.2 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 74 | 015-31 | 粟玉 | 石英ガラス | 18 | 2.7 | 2.1 | 1.3 | 1.0 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 36 | 4.2 | 2.55 | 1.6 | 1.0 | 0.06 緑 | 不透明 | |
| 75 | 015-32 | 粟玉 | 石英ガラス | 18 | 3.7 | 3.1 | 2.2 | 1.0 | 0.05 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 2.7 | 2.3 | 1.4 | 0.9 | 0.03 緑 | 半透明 | |
| 76 | 016-03 | 粟玉 | 石英ガラス | 18 | 3.3 | 2.0 | 2.2 | 1.0 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.7 | 1.9 | 1.1 | 0.02 緑 | 半透明 | |
| 77 | 016-04 | 粟玉 | 石英ガラス | 18 | 3.1 | 1.4 | 1.8 | 1.0 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.7 | 1.8 | 1.1 | 0.05 緑 | 半透明 | |
| 78 | 016-05 | 粟玉 | 石英ガラス | 19 | 3.0 | 1.9 | 1.9 | 1.1 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.6 | 1.8 | 1.3 | 1.1 | 0.06 緑 | 不透明 | |
| 79 | 016-06 | 粟玉 | 石英ガラス | 19 | 3.5 | 2.0 | 1.9 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 4.3 | 2.7 | 2.0 | 1.0 | 0.04 緑 | 半透明 | |
| 80 | 016-07 | 粟玉 | 石英ガラス | 19 | 3.5 | 2.0 | 1.2 | 0.9 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.9 | 2.2 | 1.0 | 0.06 緑 | 不透明 | | |
| 81 | 016-08 | 粟玉 | 石英ガラス | 19 | 3.1 | 2.3 | 1.8 | 1.0 | 0.05 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.4 | 3.0 | 1.4 | 0.9 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 82 | 016-09 | 粟玉 | 石英ガラス | 19 | 3.4 | 1.8 | 2.5 | 1.5 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 4.3 | 2.5 | 1.2 | 0.02 緑 | 不透明 | | |
| 83 | 016-10 | 粟玉 | 滑石 | 19 | 5.0 | 4.1 | 1.8 | 1.0 | 0.17 白 | 不透明 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 2.2 | 2.0 | 0.9 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 84 | 016-11 | 白玉 | 滑石 | 19 | 3.4 | 2.3 | 2.6 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.7 | 2.0 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 85 | 016-12 | 粟玉 | 石英ガラス | 20 | 2.4 | 0.95 | 1.8 | 0.9 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.2 | 2.0 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 86 | 016-13 | 粟玉 | 石英ガラス | 21 | 4.3 | 2.7 | 2.1 | 1.4 | 0.09 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.4 | 2.1 | 1.5 | 0.03 緑 | 半透明 | |
| 87 | 016-14 | 粟玉 | 石英ガラス | 21 | 3.7 | 2.7 | 1.9 | 1.2 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.3 | 2.0 | 1.0 | 0.06 緑 | 不透明 | |
| 88 | 016-15 | 粟玉 | 石英ガラス | 22 | 3.3 | 2.0 | 1.6 | 1.0 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 3.3 | 1.4 | 1.1 | 0.05 緑 | 不透明 | |
| 89 | 016-16 | 粟玉 | 石英ガラス | 22 | 2.9 | 2.0 | 1.8 | 1.1 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.8 | 1.2 | 0.02 緑 | 不透明 | | |
| 90 | 016-17 | 粟玉 | 石英ガラス | 22 | 2.9 | 1.5 | 1.5 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.8 | 1.6 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 91 | 016-18 | 粟玉 | 石英ガラス | 22 | 3.2 | 1.9 | 1.9 | 1.2 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.5 | 2.2 | 2.0 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 92 | 016-19 | 粟玉 | 石英ガラス | 22 | 3.5 | 2.0 | 1.9 | 1.2 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.3 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 93 | 016-20 | 粟玉 | 石英ガラス | 22 | 5.1 | 3.3 | 2.0 | 1.6 | 0.16 白 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 3.3 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 94 | 016-21 | 白玉 | 滑石 | 22 | 5.1 | 3.3 | 2.0 | 1.6 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 3.65 | 1.7 | 1.1 | 0.01 緑 | 不透明 | |
| 95 | 016-22 | 粟玉 | 石英ガラス | 23 | 2.6 | 1.1 | 1.7 | 1.1 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.65 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 96 | 016-23 | 粟玉 | 石英ガラス | 23 | 3.0 | 1.4 | 1.8 | 1.0 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.4 | 1.1 | 1.0 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 97 | 016-24 | 粟玉 | 石英ガラス | 23 | 3.5 | 2.2 | 2.0 | 1.1 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 2.4 | 2.2 | 1.1 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 98 | 016-25 | 粟玉 | 石英ガラス | 23 | 3.6 | 2.25 | 2.0 | 1.1 | 0.04 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.5 | 2.3 | 1.8 | 1.1 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 99 | 016-26 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.0 | 1.7 | 2.2 | 1.3 | 0.07 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 2.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 100 | 016-27 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.3 | 1.4 | 1.8 | 1.2 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.4 | 2.4 | 1.9 | 1.1 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 101 | 016-28 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 2.5 | 1.5 | 2.0 | 1.1 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 102 | 016-29 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.0 | 1.9 | 1.6 | 0.9 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 3.05 | 1.7 | 1.1 | 0.01 緑 | 不透明 | |
| 103 | 016-30 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.2 | 2.05 | 2.0 | 1.3 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 2.4 | 2.2 | 1.1 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 104 | 017-01 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.5 | 1.8 | 1.3 | 1.0 | 0.03 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.2 | 1.5 | 1.1 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 105 | 017-02 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.0 | 1.7 | 1.7 | 1.1 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 106 | 017-03 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.3 | 1.4 | 1.8 | 1.2 | 0.02 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.2 | 1.7 | 1.1 | 0.03 緑 | 不透明 | |
| 107 | 017-04 | 粟玉 | 石英ガラス | 24 | 3.0 | 1.5 | 2.0 | 1.1 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | |
| 108 | 017-05 | 粟玉 | 石英ガラス | 25 | 3.4 | 2.3 | 2.0 | 1.1 | 0.01 青 | 半透明 | 石英ガラス</ | | | | | | | | |

| No. | 実測番号 | 種別 | 材質 | 出土グリッド | 最大径(cm) | 長さ(cm) | 平面径(cm) | 孔深(cm) | 重量(g) | 色調 | 備考 | 備考 |
|-----|--------|----|-------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|--------|-----|----|
| 192 | 019-29 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.7 | 1.6 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 193 | 019-30 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.6 | 1.0 | 0.02 緑 | | 不透明 | | |
| 194 | 020-01 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.7 | 2.0 | 1.2 | 0.02 水 | 半透明 | | |
| 195 | 020-02 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | | |
| 196 | 020-03 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.6 | 2.8 | 1.8 | 0.8 | 0.05 緑 | 不透明 | | |
| 197 | 020-04 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.0 | 1.4 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 198 | 020-05 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.9 | 2.1 | 1.9 | 1.2 | 0.03 水 | 半透明 | | |
| 199 | 020-06 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 1.7 | 1.7 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 200 | 020-07 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.4 | 1.3 | 1.0 | 0.03 緑 | 不透明 | | |
| 201 | 020-08 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 1.5 | 1.7 | 1.0 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 202 | 020-09 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.4 | 2.7 | 1.9 | 0.8 | 0.05 緑 | 不透明 | | |
| 203 | 020-10 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.7 | 2.1 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 204 | 020-11 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 2.7 | 2.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | | |
| 205 | 020-12 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.4 | 1.8 | 1.9 | 1.1 | 0.02 褐 | 半透明 | | |
| 206 | 020-13 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.4 | 1.7 | 1.2 | 0.05 緑 | 半透明 | | |
| 207 | 020-14 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.0 | 2.1 | 1.2 | 0.05 褐 | 半透明 | | |
| 208 | 020-15 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.5 | 3.2 | 2.0 | 1.2 | 0.02 緑 | 半透明 | | |
| 209 | 020-16 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.0 | 1.8 | 1.2 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 210 | 020-17 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.5 | 1.6 | 1.2 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 211 | 020-18 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.7 | 1.1 | 0.02 緑 | 不透明 | | | |
| 212 | 020-19 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.8 | 1.7 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 213 | 020-20 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.95 | 1.6 | 1.0 | 0.03 褐 | 不透明 | | |
| 214 | 020-21 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.7 | 1.7 | 0.9 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 215 | 020-22 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.4 | 1.9 | 1.7 | 1.1 | 0.03 緑 | 半透明 | | |
| 216 | 020-23 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.7 | 1.7 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 217 | 020-24 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.5 | 1.7 | 1.2 | 0.02 褐 | 半透明 | | |
| 218 | 020-25 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.7 | 1.7 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 219 | 020-26 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.75 | 1.7 | 0.9 | 0.01 褐 | 半透明 | | |
| 220 | 020-27 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.8 | 2.4 | 2.1 | 1.2 | 0.03 褐 | 半透明 | | |
| 221 | 020-28 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 2.05 | 2.0 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 222 | 020-29 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.6 | 1.7 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 223 | 020-30 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.3 | 1.6 | 1.1 | 0.01 褐 | 半透明 | | |
| 224 | 020-31 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 1.7 | 1.2 | 1.0 | 0.03 褐 | 不透明 | | |
| 225 | 021-02 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.7 | 2.2 | 1.8 | 1.2 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 226 | 021-03 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.6 | 1.6 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 227 | 021-04 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.8 | 1.7 | 1.2 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 228 | 021-05 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.7 | 1.1 | 0.01 褐 | 不透明 | | | |
| 229 | 021-06 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 2.6 | 1.8 | 1.2 | 0.03 緑 | 半透明 | | |
| 230 | 021-07 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.8 | 1.6 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 231 | 021-08 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.7 | 2.0 | 2.0 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 232 | 021-09 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.7 | 2.7 | 2.0 | 1.0 | 0.04 緑 | 半透明 | | |
| 233 | 021-10 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.9 | 1.6 | 1.0 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 234 | 021-11 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.8 | 1.7 | 1.0 | 0.03 褐 | 不透明 | | |
| 235 | 021-12 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.9 | 1.4 | 0.9 | 0.02 緑 | 不透明 | | |
| 236 | 021-13 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.6 | 1.5 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 237 | 021-14 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 2.0 | 2.5 | 1.0 | 0.02 褐 | 半透明 | | |
| 238 | 021-15 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 2.8 | 2.5 | 1.0 | 0.04 褐 | 半透明 | | |
| 239 | 021-16 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 1.8 | 1.8 | 1.0 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 240 | 021-17 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.2 | 2.05 | 1.5 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 241 | 021-18 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.6 | 2.4 | 1.7 | 1.1 | 0.03 褐 | 半透明 | | |
| 242 | 021-19 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.1 | 1.7 | 1.0 | 0.02 緑 | 不透明 | | |
| 243 | 021-20 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.3 | 1.8 | 1.6 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 244 | 021-21 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.0 | 1.6 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 245 | 021-22 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.7 | 2.0 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 246 | 021-23 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 1.7 | 1.7 | 1.1 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 247 | 021-24 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 1.8 | 1.6 | 1.2 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 248 | 021-25 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.1 | 1.7 | 1.0 | 0.02 褐 | 半透明 | | |
| 249 | 021-26 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.0 | 2.0 | 1.6 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 250 | 021-27 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.7 | 1.7 | 1.1 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 251 | 021-28 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.15 | 1.9 | 1.6 | 1.2 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 252 | 021-29 | 粟玉 | 石英ガラス | 37 | 3.1 | 1.9 | 1.7 | 1.0 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 253 | 021-30 | 粟玉 | 石英ガラス | 41 | 2.9 | 2.9 | 1.8 | 1.2 | 0.04 濃青 | 半透明 | | |
| 254 | 021-31 | 粟玉 | 石英ガラス | 41 | 3.6 | 2.5 | 1.9 | 1.1 | 0.04 緑 | 不透明 | | |
| 255 | 022-02 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 4.1 | 2.7 | 1.9 | 0.9 | 0.05 緑 | 不透明 | | |
| 256 | 022-03 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.8 | 1.6 | 1.0 | 0.02 褐 | 半透明 | | | |
| 257 | 022-04 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.1 | 1.8 | 1.3 | 1.0 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 258 | 022-05 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.1 | 1.8 | 1.8 | 1.0 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 259 | 022-06 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.2 | 1.9 | 1.7 | 1.1 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 260 | 022-07 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.1 | 2.7 | 1.5 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | | |
| 261 | 022-08 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.6 | 2.3 | 2.3 | 1.9 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 262 | 022-09 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.2 | 3.0 | 2.0 | 1.6 | 1.0 | 0.04 緑 | 不透明 | |
| 263 | 022-10 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.0 | 1.9 | 1.5 | 1.1 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 264 | 022-11 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.0 | 1.5 | 1.7 | 1.1 | 0.01 褐 | 不透明 | | |
| 265 | 022-12 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.2 | 1.7 | 1.6 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |
| 266 | 022-13 | 粟玉 | 石英ガラス | 42 | 3.1 | 2.2 | 1.8 | 1.0 | 0.02 褐 | 不透明 | | |

表5 3号墳玉類観察表②

X　まとめ

古墳の造営時期と順序　浅子谷古墳群高尾北支群は、調査の結果從来の3基から10基の古墳群であることが判明した。であれば、この10基の築造時期及び築造の順について考えてみたい。3基の径10mを越える横穴式石室墳を中心に、残る7基を合わせて試みる。

古墳群の築造期間は、出土した須恵器から6世紀後葉から7世紀前葉の間と考えられる。その中で、最も早い築造は出土遺物から3号墳と考える。まず、3号を造り、それに伴うように6号、8号と造っていったのであろう。6号は出土須恵器から3号に次ぐ時期をあてられよう。TK10並行^①とみる。8号には土器はないが、6号同様に地形に即した石室軸の設定と、ゆとりある占地から6号と前後する時期とみる。築造集団の祖とも言うべき初代の墳墓といえる。ついで、2号が造られた。石室規模及び、少ないながら出土した須恵器から1号に先行するものと考えられる。2号の石室規模は伊賀盆地でも十指に入るような規模である。しかし、3号、8号が既にあったためやむを得ず緩斜面の隙間に占地したものであろう。結果として高位に位置してはいるが、周溝の西端が緩斜面からさらに西方の急斜面にも拡がつていると推定されることや、3号の周溝が幅広く造られているのに較べ狭いことなどから、そのような推定ができる。2号に伴うとみられるものは9・10号であろうか。石室方向と古墳の配置からそのように考えたい。

最後には1号が造られた。2号と6号に影響を受け窮屈な占地を余儀なくされたものであろう。出土遺物も、羨道部出土であるがTK217並行期^②と考えられるため、2号よりも新しいと考えた。立地的には緩斜面北端で最高所とはいいうものの、周溝の掘削もままならないような場所である。1号と前後して4号、5号が造られたとみる。4・5号は出土した須恵器がTK217並行期^③とみられ、ほぼ近い時期に造られているといえよう。

残る7号であるが、出土遺物に土器類がないため詳細な時期は決しがたい。主体部に敷石が施されて

いること、その軸方向が1・2号には合わないことから3号に関連するものという見方ができようか。

以上のことから、築造順は3号、6・7・8号、2号、9・10号、1号、4・5号と考える。

浅子川の古墳群　浅子川は断層崖を南流し柘植川に合流する小河川である。断層崖を浸食して開析谷をつくり何箇所かのごく小さな扇状地を形成した。この河川に沿っていくつかの古墳が造られている。その中で浅子谷古墳群高尾北支群の位置づけを考えみたい。

柘植川沿岸には位置と環境の章でもふれたように、4世紀前半の東山古墳に始まり、北岸の河岸段丘上を中心に前期から中期にかけて古墳が築造される。三田地区周辺でも、山神寄建神社古墳や北門古墳など5世紀代の古墳が確認されている。6世紀に入ると、これらの首長墓を造営した集団が、北岸段丘崖を開析した小河川沿いに分かれて、それぞれの墓域に横穴式石室墳を造り始め、古墳群が形成される。浅子谷古墳群高尾北支群はこうして形成された古墳群のひとつであろう。浅子川を遡り、分水嶺近くの最上流部に位置している。浅子川には時期の推定できる古墳で6世紀代と考えられる古墳がもう一基ある。それは山間から扇状地形に出るところにあった「三田神社横円墳」で、現在は消滅した漆原古墳ではないかと考えられている。調査はされていないが、出土したと推定される遺物が上野市史に紹介されており、6世紀代と位置づけられている。この古墳と今回の浅子谷3号墳が、6世紀代に入るものである。浅子川での造墓活動はこの2つの横穴式石室墳から始まり、それぞれの場所で展開していくものであろう。当群でも7世紀前半頃までの造墓活動があり、4号墳では8世紀初頭とみられる土師器が出土していることから、そのころまで墓として使われていたことを示している。当群の南300mほどにある浅子谷古墳群高尾南支群は、時期は判然としないが9基の横穴式石室墳が確認されている。当群と大差ない時期に営まれたものと考えて差し支えなかろう。さらに南に下って、前述の漆原古墳を含む三田神社古墳

群の範囲内からは7世紀末から8世紀初頭頃の遺物が採集されており、古墳群への追葬に伴う可能性が指摘されている。

5世紀代には山神寄建神社古墳や北門古墳のような首長墓を営んだ集団が、一族墓としての群集墳を造営するようになっていく様子が窺える。

山神寄建神社古墳のある山神地区には小河川はないが、尾根づたいに塔の峯古墳群に至る。北門古墳のある大谷地区には、大谷川中流に3基の小屋谷古墳群があり、大谷川をさらに登ると向峰登知ヶ久保古墳群に至る。築造適地が無いわけではないが、大谷川周辺には古墳群は余り築かれず、山間部に墓域を求めている。このように、各地区では最奥部に古墳群を造営する。対して浅子川では、最奥部ではなく、流域の3カ所に大きく分かれて群をなしている様子が窺える。このことは、集団内の勢力が浅子川を重要視していたことにはならないだろうか。浅子川が柘植川北岸の阿波郡内でも広い平野部を有していることと無関係ではないだろう。古墳造営終了後の新時代に白鳳寺院が三田郷に置かれたことは、こうした勢力図があったことが背景となっているものと考える。

浅子川に分かれた集団の中では、最も奥の狭小な緩斜面に造墓を余儀なくされるとみられること。径10mを越える横穴式石室墳が3基と少ないことなどから、この集団の中では低位に位置していたのであろう。ただ、2号、3号の石室規模は伊賀盆地でも相応の大きさを持っていることを注目しておきたい。

〔註〕

①②③ 田辺昭三『陶邑古窯址群I』平安学園考古クラブ 1966及び 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981
参考文献 伊賀市『上野市史 考古編』 2005

横穴式石室研究会『研究集会近畿の横穴式石室』
2007

写 真 図 版



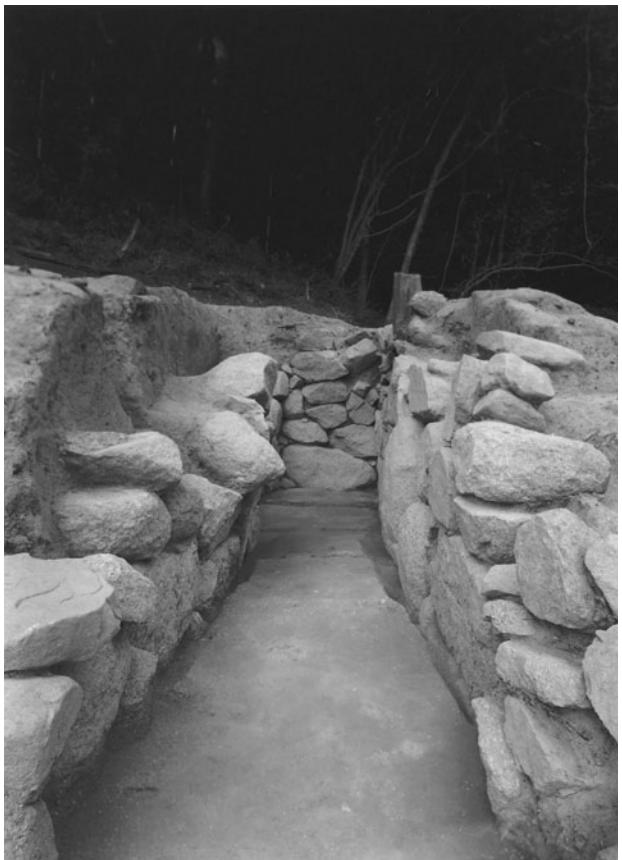
写10 1号・6号・7号・8号全景



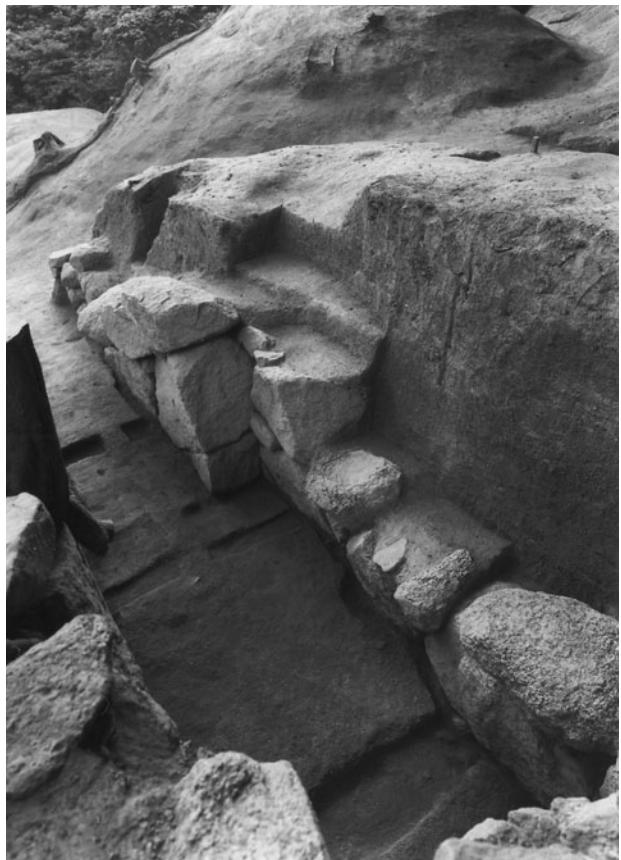
写11 1号墳調査前



写12 1号墳石室土層断面



写13 1号墳玄室



写14 1号墳右側壁



写15 1号墳左側壁



写16 1号墳外護列石



写17 1号墳羨道部遺物出土状況



写18 1号墳玄室鉄釘出土状況



写19 1号墳羨道部須恵器出土状況



写20 1号墳羨道部耳環出土状況



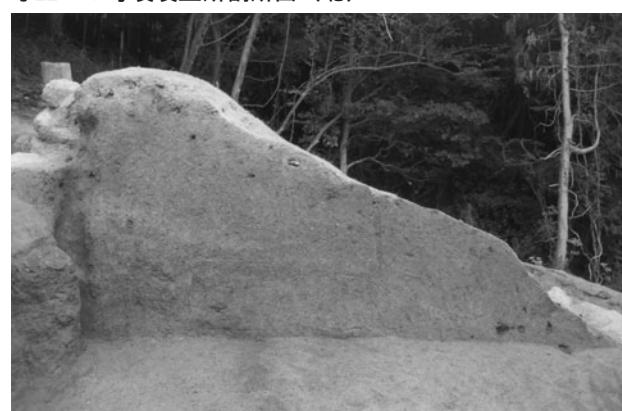
写21 1号墳周溝断面（西）



写22 1号墳墳丘断割断面（北）



写23 1号墳墳丘断割断面（西）



写24 1号墳墳丘断割断面（東）



写25 1号墳全景



写26 2号墳調査前



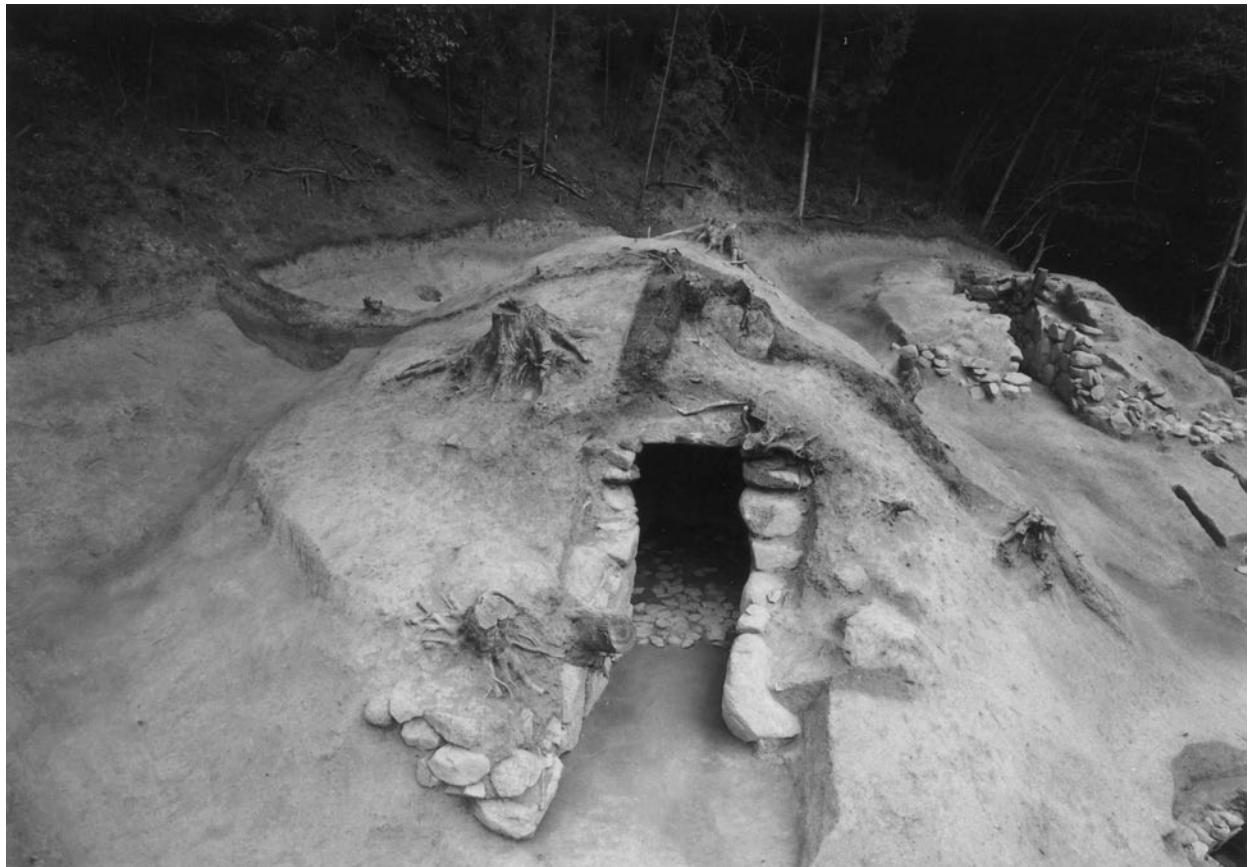
写27 2号墳調査風景



写28 2号墳周溝断面（北）



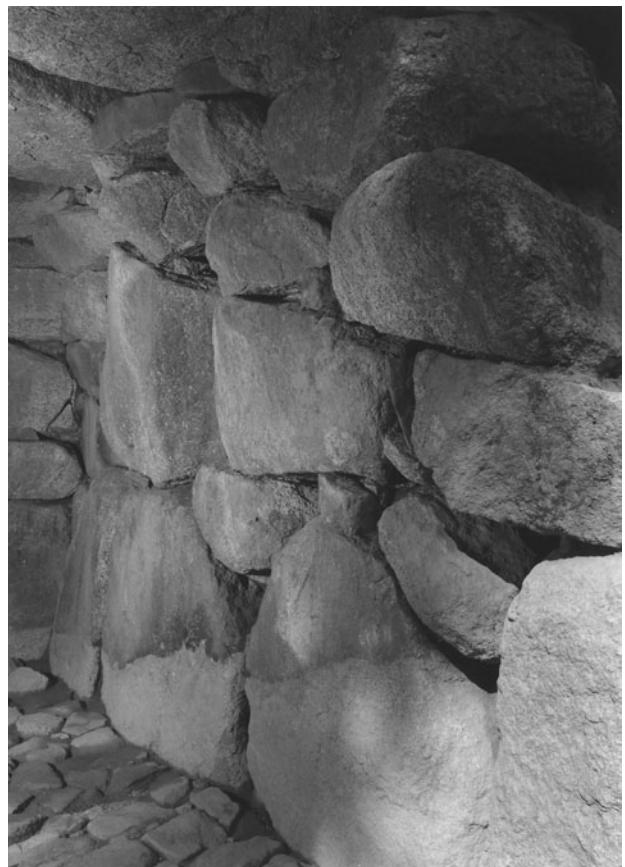
写29 2号墳石室堆積状況



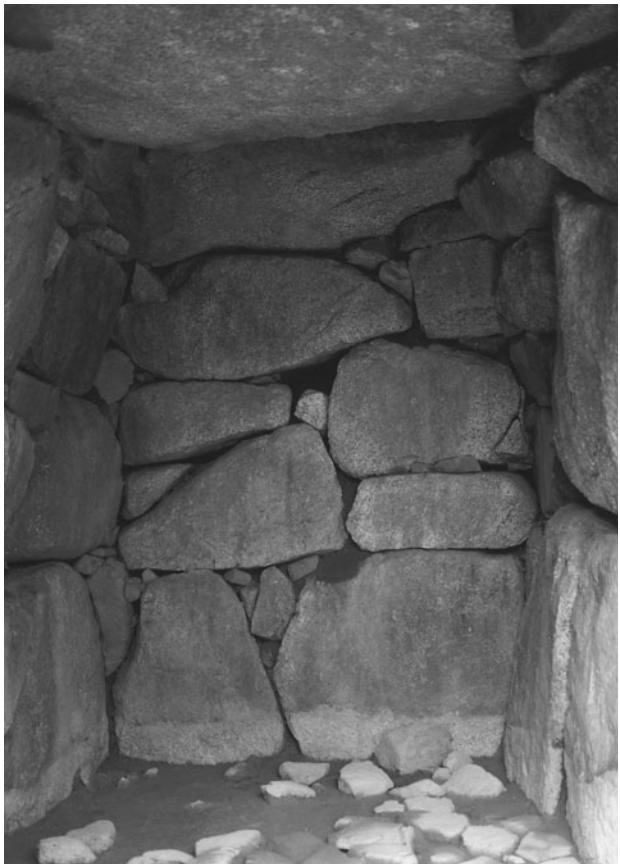
写30 2号墳全景



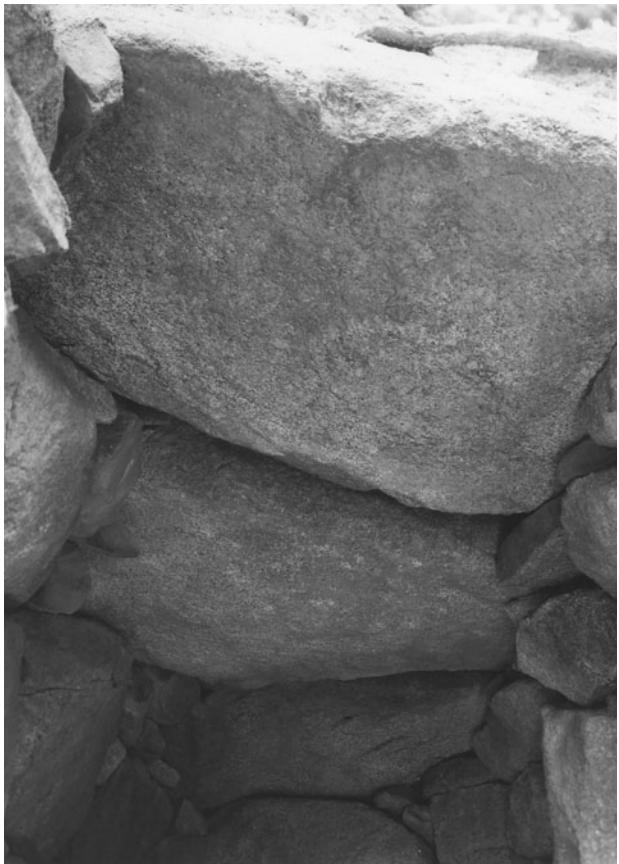
写31 2号墳右側壁



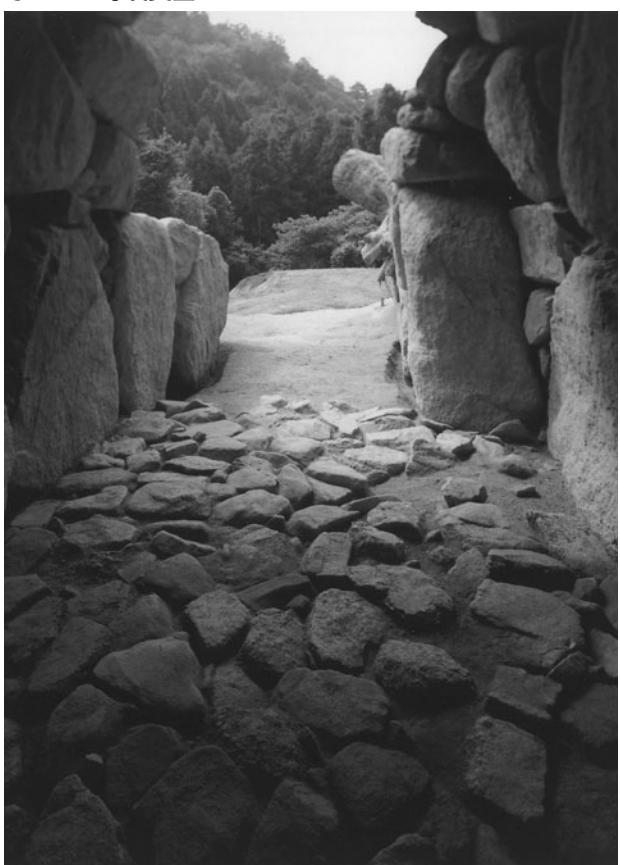
写32 2号墳左側壁



写33 2号墳奥壁



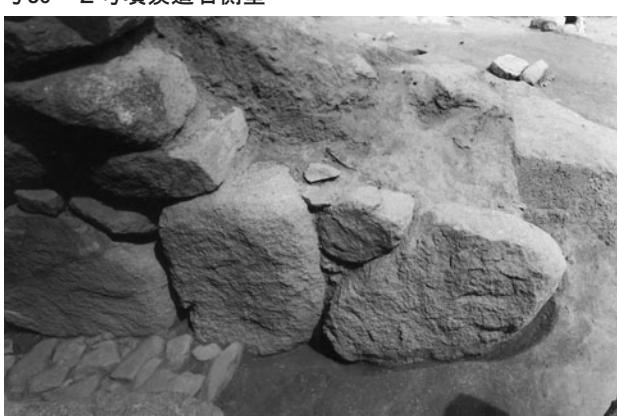
写34 2号墳天井



写35 2号墳敷石と袖部



写36 2号墳羨道右側壁



写37 2号墳羨道左側壁



写38 2号墳全景



写39 3号墳調査前



写40 3号墳石室入口調査前



写41 3号墳羨道部土層縦断面



写42 3号墳墳丘表土除去後



写43 3号墳全景表土除去後（正面から）



写44 3号墳周溝断面（西）



写45 3号墳周溝断面（北）



写46 3号墳羨道部土層横断面



写47 3号墳石室内調査前



写48 3号墳石室内作業風景



写49 3号墳羨道部石積



写50 3号墳玄室内土師器甕出土状況



写51 3号墳左側壁付近須恵器出土状況



写52 3号墳右側壁付近土師器高杯出土状況



写53 3号墳墳丘掘方確認トレンチ



写54 3号墳墳丘掘方確認トレンチ断面



写55 3号墳玄室全景



写56 3号墳玄室床面



写57 3号墳全景（南西から）



写58 4・5号墳全景



写59 4号墳石室全景



写60 4号墳石室内崩落状况



写61 4号墳石室掘削状况



写62 4号墳奥壁



写63 4号墳石室内遺物出土状況



写64 4号墳右侧壁



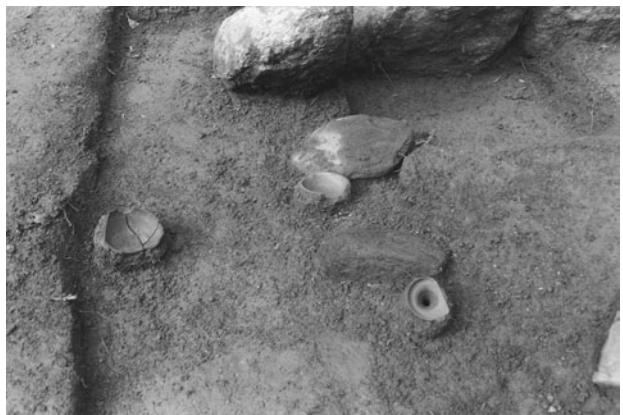
写65 4号墳左侧壁



写66 5号墳全景



写67 5号墳奥壁



写68 5号墳遺物出土状況



写69 5号墳右侧壁



写70 5号墳左侧壁



写71 6号墳石室全景



写72 6号墳全景



写74 7号墳石室全景



写75 8号墳天井石



写76 8号墳石室全景



写77 8号墳全景



写78 8号墳石室内



写79 溝SD1全景



写80 溝SD1近景



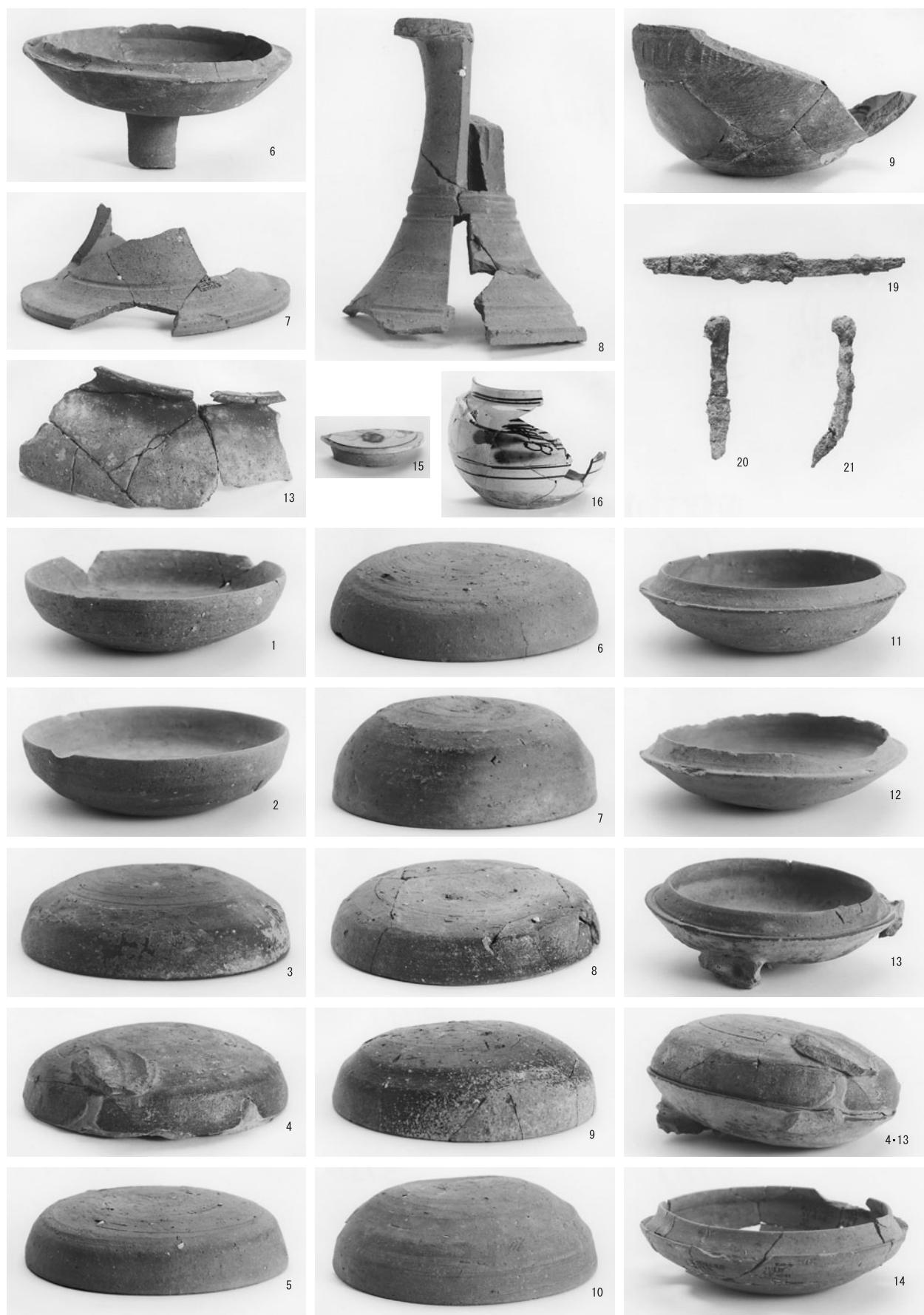
写81 9号墳全景



写82 10号墳全景



写83 1号墳・2号墳出土遺物



写84 2号墳・3号墳玄室出土遺物



写85 3号墳玄室出土遺物



写86 3号墳出土遺物



写87 4号墳・5号墳出土遺物



写88 6号墳・7号墳・8号墳・その他出土遺物

報 告 書 抄 錄

| ふりがな | あさこだにこふんぐんたかおきたしへんはっくつちょうさほうこく | | | | | | | |
|--|--|-------|---------------------|--|--------------------|-----------------------------|---------------------|---------------|
| 書名 | 浅子谷古墳群高尾北支群発掘調査報告 | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 三重県埋蔵文化財報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 331 | | | | | | | |
| 編著者名 | | | | | | | | |
| 編集機関 | 三重県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL0596-52-1732 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2012年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| あさこだにこふんぐんたかおきたしへん | いがしみたあざたかお | 24216 | a1248 ～ a1257 | 34度 48分 17秒 | 136度 48分 18秒 | 2008/10/3 ～ 2009/9/15 | 1,249m ² | 国道422号線三田坂B P |
| 浅子谷古墳 高尾北支群 | 伊賀市三田字高尾 | | | | | | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 浅子谷古墳群 高尾北支群 1号～10号 | 古墳 | 古墳時代 | 横穴式石室 | 土師器・須恵器 鉄鎌・鉄釘・刀子 ガラス製粟玉・水晶 製切子玉 | | 遺物出土量 28箱・25.67kg | | |
| 要約 | | | | | | | | |
| 横穴式石室を持つ墳丘直径10m余りの円墳3基を中心に、その周辺から7基の小石室を持つ古墳が検出された古墳群。 | | | | | | | | |

三重県埋蔵文化財調査報告

浅子谷古墳群高尾北支群発掘調査報告

2012年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 光出版印刷株式会社